Girls with
Cameras
A Pictorial Book

COVER ILLUSTRATION: HANAHARU NARUCO
http://hanaharu.cool.ne.jp/
COVER DESIGN : KAZUO MIYAMURA
http://www.5-gas.com

Girls with Cameras/
A Pictorial Book

カメラ少女日和

メガミマガジン編集部 編

GAKKEN

Girls with Cameras/A Pictorial Book カメラ少女日和 メガミマガジン編集部 編 GAKKEN

9784054047228

ISBN978-4-05-404722-8
C0076 ¥1895E
1340472200

1920076018954

定価：本体1,895円
※税が別に加算されます。

カメラ少女日和

GIRLS WITH
CAMERAS
A PICTORIAL
BOOK

Girls with Cameras/A Pictorial Book

Girls with Cameras/
A Pictorial Book

メガミマガジン編集部 編 GAKKEN

Girls with Cameras/
A Pictorial Book

Illustrators*

甘塩コメコ／文倉十／ＩNO／いるも晴章／尾崎弘宜／緒方剛志／片瀬優／久坂宗次
黒鷲／ＫＥＩ／こうたろ／JohnHathway／しろ／双／田上俊介／髙木信孝／高野音彦
たかみち／滝川悠／ＴＯＫＩＡＭＥ／長澤真／七草／鳴子ハナハル／ニリツ／白亜右月
はら／緋色雪／ふゆの春秋／方密／ｂｏｍｉ／松本規之／珠月まや／碧風羽／皆村春樹
ゆーげん／ｒａｔｏ／redjuice／refeia／煉瓦

カメラ少女日和　1340472200

Girls with Cameras/A Pictorial Book カメラ少女日和

メディアファクトリー編集部 編 GAKKEN

カメラ少女日和

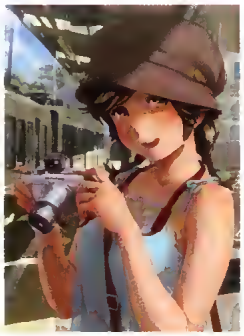
GIRLS WITH CAMERAS A PICTORIAL BOOK

LUMIX

OLYMPUS

M9

COVER & PINUP ILLUSTRATOR



オリンパス　ペンライト E-PL1

鳴子ハナハル　http://hanahalu.cool.ne.jp

▶ 所有デジタルカメラ
オリンパス ペンライト E-PL1、キャノン IXY DIGITAL 930 IS、サンヨー Xacti OMX-CG11

▶ イラストのコンセプト
特にこだわって描いたところ：コニカ HEXANON レンズ　　イラストのポイント：電車

▶「カメラ少女日和」の感想
勉強になりました。でも撮る方が難しい……。

パナソニック　ルミックス LX5

たかみち　http://www.amy.hi-ho.ne.jp/takamichi/

▶ 所有デジタルカメラ
現在主に使用しているもの：パナソニック LUMIX GH1、パナソニック LX3、ソニー Cyber-shot TX5、ニコン COOLPIX S10
その他：キャノン EOS KissX2、キャノン EOS KissDN、キャノン IXYDIGITAL40、パナソニック TZ7、パナソニック FX35、ソニー Cyber-shot WX1、ソニー Cyber-shot W1、ソニー Cyber-shot U50、ソニー Cyber-Shot F1、コダック V705、コダック V570、コダック DC4800、カシオ QV-2900UX、カシオ EXILIM S1、カシオ QV30、カシオ QV10、サンヨー Xacti J4、サンヨー MZ3、オリンパス CAMEDIA C-750

▶ イラストのコンセプト
南国リゾートの夕食撮り、少し行儀が悪いかなと思いつつも撮影している女の子の様子です。
旧型と同様にレンズバリアの無いキャップ式なので忘れずに描きました。

▶「カメラ少女日和」の感想
デジカメを絡めたイラストの仕事は、個人的にもイラストコラムでやっていた時期があったので好きです。
手元に無い最新機種を描くのは気を遣いました。

ソニー　サイバーショット TX5

こうたろ　http://www.din.or.jp/~got/

▶ 所有デジタルカメラ
ペンタックス　Optio

▶ イラストのコンセプト
イラストのオーダーが「カメラが防水仕様だから水辺を絡めたい」との事でしたので、水辺で写真を撮ってはしゃいでいる娘です。
本当は透け乳首をやりたかったのですが本誌の傾向上自粛しました（笑）

▶「カメラ少女日和」の感想
実在のアイテムの売り部分を意識して絡めた絵を描くというのは初めてでしたので、とても楽しかったです。
またの機会がございましたら宜しくお願いします。

ライカ　M9

redjuice　http://redjuicegraphics.com

▶ 所有デジタルカメラ　パナソニック　LUMIX GF1、ソニー Cyber-shot H50、ペンタックス Optio H90

▶ イラストのコンセプト
目が飛び出るほど高級なカメラであるライカ M9 ですが、想定される用途はスタジオではなく、タフなフィールドカメラマン用。M9 を持って野山を駆け回るドイツの田舎少女、というイメージです。絵としてのコンセプトは、「写真の空気感を纏ったイラスト」です。物体としての立体感ではなく、奥行きや色情報が、レンズやセンサを通したときにどのように見えるか？というのをカメラを基準にして考えました。イラストを描く時には普段はあまり使わない、被写界深度や、狭いダイナミックレンジを意識しています。

▶「カメラ少女日和」の感想
カメラはまったくの初心者なのですが、今回、とても勉強になりました。しかも、テーマがライカのフラッグシップモデルである M8。みんなの憧れ。軽い気持ちで間違ったものを描いてしまうとカメラファンから厳しいツッコミを受けること必至と思われたので、プロのカメラマンの方に実機を見せてもらい、M9 で撮影した写真やライカについてのお話を伺いました。ただそこにあるだけのペリエの瓶が、シャッターを切っただけですばらしいアートになった瞬間を見たとき、今まで自分が知っていたデジカメの概念が吹き飛びました。フォトショップを使わずにこれほどの表現力を持った絵が瞬時に記録される、というのは衝撃でした。（ライカ M9 取材協力：高橋ヒデキ）

ソニー サイバーショット TX5

●有効画素数／約 1020 万画素 ●撮像素子／ 1/2.4 型 CMOS ●レンズ／ 25 ～ 100 ミリ相当 F3.5-4.6 ●手ブレ補正／レンズシフト式 ●シャッター速度／ 1/1600 ～ 2 秒 ● ISO 感度／ 125 ～ 3200 ●液晶モニター／ 3.0 型 23 万ドット ●メモリーカード／ MS Duo/PRO Duo/PRO-HG Duo、SDHC、SDXC ●電源／専用充電池 ●電池寿命／約 250 枚 ●大きさ／ 94 × 56.9 × 17.7 ミリ ●重さ／ 128 グラム

ライカ M9

●有効画素数／約 1800 万画素 ●撮像素子／ 36 × 24 ミリ CCD センサー ●レンズ／ライカ M マウント ●手ブレ補正／なし ●シャッター速度／ 1/4000 ～ 8 秒、バルブ ●ファインダー倍率／約 0.68 倍 ● AF 測距点／なし ●連写速度／約 2 コマ / 秒 ● ISO 感度／ 80 ～ 2500 ●液晶モニター／ 2.5 型 23 万ドット ●メモリーカード／ SDHC ●電源／専用充電池 ●大きさ／ 139 × 80 × 37 ミリ ●重さ／ 585 グラム

※オリンパス　ペンライト E-PL1 の上位モデル、ペン E-P2 の紹介は 38 ページ、パナソニック　ルミックス LX5 の紹介は 72 ページを参照ください。

CONTENTS

巻頭特別綴じ込み

人気カメラ×美少女ピンナップ 01

たかみち（パナソニック　ルミックス -LX5）
鳴子ハナハル（オリンパス　ペンライト E-PL1）
こうたろ（ソニー　サイバーショットTX5）
redjuice（ライカ　M9）

萌えて身に付くデジ1撮影テクニック 86

カッコ良く写真を撮るためのデジタル一眼レフの基本的な使い方がよく分かる。
被写体別撮影のコツも実例を交えて丁寧に解説！

マンガ「はじめてのカメラ選び」高木信孝 93

一眼レフ、ミラーレス、コンパクト……いろいろあって、
どのカメラを買ったらいいかわからない、というあなたに！　カメラの選び方をマンガでアドバイス。

『瞳のフォトグラフ』作者・GUNPインタビュー.....99

デジタルカメラを始めたばかりの女子高生を主人公に、カメラの魅力を描くマンガ『瞳のフォトグラフ』。
作者のGUNP氏にロングインタビュー。

デジタル一眼ビジュアル用語解説.....104

「はにゃ？　AFってな～に?」という方のために、カメラの専門用語を、写真付きで分かりやすく解説。
カメラの解説ページを読んで分からない言葉が出てきたら、ここを見てみよう。

イラストレーター紹介.....108

「少女とカメラカタログ」で、素敵なカメラ少女を描いていただいたイラストレーターの方々をご紹介。
所有しているデジタルカメラも教えていただいた。

カ　メ　ラ　少　女　日　和

少女とカメラカタログ 12

14	K-x	ペンタックス	ふゆの春秋
16	D5000	ニコン	KEI
18	E-620	オリンパス	皆村春樹
20	EOS Kiss X4	キヤノン	松本規之
22	α 550	ソニー	白亜右月
24	K-7	ペンタックス	碧風羽
26	EOS 7D	キヤノン	refeia
28	D300s	ニコン	緒方剛志
30	EOS 5D マークⅡ	キヤノン	INO
32	ルミックス GF1	パナソニック	双
34	NEX-5	ソニー	髙木信孝
36	ルミックス G2	パナソニック	煉瓦
38	ペン E-P2	オリンパス	JohnHathway
40	エクシリム EX-Z2000	カシオ	片瀬優
42	IXY 400F	キヤノン	久坂宗次
44	クールピクス S6000	ニコン	甘塩コメコ
46	ルミックス FX70	パナソニック	ニリツ
48	μ TOUGH-6020	オリンパス	方密
50	ファインピックス Z800EXR	フジフイルム	尾崎弘宜
52	サイバーショット WX5	ソニー	黒鷲
54	オプティオ W90	ペンタックス	いるも晴章
56	ザクティ DMX-CA100	サンヨー	はら
58	パワーショット D10	キヤノン	田上俊介
60	クールピクス S1100pj	ニコン	rato
62	パワーショット G11	キヤノン	ゆーげん
64	ファインピックス REAL 3D W3	フジフイルム	七草
66	パワーショット S95	キヤノン	文倉十
68	GR デジタルⅢ	リコー	滝川悠
70	GXR	リコー	珠月まや
72	ルミックス LX5	パナソニック	たかみち
74	DP2 s	シグマ	緋色雪
76	X1	ライカ	TOKIAME
78	VQ1015R2	ビスタクエスト	長澤真
80	EZ F521	ヤシカ	しろ
82	ViViCam5050	ビビター	高野音彦
84	ローライフレックス MiniDigi AF5.0	ローライ	bomi

少女とカメラカタログ

GIRLS & CAMERAS

Girls with Cameras / A Pictorial Book

CAMERA SHOJO BIYORI

カメラ少女日和

本書の特長

本書は１見開きでデジタルカメラ１モデルを紹介。美麗なカメラ少女のイラストと、製品の魅力を徹底解説したレビューで構成した。このページではデータのアイコン表示と誌面の特長を解説する。

Data

各 Category ごとに Spec からピックアップしたデータを紹介。配置は下記のとおり。

一眼レフ

- 画素数＆撮像素子
- 連写速度
- 液晶モニター
- AF 測距点
- 手ブレ補正
- 大きさ（幅×高さ×奥行き）
- ライブビュー
- 重さ（ボディのみ）

ミラーレス

- 画素数＆撮像素子
- 液晶ビューファインダー
- 液晶モニター
- 連写速度
- 手ブレ補正
- 大きさ（幅×高さ×奥行き）
- 動画サイズ
- 重さ（ボディのみ）

コンパクト

- 画素数＆撮像素子
- 最短撮影距離
- レンズ焦点距離＆開放Ｆ値
- 動画サイズ
- 液晶モニター
- 大きさ（幅×高さ×奥行き）
- 手ブレ補正
- 重さ（ボディのみ）

トイ

- 画素数＆撮像素子
- 最短撮影距離
- レンズ焦点距離＆開放Ｆ値
- 動画サイズ
- 液晶モニター
- 大きさ（幅×高さ×奥行き）
- 手ブレ補正
- 重さ（ボディのみ）

Performance

機種の特性を５項目・５段階のレーダーチャートで表示。
各項目の評価基準は以下のとおり。

価　格……コストパフォーマンスを評価。
機能性……装備している機能の豊富さを評価。
先進性……他の機種に見られない特長の有無を評価。
軽快さ……重量やサイズ、持ちやすさを評価。
拡張性……交換レンズやオプション品の豊富さを評価。

Spec

ISO 感度やシャッター速度など機能を知るうえで特に重要なスペックを表示。

Category

「一眼レフ」「ミラーレス」「コンパクト」「トイ」の４種類にカテゴライズした。

Illustration

豪華イラストレーター陣によるカメラと少女のコラボレーションイラスト。イラストの下には、作画を担当したイラストレーターの名前と、イラストのコンセプトやポイントなどについて語っていただいたコメントを掲載。

Point

カメラの特筆すべき特長を、写真とあわせて紹介。

■ ペンタックス

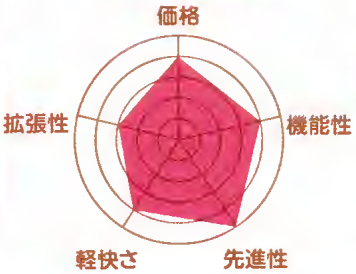
K-x

遊び心を刺激する高性能なエントリー機

Data

1240万画素CMOS	連写速度4.7コマ/秒
2.7型23万ドット液晶	AF測距点11点
手ブレ補正ボディ側	122.5×91.5×67.5㎜
ライブビュー動画あり	515g

Performance



Spec

▶有効画素数 約1240万画素 ▶撮像素子 23.6×15.8㎜、CMOSセンサー ▶手ブレ補正 センサーシフト式 ▶シャッター速度 1/6000～30秒、バルブ ▶ファインダー視野率 約96% ▶ファインダー倍率 約0.85倍 ▶AF測距点 11点 ▶連写速度 約4.7コマ/秒 ▶ISO感度 100～12800 ▶液晶モニター 2.7型23万ドット ▶メモリーカード SDHC ▶電池寿命 約1100枚(リチウム電池) ▶大きさ 122.5×91.5×67.5㎜。▶重さ 515g

発売／2009年10月16日
参考価格／約5万4000円(レンズキット)、約6万4000円(ダブルズームキット)
問い合わせ／ペンタックスフォトイメージング 0570・001313

豊富なカラバリも魅力の高コストパフォーマンス機

ペンタックス「K-x」は、高機能モデルながら、お買得価格がうれしい入門機。有効1240万画素のCMOSセンサーを搭載し、新画像処理エンジン「PRIME II」を採用。連写速度は最高秒間4・7コマ、シャッター速度も1／6000秒まで設定可能と、入門機としては高速だ。

ライブビュー機能も搭載されており、最大16人まで対応する顔検出AFも可能。そのほかに、11点測距の高速AF、レンズ収差補正、画像合成によりダイナミックレンジを拡大するHDR撮影、新ホワイトバランス「CTE」モードなど、同社の上位機「K-7」に匹敵する多彩な機能を備えている。また、ハイビジョン動画撮影も楽しめる。

わかりやすい操作系も特徴で、ほとんどの操作ボタンやダイヤルが右手側に集中しており、携帯電話の感覚に近いワンハンド操作が可能。液晶モニターの表示は、カメラの設定状況がひと目で把握できる「ステータススクリーン」と、機能をダイレクトに設定できる「コントロールパネル」とに切り替えられる。搭載している機能は多いが、メニューを呼び出さずにさまざまな設定を変更できる。

おなじみの「デジタルフィルター」のような〝遊びゴコロ〟を刺激するユニークな機能も満載。新たに採用されたのが「クロスプロセスモード」。本来は、通常と異なる現像処理を行って、独特な色に変化させるフィルム現像のことを指すが、デジタル処理によって、同じ被写体と状況でも、撮影するたびに仕上がりが次々と変化する。これは理屈抜きに楽しい。

価格が安く、ボディカラーも豊富。初めて手にする一眼レフとして、ぴったりの一台といえる。

Point

よく使う機能を設定できるグリーンボタン

シャッターボタン脇のグリーンボタンは、通常はプログラムシフトなどの調整中の値をリセットする役割だが、機能を変更することもできる。「デジタルフィルター」など、よく使う機能を割り当てておくと便利だ。

右手側にボタンとダイヤルが集中していて使いやすい

メニューボタンや再生ボタンが右側に集中していて、片手でも操作しやすい。前機種「K-m」にはなかったライブビュー機能が加わったため、専用ボタンが新たに追加された。動画撮影機能も搭載。

なんと！ 100種類のカラーパターンが選べる

レギュラーカラーはブラック、ホワイト、レッドの3色だが、驚きはオーダーカラー。ボディカラー20色とグリップ5色の組み合わせにより、100パターンから選べるのだ。注文生産のため入手まで2週間程度かかるが、価格はレギュラーカラーと同じなのがよい。

Illustration ふゆの春秋

「秋を写真に収める」をテーマに描いてみました。木漏れ日を平面的に描けたらと思いましたが、うまくいきましたでしょうか。

■ ニコン

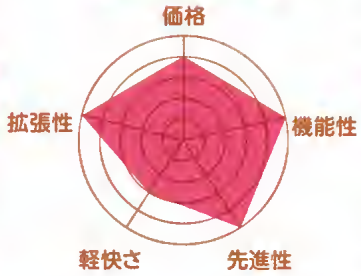
D5000

上位機の基本性能を受け継いでパワーアップ

Data

1230万画素CMOS	連写速度4コマ/秒
2.7型23万ドット可動式液晶	AF測距点11点
手ブレ補正レンズ側	127×104×80㎜
ライブビュー動画あり	560g

Performance



Spec

▶有効画素数 約1230万画素 ▶撮像素子 23.6×15.8㎜ CMOSセンサー ▶手ブレ補正 レンズシフト式 ▶シャッター速度 1/4000～30秒、バルブ ▶ファインダー視野率 約95% ▶ファインダー倍率 約0.78倍 ▶AF測距点 11点 ▶連写速度 約4コマ/秒 ▶ISO感度 100～6400 ▶液晶モニター 2.7型23万ドット可動式 ▶メモリーカード SDHC ▶電池寿命 約510枚 ▶大きさ 127×104×80㎜ ▶重さ 560g

発売／2009年5月1日
参考価格／約6万5000円(ボディ)、約6万円(レンズキット)、約7万5000円(ダブルズームキット)
問い合わせ／ニコンお客様相談室 0570・02・8000

可動式液晶モニター搭載の高機能エントリー機

1230万画素CMOSセンサー、測光などに使われる420分割RGBセンサー、11点測距AF、動画撮影機能（Dムービー）など、上位機「D90」の高スペックをまるごと引き継いだ高機能な入門機。秒間4コマの連写機能、10万回の耐久性を持つシャッターなど、基本性能も向上している。

簡単撮影機能もパワーアップ。特にシーンモードは19種類と大きく増えた。これだけ増えるとモードダイヤルに入りきらないので、液晶モニターを用いて設定する。

ボディ内画像編集機能としては、ソフトフィルター効果などが新たに加えられ、撮影後の編集機能がより多彩になっている。もちろんカメラ内RAW現像機能も引き続き搭載。パソコンなしで好みの設定を行い、JPEGにすることができる。また、前機種には未搭載だったニコン共通の仕上がり設定「ピクチャーコントロール」も加わり、画作りの点でも上位機種とそろった。

ニコンの一眼レフでは初搭載となるのが、2軸可動式のフリーアングルモニター。特にユニークなのがヒンジの位置で、ボディの下辺中央部にある。横に開くタイプよりもレンズと視線の軸ズレが小さく、また、手持ち撮影でホールディングを妨げないので非常に使いやすい。ただし、三脚を使う際は、雲台と干渉する場合がある。特に縦位置では、小さな雲台を使う必要があるので注意したい。

ライブビュー撮影には、ターゲット追尾AFが加わった。被写体をロックオンすると、おもしろいように追尾する。一度画面から外れても、戻ってくれば再追尾が可能。

エントリー機としては多少大柄に感じるが、多彩な機能が魅力のモデルといえるだろう。

Point

19種類のシーンモードを搭載

便利なシーンモードは、何と19種類。ダイヤル上に記載しきれないので、「桜」「料理」「夕焼け」などの新モードは、ダイヤルを「SCENE」に合わせてメニューで設定する。被写体別だけでなく、「シルエット」や「ハイキー」などの高度な表現も可能。

「ターゲット追尾」が追加されたライブビュー機能

独立した「Lv（ライブビュー）ボタン」もマルチセレクター上に配置。このボタンを押せば、即座にライブビューモードに移行する。ライブビュー時のAFでは、ノーマルエリア、ワイドエリア、顔認識に加え、新たにターゲット追尾AFモードも搭載された。

ヒンジがボディ下部にあるユニークな可動式モニター

モニターのスペックは2.7型23万ドットと、上位機種に比べてひと回り小さく目が粗いが、再現性は良好。可動の際、三脚を用いる場合には雲台に引っかかるために注意が必要だが、手持ち撮影時には横に大きく展開しないのでホールディングしやすく、使い勝手がいい。

買い物行くときによく歩道橋をわたるのですが、そこから見える景色ってなかなか素敵なんですよね。

Illustration KEI

■ オリンパス

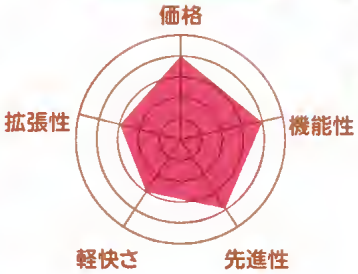
E-620

優美なフォルムのボディに こだわりの撮影機能を搭載

Data

1230万画素 LiveMOS	連写速度 4コマ/秒
2.7型23万ドット 可動式液晶	AF測距点 7点
手ブレ補正 ボディ側	130×94×60㎜
ライブビュー あり	475g

Performance



Spec

●有効画素数 約1230万画素 ●撮像素子 17.3×13㎜ LiveMOSセンサー ●手ブレ補正 センサーシフト式 ●シャッター速度 1/4000～60秒、バルブ ●ファインダー視野率 約95% ●ファインダー倍率 約0.96倍 ●AF測距点 7点 ●連写速度 約4コマ/秒 ●ISO感度 100～3200 ●液晶モニター 2.7型23万ドット 可動式 ●メモリーカード CF/xD ●電池寿命 約500枚 ●大きさ 130×94×60㎜ ●重さ 475g

発売／2009年3月20日
参考価格／約6万6000円(ボディ)、約6万5000円(レンズキット)、約6万8000円(ダブルズームキット)
問い合わせ／☎0120・084・215

可動式液晶モニターとアートフィルターが楽しい

すっきり優美なフォルムを持つ、フォーサーズ規格の入門機。

横に引き出して自由に回転できる可動式液晶モニターを使うことで、ライブビュー撮影におけるアングルの自由度が広がる。ライブビュー撮影でのコントラストAFの速度も一眼レフとしては速く、顔認識機能も搭載。ファインダー使用時と変わらない、スムーズな撮影が楽しめる。

カメラとしての基本性能も高く、前機種よりもファインダー倍率をアップするとともに、ファインダーの右側にあった撮影情報表示スペースを他メーカーと同じく下部に移動し、見やすくなった。また、これまで3点のみと物足りなかったAF測距点の数が7点に増え、7点全点がツインセンサー、中央の5点はツインクロスセンサーという、ぜいたくな仕様となった。

撮る人のイメージを写真にするというコンセプトの「アートフィルター」が搭載されており、パソコンによる難しい画像処理をしなくても、多彩な描写が楽しめる。目の前の現実を複製するのではなく、自分なりに表現していくものへと写真の意味合いを変えるユニークな機能として、のちに発売されたペンデジタルシリーズにも搭載されて好評を博している。

そのほかにも、画面のアスペクト比（縦横比）を標準の4対3のほかに、3対2、16対9、1対1に変更できたり、写真を重ねて合成できる多重露出が可能だったりと、写真表現にこだわった機能を多数搭載。小さく軽く高性能というだけでなく、写真表現を楽しみたい人にうれしい機能を満載した、こだわりのカメラに仕上がっている。ミラーレス機も話題だが、小さな〝一眼レフ〟が欲しい人にぴったりだ。

Point

写真表現を自在に楽しめる「アートフィルター」を搭載

雰囲気のある仕上がりの写真が簡単に撮れる「アートフィルター」を搭載。ダイヤルでモードを切り替えて設定する。ボディは薄く、グリップは出っ張らずに小さいが、指掛かりがよいので、手の小さい人でもしっかり構えられる。

暗い場所でも設定しやすいイルミネーションボタン

液晶モニターは2.7型23万ドットと一般的なスペックだが、従来機よりも明るくてコントラストも高く、屋外でも視認しやすい。十字キーと主要なボタンが点灯するので、夜景など暗所での撮影も快適に行える。

横位置でも縦位置でも自由なアングルで撮れる

可動式液晶モニターは2軸回転式で、ボディの横に引き出すタイプ。液晶モニターの視野角も上下左右ともに176度と広く、カメラの構え方が横でも縦でも、自由なアングルで撮影できる。

Illustration 皆村春樹

調和の取れた色合いを目指しました。
「女性でも気軽に持ち歩けるデジタル一眼レフ」ということで、ヨーロッパなどの観光地の街角を散歩しながらスナップ撮影するイメージで描きました。片手で持てる軽さがうまく伝えられればと思います。

■ キヤノン

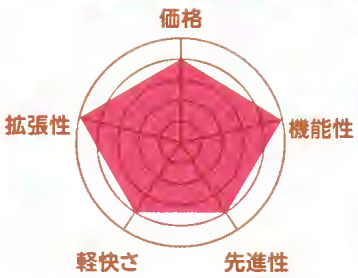
EOS Kiss X4

高画素センサーを搭載した軽快な高画質一眼レフ

Data

1800万画素CMOS	連写速度3.7コマ／秒
3.0型104万ドット液晶	AF測距点9点
手ブレ補正レンズ側	128.8×97.5×75.3㎜
ライブビュー動画あり	475g

Performance



Spec

●有効画素数 約1800万画素 ●撮像素子 22.3×14.9㎜CMOSセンサー ●手ブレ補正 レンズシフト式 ●シャッター速度 1/4000～30秒、バルブ ●ファインダー視野率 約95% ●ファインダー倍率 約0.87倍 ●AF測距点 9点 ●連写速度 約3.7コマ/秒 ●ISO感度 100～12800 ●液晶モニター 3.0型104万ドット ●メモリーカード SDHC.SDXC ●電池寿命 約400枚 ●大きさ 128.8×97.5×75.3㎜ ●重さ 475g

発売／2010年2月26日
参考価格／約7万1000円(ボディ)、約7万2000円(レンズキット)、約8万4000円(ダブルズームキット)
問い合わせ／☎050・555・90002

最新の機能を取り入れたベストセラー入門機

上位機「EOS 7D」の新機能を取り入れたKissシリーズの最新機。撮像素子は1800万画素CMOSセンサー。ISO感度は6400まで常用できるようになり、拡張設定なら12800での撮影も可能。また、被写体の明るさに応じてISO感度を自動的に設定するISOオートは、暗い場所で必要以上に感度が上がってしまうことがあったが、「X4」では感度の上限を決められるようになった。

104万ドットと高精細な液晶モニターは、3対2の画面比率となり、写真を画面ぴったりで表示できる。ハイビジョン動画の16対9にも比率が近くなり、動画撮影時の表示領域も拡大した。

動画撮影機能は「EOS 7D」と同様で、ボケや明るさをコントロールできるマニュアル露出にも対応。外部マイク端子も搭載している。

見た目の印象は今までのKissシリーズと大きく変わらないが、ボディラインの曲線に滑らかさが増し、ボタン類のデザインが変更された。今まで丸型だったメニュー、再生、露出補正などのボタンは、配置された場所に合わせた形で大型化され、文字が見やすく、押しやすくなった。ライブビュー／動画ボタンがファインダー横の押しやすい位置に移動し、クイック設定ボタンが独立するなど、操作性の向上も図られている。

連写速度やオートフォーカス機能、ファインダー性能などは、もちろん「EOS 7D」のほうが優れている。しかし、ライブビューを使って、花や風景を撮影するなら、性能にほとんど差はない。ボディの軽さがアドバンテージになるので、初心者だけでなく、目的によってはプロにも支持されそうだ。

Point

ISOオートの上限設定が可能になった

撮影時に変更することが多いISO感度の設定ボタンを、電子ダイヤルのそばに配置するレイアウト。ISO感度オートは便利だが、感度が高くなりすぎるのが気になるシーンもある。変化の上限が設定可能になり、使い勝手がよくなった。

直感的に操作できる設定ボタン

「Q」と記されたボタンを押すと、「クイック設定画面」に移行。液晶モニターに一覧表示された撮影設定を選んで変更できるので、初心者にもわかりやすい。また、各種ボタンのサイズが大きくなり、操作性も向上している。

液晶を見ながら撮影するライブビュー

ファインダー横に装備されたボタンを押すと、ライブビュー撮影がスタート。光学ファインダーの性能が低い入門機でも、液晶モニターを見ながら撮影するのであれば、上位機に劣ることはない。動かない被写体を狙うなら、この撮影スタイルがおすすめだ。

Illustration 松本規之

以前行ったことのある、高知などで走っていた路面電車の車内をイメージして描いています。路面電車が走っている様な土地はどこも街並を大事にしているところが多く、中でも函館は、海と空と山がワンフレームに収まるので非常に絵になる街でした。緑が濃いうちにまた行きたいものですね。

■ ソニー

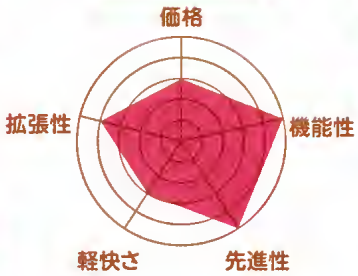
α550

2方式のライブビューを搭載した多機能な入門機

Data

1420万画素 CMOS	連写速度 5コマ／秒
3.0型92万ドット液晶	AF測距点 9点
手ブレ補正 ボディ側	137×104×84㎜
ライブビュー あり	599g

Performance



Spec

●有効画素数 約1420万画素 ●撮像素子 23.4×15.6㎜ CMOSセンサー ●手ブレ補正 センサーシフト式 ●シャッター速度 1/4000～30秒、バルブ ●ファインダー視野率 約95% ●ファインダー倍率 約0.8倍 ●AF測距点 9点 ●連写速度 約5コマ/秒 ●ISO感度 200～12800 ●液晶モニター 3.0型92万ドット上下可動式 ●メモリーカード SDHC、MS Proデュオ ●電池寿命 約950枚 ●大きさ 137×104×84㎜ ●重さ 589g

発売／2009年11月5日
参考価格／約7万円（ボディ）、約8万4000円（レンズキット）
問い合わせ／㊎0120・777・886

中級機並みの高速連写と独自のライブビューが特徴

ソニー「α550」の特徴は、1420万画素CMOSセンサーの採用と、画像処理エンジン「BIONZ（ビオンズ）」の進化による高速連写。光学ファインダー使用時に上級機並みの5コマ／秒、ライブビュー撮影時でも4コマ／秒の連写が可能。1コマ目でピントが固定されるものの、「速度優先連続撮影モード」では、7コマ／秒で高速連写できる。

この高速連写を生かした新機能が、「オートHDR（ハイダイナミックレンジ）」だ。露出の違う2枚の写真を連写してカメラ内で自動的に合成することにより、明るい部分と暗い部分が混在するシーンでも、見た目に近い写真にできる。被写体のずれを自動的に調整して合成するので、手持ちでも撮影できる点が、他社の同じ機能と比べて優れている。

もう1つの注目ポイントは、ソニー独自の「クイックAFライブビュー」に加えて、「マニュアルフォーカスチェックライブビュー」を搭載したこと。他社のライブビューと同様に撮像素子が取得した像をそのまま液晶モニターに映し出す方式で、AFは使えないが、拡大表示が可能なので、厳密なピント合わせに役立つ。動く被写体はクイックAFライブビューで、三脚でじっくり撮るにはマニュアルフォーカスチェックライブビューでというように、スライドスイッチで切り替えて使い分けることができる。

上下方向に可動できる液晶モニターは3・0型92・1万ドットと大きく高精細で、快適なライブビュー撮影をサポートする。

これまでの入門機では物足りない欲張り派におすすめできる、高機能高画質を実現したモデルだ。

Point

写真の階調を補正する機能が充実

Dレンジオプティマイザーに加えて、新たに搭載された「オートHDR」。明るさの違う2枚を連写してから合成して、ダイナミックレンジの広い写真にする機能だ。合成時にずれを直してくれるので、静物なら手持ち撮影も可能。

よく使う機能を設定できる「Fn」ボタン

「Fn」ボタンを押すと、クリエイティブスタイル、AFモード、ホワイトバランス、Dレンジオプティマイザーなど、よく使う12の機能を設定できるメニューが表示される。独立したボタンがない機能は、ここから設定を変更する。

ソニー独自の「クイックAFライブビュー」

通常のライブビューのほかに、独自の「クイックAFライブビュー」を搭載。ファインダー内の撮像素子で取得した像を液晶モニターに映し出す方式だ。光学ファインダー使用時と同じ「位相差AF」でピント合わせが行えるので、すばやく撮影できる。

Illustration 白亜右月

ちびっ子にこそ似合うデジタル一眼。青と白のコントラストの非現実な空間で、そのコンセプトが生かせれば、と思って描きました。

■ ペンタックス

K-7

小型で高性能を実現したフラッグシップモデル

Data

1460万画素 CMOS	連写速度 5.2コマ／秒
3型92.1万ドット 液晶	AF測距点 11点
手ブレ補正 ボディ側	130.5×96.5×72.5㎜
ライブビュー 動画あり	670g

Performance

Spec

●有効画素数 約1460万画素 ●撮像素子 23.4×15.6㎜ CMOSセンサー ●手ブレ補正 センサーシフト式 ●シャッター速度 1/8000～30秒、バルブ ●ファインダー視野率 約100% ●ファインダー倍率 約0.92倍 ●AF測距点 11点 ●連写速度 約5.2コマ/秒 ●ISO感度 100～6400 ●液晶モニター 3.0型92.1万ドット ●メモリーカード SDHC ●電池寿命 約740枚 ●大きさ 130.5×96.5×72.5㎜ ●重さ 670g

発売／2009年6月27日
参考価格／約8万9000円（ボディ）、約10万3000円（レンズキット）
問い合わせ／0570・001313

コンパクトなボディで高い基本スペックを実現

ペンタックス「K-7」が目指したのは、ずばり「小型と高性能の両立」。言葉の響きは平凡かもしれないが、このコンセプトを満たすのは容易なことではない。

これまで培われた基本性能を受け継ぎながら、ワンランク上のスペックを実現。マグネシウム合金外装、視野率約100%のファインダー、3・0型約92・1万ドット液晶モニター、約5・2コマ／秒の高速連続撮影、ハイビジョン動画機能などを、このクラスとしては小型なボディに搭載している。

ペンタックスのデジタル一眼レフで撮影した写真が高精細でシャープに見える秘密は、カスタムイメージ内の項目「ファインシャープネス」にある。シャープ度を高めた際にありがちな細部のツブレを防ぐことができるのだ。

使いやすく、きめ細かな画像調整が可能な「カメラ内RAW現像」もペンタックスの特徴だ。仕上がり設定「カスタムイメージ」のモード選択や微調整（彩度、色相、コントラストなど）をはじめ、ホワイトバランス（座標軸からの微調整も可）、高感度ノイズリダクション、シャドー補正、ディストーション補正、倍率色収差補正……と、その多彩さには驚くばかり。パソコンを使わず、撮影した気持ちのまま、すぐに現場で調整できるところがありがたい。

撮影した写真を見ながら簡単に位置合わせが行えるライブビュー多重露光モード、自動的に露出を変えて連続撮影したカットをカメラ内で合成することで広大なダイナミックレンジを得る「HDR」など、写真を楽しみたい気持ちに応える多機能性に優れる点が、上位機としての基本性能の高さとともに、「K-7」の大きな魅力だ。

Point

操作ミスを防ぐロックボタンを装備

撮影設定をすばやく確認できる液晶表示パネルを装備。モードダイヤルには誤操作防止のロックボタンが付いている。独自の撮影モードである、感度優先（Sv）やシャッター&絞り優先（TAv）も搭載している。

見やすい液晶と操作しやすいボタン配置

3.0型92.1万ドットの、大きく高精細な液晶モニターを採用。また、独立した「AFボタン」や、「ハイパープログラム」や「ハイパーマニュアル」で使用する「グリーンボタン」も押しやすい位置に配置されている。

77か所のシーリングによる防塵防滴構造

ボディ外装には、高品位なだけでなく、軽量かつ強度の高い素材、マグネシウム合金を採用。また、77か所にも及ぶシーリングによって、雨や砂ぼこりに強いカメラになっている。キットレンズも簡易防滴構造を採用している。

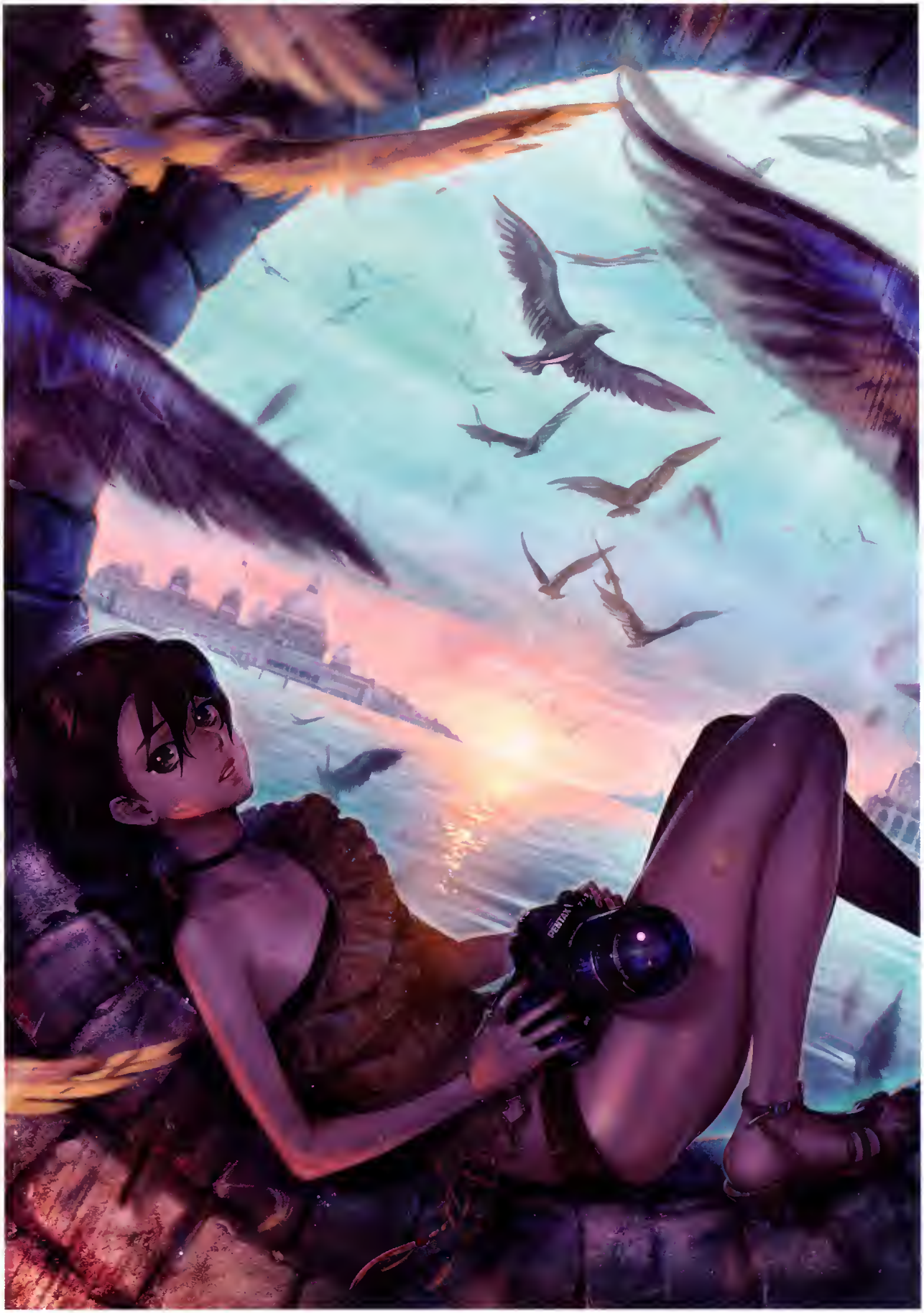


Illustration 碧風羽

「シャッターチャンス待ち」をしている少女です。ボタン半押しで待っています。
大人か子供か判らないような感じの女の子にしたい、また、少女と景色の二人きりのシーンにしたいなと思いました。赤みが少ない空なので、朝です。

■ キヤノン

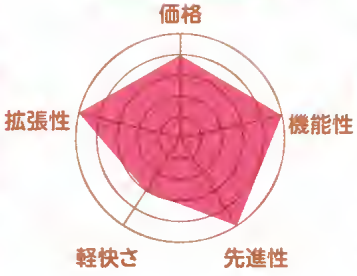
EOS 7D

AFシステムを一新した新世代EOSデジタル

Data

1800万画素 CMOS	連写速度 8コマ/秒
3.0型92万ドット 液晶	AF測距点 19点
手ブレ補正 レンズ側	148.2×110.7 ×73.5㎜
ライブビュー 動画あり	820g

Performance



Spec

●有効画素数 約1800万画素 ●撮像素子 22.3×14.9㎜ CMOSセンサー ●手ブレ補正 レンズシフト式 ●シャッター速度 1/8000～30秒、バルブ ●ファインダー視野率 約100% ●ファインダー倍率 約1倍 ●AF測距点 19点 ●連写速度 約8コマ/秒 ●ISO感度 100～12800 ●液晶モニター 3.0型92万ドット ●メモリーカード CF ●電池寿命 約800枚 ●大きさ 148.2×110.7×73.5㎜ ●重さ 820g

発売／2009年10月2日
参考価格／約14万4000円（ボディ）、約20万7000円（レンズキット）
問い合わせ／☎050・555・90002

どこにも隙のない高性能デジタル一眼レフ

従来のシリーズから大きく進化した機能を搭載した「EOS 7D」。画素数は1800万画素。映像エンジン「DIGIC4」を2つ搭載することにより、高速処理を実現。連写速度は1秒間に8コマ、連続撮影枚数は約94枚、RAW記録でも約15枚と、スポーツ撮影でも十分なプロ仕様。

高速連写ができてもピント合わせが追いつかなければ意味がないが、AFシステムは大きく進化し、19点のAF測距点すべてがクロスセンサー。AF測距点の選択方式も、1点任意選択、自動選択に加えて、測距できるエリア全体を5つに分けてそこから選べる「ゾーンAF」を新搭載。また、AF情報と色情報を加味して露出を決める「iFCL測光」により、精度の高い露出制御が可能になった。視野率100%、倍率1倍の見やすいファインダーにも注目だ。写る範囲の隅々まで、大きな像で確認できるので、快適に撮影に取り組める。さらに、透過型液晶を組み込むことで、ファインダーに格子線を表示したり、逆にAF測距点を消したりできる「インテリジェントファインダー」を採用した。電子水準器も備えており、液晶モニターやファインダー内に表示可能。水平だけでなく、前後の傾きも確認できる。

ライブビューや、フルハイビジョン動画撮影機能ももちろん搭載。また、操作系のカスタマイズ性が非常に高い点も見逃せない。

連写やAFシステムなど、動体撮影で活躍する新機能に注目したくなるが、一眼レフとして重要なファインダーをはじめとする基本性能を重視している点も好ましい。まさにどこにも隙のない、高性能デジタル一眼レフといえる。

Point

大きなグリップでしっかり構えられる

グリップが大きく、安定したホールディングが可能。シャッターボタンの近くには「マルチファンクションボタン」が装備されており、任意の機能を割り当てることができる。その他のボタンの役割も、かなり自由にカスタマイズできる。

ライブビュー／動画撮影スイッチを装備

ファインダー脇には、ライブビューボタンを兼用する動画撮影スイッチを装備しており、フルハイビジョン動画を撮影できる。動画撮影時に撮影モードをM（マニュアル）にすると、シャッター速度、絞り、ISO感度を調整できる。

エリアで選べる進化したAFシステム

19点のAF測距点を持ち、1点任意選択、自動選択だけでなく、ピントを合わせたいエリアを選ぶ「ゾーンAF」を新搭載。1点選択では、選んだ1点で測距する領域を拡大縮小することもできるので、小さな被写体を狙うときにも使いやすい。

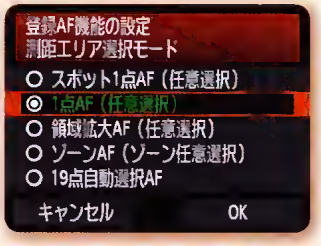


Illustration refeia

最低限の装備からでも頼りになる“相棒”という雰囲気と、ヘッドフォン装備で“ガジェット好き”の印象と、EOS 7Dの先進的なイメージを合わせてみました。

■ ニコン

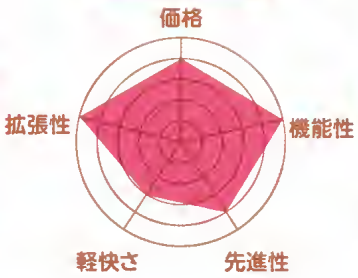
D300s

高い信頼性を誇る DXフォーマット最上級機

Data

1230万画素 CMOS	連続速度 7コマ/秒
3型92万ドット 液晶	AF測距点 51点
手ブレ補正 レンズ側	147×114×74㎜
ライブビュー 動画あり	840g

Performance



Spec

●有効画素数 約1230万画素 ●撮像素子 23.6×15.8㎜CMOSセンサー ●手ブレ補正 レンズシフト式 ●シャッター速度 1/8000~30秒、バルブ ●ファインダー視野率 約100% ●ファインダー倍率 約0.94倍 ●AF測距点 51点 ●連写速度 約7コマ/秒 ●ISO感度 100~6400 ●液晶モニター 3.0型92万ドット ●メモリーカード CF、SDHC ●電池寿命 約950枚 ●大きさ 147×114×74㎜ ●重さ 840g

発売／2009年8月28日
参考価格／約16万円（ボディ）、約22万8000円（レンズキット）
問い合わせ／0570・02・8000

動画撮影が可能になったフラッグシップ機

ニコンDXフォーマット（APS-Cサイズ）のフラッグシップ機「D300」をリニューアル。「D300」後に発売された機種に搭載された新機能を追加してブラッシュアップしたモデルだ。

1230万画素センサーや液晶モニターのサイズ、画素数などの基本的な部分は前機種と同じ。ペンタプリズムを採用した視野率100%の光学ファインダーも引き続き搭載。マグネシウム合金製で堅牢な防塵防滴対応ボディや、動く被写体に強い「面で合わせる」オートフォーカスシステムなど、プロ機の名に恥じない、高性能で信頼性の高いカメラに仕上がっている。

変更点の1つが、動画撮影機能「Dムービー」の搭載だ。ハイビジョン（1280×720）動画を撮影できるようになった。外部マイク端子も備え、ボディ内で簡単な動画編集もできる。

また、ライブビュー撮影時のコントラストAFがスピードアップ。「D300」は、ボディ左上のドライブモード変更ダイヤルで切り替えていたが、新たにライブビューボタンが設置され、スムーズに移行できるようになった。ライブビューによる撮影スタイルが一般的になるなか、有効な改良だ。連写速度は秒間7コマにアップし、アクティブD-ライティングの設定項目には、新たに「オート」と「より強め」が加わった。

CFカードとSDHCカードのダブルスロットになったことも見逃せない。JPEGとRAWを分けて記録できるほか、カードからカードへデータをバックアップできるので、安心感が増した。定評ある機能はそのままに、信頼性を大切にしながら使い勝手を向上させた、堅実な改良機といえるだろう。

Point

堅牢で信頼性の高い防塵防滴ボディ

堅牢なマグネシウム合金ボディは信頼性が高い。カメラボディの接合部に効果的なシーリングを施し、高い防塵性能と防滴性能を確保している。内蔵フラッシュは16㎜の画角に対応するようになったため、16~85㎜のレンズキットが設定された。

ライブビューとインフォボタンを新設

ライブビュー機能が充実したのに合わせて、液晶の右に「Lv」ボタンを新設。通常撮影との切り替えがスムーズに行えるようになった。また、その下には「info」ボタンが設けられ、設定の確認やダイレクトな変更が可能になった。

被写体を“面”でとらえる51点AF

撮影画面の約60%をカバーする51点測距AFを搭載。フォーカスポイントにとらえた被写体を追尾して自動的に測距点を切り換える「51点（3D-トラッキング）」なら、すばやく動く被写体、不規則な動きの被写体を捕捉し続けられる。

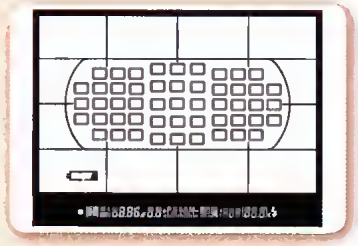


Illustration 緒方剛志

被写体深度の浅い絵を描きたいな、と思いながら描きました。本当はD300sにすらピントがあっていない感じにしたかったのですが、仕事が仕事だけにそれはやめました。

■ キヤノン

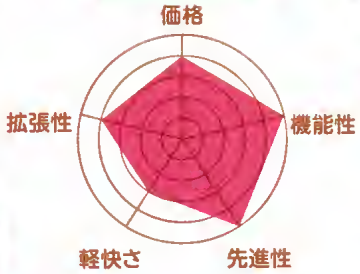
EOS 5D マークII

人気のフルサイズ機が待望のリニューアル

Data

2110万画素 CMOS	連写速度 3.9コマ/秒
3.0型92万ドット 液晶	AF測距点 9点
手ブレ補正 レンズ側	152×113.5 ×75㍉
ライブビュー 動画あり	810g

Performance



Spec

●有効画素数 約2110万画素 ●撮像素子 36×24㍉CMOSセンサー ●手ブレ補正 レンズシフト式 ●シャッター速度 1/8000～30秒、バルブ ●ファインダー視野率 約98% ●ファインダー倍率 約0.71倍 ●AF測距点 9点 ●連写速度 約3.9コマ/秒 ●ISO感度 50～25600 ●液晶モニター 3.0型92万ドット ●メモリーカード CF ●電池寿命 約850枚 ●大きさ 152×113.5×75㍉ ●重さ 810g

発売／2008年8月28日
参考価格／約20万7000円（ボディ）、約34万2000円（レンズキット）
問い合わせ／☎050・555・90002

大きな撮像素子が生む圧倒的な高画質に魅力

09年のカメラグランプリ大賞を受賞した「EOS 5Dマークll」は、フルサイズ機と呼ばれるジャンルのデジタル一眼レフ。つまり、デジタル化以前に最もよく使われていた35ミリ判フィルムと同じ大きさの撮像素子を搭載しているのだ。一般的なデジタル一眼レフは、APS-Cサイズの撮像素子を採用するものが多く、これでもコンパクトデジカメと比べれば非常に大きいのだが、さらに大きな撮像素子による圧倒的な高画質が、このカメラの最大の魅力といえる。

前機種の「EOS 5D」は05年に発売されたが、当時の実売価格が約36万円と、アマチュアカメラマンでも何とか手が届く価格だったので、写真の画質にこだわるプロとハイアマチュアの大きな支持を集めて大ヒットした。

満を持してのリニューアルにより、1280万画素から2110万画素への画素数アップ、撮像素子のゴミ除去装置の追加、高感度画質の向上、最新の画像処理エンジンの搭載といった基本機能のバージョンアップのほかに、風景や花の撮影に欠かせないライブビュー撮影や、フルハイビジョン動画撮影も可能となった。

連写速度やAFシステムは、新世代機ともいえる弟分の「EOS 7D」にかなわないが、それを補って余りあるのが、大きなセンサーが生み出す高画質だ。ボディの重量はわずかだが、こちらのほうが軽い。どちらを選ぶか悩ましいところだが、画質の良さを求めてデジタル一眼レフを選ぶ人なら、思い切るだけの価値は十分ある。レンズはフルサイズ対応のものを使う必要があることにも注意。レンズの性能は画質に大きく影響するので、できるだけ高性能なものを使いたい。

Point

ボタンレイアウトの共通性が高い

液晶パネル手前のボタンレイアウトは「EOS 7D」と同じなので、併用するユーザーも迷わず使える。モードダイヤルのC1～C3には、ユーザーの使い勝手や撮影スタイルに合わせて、さまざまな設定を登録することができる。

高精細で見やすい3.0型液晶モニター

3.0型92万ドット液晶モニターは、鮮やかでとても見やすい。ファインダー左側にライブビューボタンを装備。サブ電子ダイヤルやジョイスティックなどによる操作性も、EOSデジタル中級機以上に共通のものだ。

フィルムと同じ大きなサイズのセンサーを搭載

35ミリ判フィルムと同じ、横36㍉、縦24㍉の撮像素子を使用するカメラが「フルサイズ機」と呼ばれる。一般的なAPS-Cサイズと比べて面積は約2.6倍と広いため、桁違いに高画質な写真が撮れるのが魅力だ。

Illustration INO

パパラッチ予備軍みたいな娘が、念願のデジイチを手に入れてしまった……みたいな場面でしょうか。カメラ本体やレンズについては誰にも突っ込まれない程度に描き込んだつもりです。

■ パナソニック

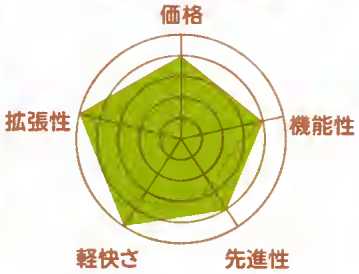
ルミックスGF1

毎日持ち歩きたくなる おしゃれな薄型モデル

Data

1210万画素 LiveMOS	液晶ファインダー 外付け20.2万ドット
3.0型46万ドット 液晶	連写速度 3コマ／秒
手ブレ補正 レンズ側	119×71 ×36.3㎜
動画 1280×720	285g

Performance



Spec

▶有効画素数 約1210万画素 ▶撮像素子 17.3×13㎜ LiveMOSセンサー ▶手ブレ補正 レンズシフト式 ▶シャッター速度 1/4000～60秒、バルブ ▶連写速度 約3コマ/秒 ▶ISO感度 100～3200 ▶液晶モニター 3.0型46万ドット ▶液晶ファインダー 20.2万ドット（外付け） ▶動画サイズ 1280×720 ▶メモリーカード SDHC ▶電池寿命 約350枚 ▶大きさ 119×71×36.3㎜ ▶重さ 285g

発売／2009年9月18日
参考価格／約5万3000円（ボディ）、約6万円（パンケーキキット）、約6万9000円（レンズキット）
問い合わせ／☎0120・878・365

ボケを生かして撮れる明るいレンズが魅力

パナソニックのマイクロフォーサーズ機の3台目となる「GF1」は、コンパクトデジカメに近いフォルムが特徴。名称の「F」は、フラットボディを表しているが、ファッショナブルの「F」も連想させる。おしゃれなデザインが魅力だ。

パンケーキキットには、明るい20ミリF1・7が同梱される。手ブレ補正は搭載していないが、速めのシャッター速度で手ブレと被写体ブレを防ぎ、ボケ描写も得意という大口径レンズの良さを楽しめる。

画素数は1210万画素。初号機の「G1」と同じだが、反応が速くなり、テンポよく撮影できる。ボディは小さいが、ボタンやダイヤルが適切に配置されているので操作性はよい。後ダイヤルは適度なクリック感があり、押し込むことで露出補正がすばやく行える。最も大切な露出補正操作がやりやすい点は、高く評価できる。液晶モニターは、従来機と同様の3・0型46万ドットで、彩度と明るさを調整できる。

小さなボディにフラッシュを内蔵し、別売で20万ドットの液晶ファインダーも用意されるなど、実用性と趣味性を両立した仕様になっている。動画撮影は、1280×720サイズの「AVCHD Lite」方式での記録となる。記録時間に制限はなく、カードとバッテリーが持つ限り撮影できる。

ピント合わせの方式には、個人を識別できる顔認識や、追尾AFなどがあるが、1点任意選択にして、自分で自由に移動させるのがおすすめ。絞りを開放にし、はっきり写したい場所にカーソルを移動させてピントを合わせれば、簡単に大きなボケ描写が得られる。コンパクトでは味わえない描写を、小さなボディで手軽に楽しめる。

Point

独立したレバーやスイッチで良好な操作性を確保

ボディ上面のシャッターボタン側にモードダイヤルがある定番のレイアウト。独立したドライブモードレバーがある。電源スイッチはスライド式を採用しており、操作性は良好だ。どのモードでもすぐに撮影を開始できる動画ボタンも装備。

適度なクリック感で使いやすい後ダイヤル

絞りや露出補正値などを変更する後ダイヤルを、ボディ背面に装備。例えば、絞り優先オートのとき、「押し込む」ことで絞りの設定から露出補正の設定に役割が変わる。適度なクリック感があるため操作しやすく、他機種のようにボタンとの同時操作の必要もない。

薄型ボディにフラッシュを内蔵

36.3㎜というボディの薄さにもかかわらず、ガイドナンバー6のフラッシュを内蔵している。フラッシュ光がレンズでけられないように、かなり高い位置まで手動でポップアップする。このギミックは注目だ。

Illustration 双

GF 1はコンパクトで色もカワイイし こういう風景があってもいいなという願望を持って描きました。カメラがカワイイのでそれに会わせてポップな雰囲気を出すのが楽しかったです。

■ ソニー

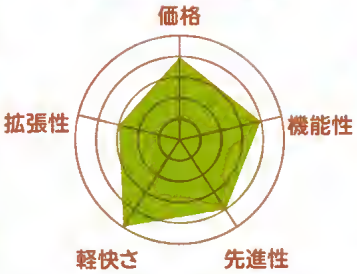
NEX-5

超コンパクトなボディで フルハイビジョン動画対応

Data

1420万画素 CMOS	液晶ファインダー なし
3.0型92.1万ドット 上下可動式	連写速度 2.3コマ／秒
手ブレ補正 レンズ側	110.8×58.8 ×38.2㎜
動画 1920×1080	229ℊ

Performance



Spec

▶有効画素数 約1420万画素 ▶撮像素子 23.4×15.6㎜、CMOSセンサー ▶手ブレ補正 レンズシフト式 ▶シャッター速度 1/4000～30秒、バルブ ▶連写速度 約2.3コマ/秒 ▶ISO感度 200～12800 ▶液晶モニター 3.0型92.1万ドット上下可動式 ▶液晶ファインダー なし ▶動画サイズ 1920×1080 ▶メモリーカード SDHC、SDXC、MS Proデュオ ▶電池寿命 約330枚 ▶大きさ 110.8×58.8×38.2㎜、▶重さ／229ℊ

発売／2010年6月3日
参考価格／約6万7000円(パンケーキキット)、約7万1000円(レンズキット)、約7万9000円(ダブルレンズキット)
問い合わせ／㊎0120・777・886

驚きの小型軽量ボディで レンズ交換が可能

デジタル一眼の高画質を気軽に楽しめる、コンパクトでスタイリッシュなレンズ交換式カメラ。それが「NEX-5」の目指した姿だ。デジタル一眼の魅力である、レンズ交換と大型センサーの搭載。この基本仕様をキープしつつ、コンパクトデジカメに近い軽快さも併せ持つ……。そんな理想を追求した新コンセプトのカメラといえる。

APS-Cサイズのセンサーを搭載しながら小型化するという目的のために、レンズマウントを新たに開発。この「Eマウント」はフランジバックが18㎜しかなく、レンズの小型化にも有利な規格だ。

同時に登場した2モデルのうち、より小さくて軽い「NEX-5」が上位機に当たり、「AVCHD」方式のフルハイビジョン動画撮影に対応。極限まで絞り込まれたボディからはレンズマウントがはみ出しており、ボディと比較して大きく見えるレンズが、いかにもよく撮れそうな印象を与える。

シャープなデザインのボディ外装には、高剛性マグネシウム合金が採用されていて、小型軽量でありながら、上位機にふさわしい高品位さが漂っている。

撮像素子は1420万画素のCMOSセンサー。通常の連写速度は約2・3コマ／秒と遅めだが、1枚目でピントと露出が固定される「速度優先連続撮影」なら、秒間約7枚の高速連写が可能。「オートHDR」や「スイングパノラマ」、「手持ち夜景モード」など、高速連写と画像合成を応用した撮影機能も搭載。デジタルならではの多彩な写真表現が楽しめる。

24ミリ相当の広角となるパンケーキレンズも用意され、標準ズームと2本セットのダブルレンズキットがお買得だ。

Point

同梱の外付けフラッシュを装着できる

究極のコンパクトボディを実現するためにフラッシュは内蔵していないが、外付けフラッシュ「HVL-F7S」が同梱されており、必要に応じて脱着できる。同じ端子に、ステレオマイクロホン「ECM-SST1」（参考価格／1万2000円）なども装着できる。

コントロールホイールとソフトキーで操作

液晶モニターを見ながら直感的に操作できるコントロールホイールは、回転させてスピーディーに操作できる。ソフトキーはそのときの役割が液晶モニターに表示される。携帯電話に近い操作性で、初心者にはわかりやすいだろう。

カメラを振るだけでパノラマ写真が撮れる

カメラをひと振りするだけで簡単にパノラマ写真が撮れる「スイングパノラマ」。NEXでは、APS-Cサイズの高画素センサーの性能を生かして、最大約2300万画素（ワイドサイズで横方向にスイングする場合）のダイナミックで高精細なパノラマ写真が撮影できる。

Illustration 高木信孝

カメラを大きく（笑）、そしてカメラの特性を生かしたアングルエーションをコンセプトに描きました　でも、カメラを気にしすぎてしまい、ヒマワリが少し小さくなってしまいました（汗　そして少女のワキ！

■ パナソニック

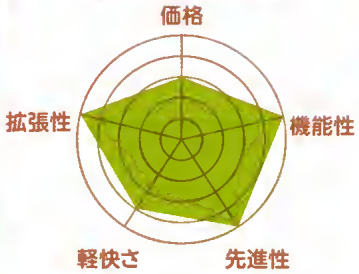
ルミックスG2

世界初のタッチパネル搭載デジタル一眼カメラ

Data

1210万画素 LiveMOS	液晶ファインダー 内蔵144万ドット
3.0型46万ドット 可動式タッチパネル	連写速度 3コマ／秒
手ブレ補正 レンズ側	124×83.6 ×74㎜
動画 1280×720	371g

Performance



Spec

●有効画素数 約1210万画素 ●撮像素子 17.3×13 LiveMOSセンサー ●手ブレ補正 レンズシフト式 ●シャッター速度 1/4000～60秒、バルブ ●連写速度 約3コマ/秒 ●ISO感度 100～6400 ●液晶モニター 3.0型46万ドット可動式タッチパネル ●液晶ファインダー 144万ドット ●動画サイズ 1280×720 ●メモリーカード SDHC、SDXC ●電池寿命 約360枚 ●大きさ 124×83.6×74㎜ ●重さ 371g

発売／2010年4月28日
参考価格／約6万4000円(ボディ)、約7万8000円(レンズキット)、約8万5000円(ダブルズームキット)
問い合わせ／☎0120・878・365

被写体をタッチするだけでピントを合わせて撮影できる

「ルミックスG2」は、世界で初めてタッチパネルを搭載したデジタル一眼。すごいのは、液晶にタッチセンサーを内蔵し、メニュー操作をタッチ式にしただけでなく、シャッターを切る動作もタッチ式にしたこと。画面をタッチするだけで、そこにAFでピントを合わせて撮影できる。もちろん、シャッターボタンで撮影することもできるので、従来と同じ使い方も可能だ。ダイヤルやボタンで操作できるうえに、新たにタッチパネルを使用した撮影方法がプラスされたと理解しよう。従来からのスタイルで撮影するもよし、タッチパネルを利用して撮影するのもよし、ということだ。

メニュー操作や露出補正などの撮影時の設定も、すべて2通りのやり方ができるので、使いやすいほうを優先すればよい。「G2」を快適に使うには、両方の操作系をうまく組み合わせて使用するのがいちばん。直感的に操作できるように工夫されているので、使っていくうちに自分に合った撮り方が身につくだろう。横に引き出して回転できる可動式液晶モニターを、前機種に引き続き採用。簡単撮影の「おまかせiA」専用ボタンが設けられ、慣れないうちはカメラ任せで、どこにピントを合わせるかなどを自分で決められるようになったらタッチパネルを使って自由自在にと、ユーザーのレベルに合わせて多彩な撮影を楽しめる。

機能的にも前機種「G1」より向上しており、「AVCHD Lite」方式に対応した動画撮影や、ISO6400までの高感度撮影が可能となった。画素数は同じだが、新たに「超解像技術」を搭載しており、よりシャープな写真が撮れるようになっている。

Point

オートでも最適な設定で撮れる「おまかせiA」

シーンを自動で判別して最適な設定で撮影できる「おまかせiA」モードには、「夕焼け」が追加された。モードダイヤルがどのポジションでも、迷わずに変更できる「おまかせiAボタン」を新設。青く光るので、どちらのモードなのかも一目瞭然だ。

可動式液晶モニターがタッチパネルになった

横位置でも縦位置でも、自由なアングルで撮影が楽しめる2軸可動式の液晶モニター。「G2」はタッチパネル機能を備え、指先でさまざまな操作ができるようになった。その究極が「タッチシャッター」。液晶に映る被写体をタッチするだけで、カメラがピントを合わせてシャッターが切れる。まさに直感的な撮影が可能だ。

タッチ操作で撮影設定も変更できる

撮影設定もタッチ操作で行える。例えば、F値をタッチすると数値が黄色に変わり、露出メーターを表示。「F」のバーをドラッグすれば、F値が変更される。もちろん、ボタンとダイヤルでの操作も可能で、従来のほうが使いやすいという人にも配慮されている。

Illustration 煉瓦

G2（自分で持ってるのはGH1なのですが）の特徴的な機構かつお気に入りなのが、バリアングルモニターなので、これが見える絵にしようと思いました。

■ オリンパス

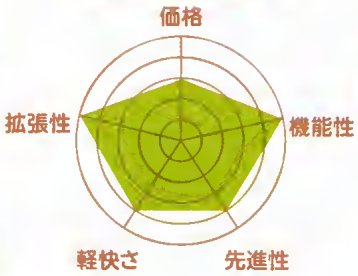
ペンE-P2

クラシカルなデザインの金属ボディが魅力

Data

- 1230万画素 LiveMOS
- 液晶ファインダー 外付け144万ドット
- 3.0型23万ドット 液晶
- 連写速度 3コマ/秒
- 手ブレ補正 ボディ側
- 120.5×70×35.5㎜
- 動画 1280×720
- 335g

Performance



Spec

●有効画素数 約1210万画素 ●撮像素子 17.3×13㎜ LiveMOSセンサー ●手ブレ補正 センサーシフト式 ●シャッター速度 1/4000～60秒、バルブ ●連写速度 約3コマ/秒 ●ISO感度 100～6400 ●液晶モニター 3.0型23万ドット ●液晶ファインダー 144万ドット(外付け) ●動画サイズ 1280×720 ●メモリーカード SDHC ●電池寿命 約300枚 ●大きさ 120.5×70×35.5㎜ ●重さ 335g

発売／2009年12月4日
参考価格／約10万5000円(ボディ)、約12万5000円(パンケーキキット)、約11万5000円(レンズキット)
問い合わせ 0120・084・215

高精細な液晶ファインダーを装着できる上位モデル

小型軽量でスタイリッシュなレンズ交換式カメラとして大人気のマイクロフォーサーズ機。オリンパスの上位機が、この「ペンE-P2」だ。

デザインは初号機だった「E-P1」とほぼ同じだが、最大の進化点は、ホットシューの下にアクセサリーポートが新設され、「ライブファインダー」と呼ばれる着脱式の液晶ファインダー「VF-2」が装着できるようになったこと。パナソニックの「ルミックスGF1」にも同様のファインダーが用意されているが、オリンパスのものは144万ドットという高精細なタイプ。ザラザラした感じはなく、滑らかで見やすい。また、同じアクセサリーポートには、マイクアダプターを装着することもできるので、動画撮影時に高音質での録音が可能となった。

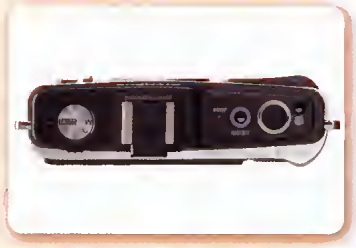
カメラ本体の変更点として、さまざまな画像効果が手軽に得られることで人気の高いアートフィルターに、実際の風景を模型のように撮影できる「ジオラマ」、ポジフィルムをネガフィルムのプロセスで現像したような効果が得られる「クロスプロセス」の2種類が追加され、合計8種類になった。また、仕上がり設定には、カメラが主要被写体を判断して分析し、全体の色合いを変えることなく、主要被写体のみをクリアで臨場感あふれる仕上がりにしてくれる「i-FINISH」が加わった。さらに、オートフォーカスの新機能として、一度ピントを合わせた被写体が動いても、自動的にその位置を追いかけてピントを合わせ続ける「動体追尾AF」を搭載。

液晶モニターを見ながらの撮影は不安定になりがち。望遠撮影が多い人には、液晶ファインダーが使える「E-P2」がおすすめだ。

Point

ミラーレス構造による高品質な薄型ボディが魅力

マイクロフォーサーズ規格の特徴であるミラーレス構造により、一眼レフでは達成できないボディの薄さを実現。上面と底面はアルミ合金、側面はステンレスを使用しており、ボディの質感が高いのも魅力だ。



液晶ファインダーなどが装着できる端子を搭載

液晶ファインダーや外付けマイクアダプターが装着できるアクセサリーポートを、ホットシューの下に装備している。十字キーの周囲にあるメインダイヤルと背面右上のサブダイヤルにより、中級機のような2ダイヤル操作が可能。

高精細144万ドットの「ライブファインダー」

液晶ファインダー「VF-2」(参考価格／2万6000円)を装着。視野率100%で、144万ドットと超高精細。液晶のザラザラした感じはなく、光学ファインダーのように滑らかで見やすい。上方向に可動するので、ローアングル撮影にも便利。視度調整機能も付いている。

Illustration JohnHathway

E-P1が欲しくて、フランジレンズなどつけて使いたいの、でそんな感じです　新しい物なかヨ　ダイヤロス
ックな雰囲気なSFとマッチするかな？と思いまして描かせていただきました。

■ カシオ

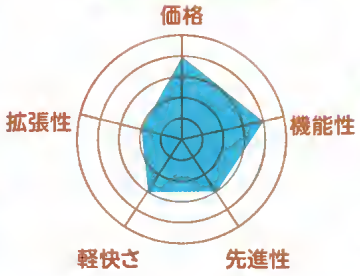
エクシリム EX-Z2000

「プレミアムオート」で失敗なく撮れる5倍ズーム機

Data

1410万画素 1/2.3型CCD	最短撮影距離 5cm
26~130ミリ相当 F2.8-6.5	動画 1280×720
3.0型46万ドット 液晶	100.5×58.5×19.8mm
手ブレ補正 センサーシフト式	122g

Performance



Spec

▶有効画素数 約1410万画素 ▶撮像素子 1/2.3型CCD ▶レンズ 26~130ミリ相当 F2.8-6.5 ▶手ブレ補正 センサーシフト式 ▶シャッター速度 1/1000~4秒 ▶ISO感度 64~3200 ▶液晶モニター 3.0型46万ドット ▶メモリーカード SDHC ▶電源 専用充電池 ▶電池寿命 約580枚 ▶大きさ 100.5×58.5×19.8mm ▶重さ 122g

発売／2010年2月26日
参考価格／約1万6000円
問い合わせ／☎03・3320・5365

最新機能と5倍ズームでバランスのよい仕上がり

最新の自動シーン認識機能である「プレミアムオート」を搭載したコンパクトデジカメが、エクシリムの「EX-Z2000」だ。

最近はどのカメラにも搭載されている自動シーン認識機能だが、カシオのプレミアムオートは、認識したシーンに対して、必要な撮影設定を呼び出すだけでなく、必要な機能と必要な量を見極めながら適正な画像処理を自動で行ってくれるというもの。例えば夜景をバックに人物を撮影した場合、主となる人物には肌のくすみやシミをきれいにする「人物メイクアップ」を適用し、背景となる夜景の明かりは「インテリジェントカラー（領域別ホワイトバランス制御）」で自然な色合いに、暗い部分にはノイズリダクションをかけるなど、画像編集ソフトで補正したかのような画像処理を行う。

このプレミアムオート機能を支えているのが、最新の画像処理エンジンである「エクシリムエンジン5・0」だ。マルチCPUの搭載により、スピーディーな画像解析や処理を実現している。

カメラの基本性能も使いやすく、レンズはやや広角に強い26ミリ相当から始まる光学5倍ズームで、望遠側も130ミリ相当とバランスがいい。センサーシフト式の手ブレ補正機構も備えているので、さまざまな場面で活躍できる。ほかにも、動く被写体を連写して切り抜き、別に撮影した背景に合成することで〝動く写真〟を作成するカシオ独自の機能「ダイナミックフォト」などを搭載する。

誰でも簡単にきれいな写真が撮れるプレミアムオート機能は、特に初心者の人に最適。価格も比較的安いので、プレゼントにしてもよいかもしれない。

Point

上面のボタンでプレミアムオートに切り替える

ボディには適度な凹凸があり、ホールディングがしやすい。ボディ上面には、電源とシャッターボタンのほかに、オートボタンとベストショットボタンを配置。オートボタンを押せば、通常のオートモードとプレミアムオートを交互に切り替えることができる。

シンプルなボタン配置と大型の液晶モニター

背面はボタン類が少なく、シンプルでわかりやすい。液晶モニターは、従来機よりも高精細な3.0型46万ドットのものを採用。高視野角かつ高輝度の液晶なので、屋外でも高い視認性を確保している。

エクシリムでは主流のムービーボタン

今や当たり前の機能となりつつある、独立したムービー（動画）ボタン。カシオのエクシリムではかなり以前から採用されていて、当然ながら「Z2000」にも装備されている。動画撮影中も、シャッターを押すだけで写真が撮れる「スチルインムービー」を採用している。

ピンクとか、画面をかわいい色で仕上げたいと思って描きました。

Illustration 片瀬優

■ キヤノン

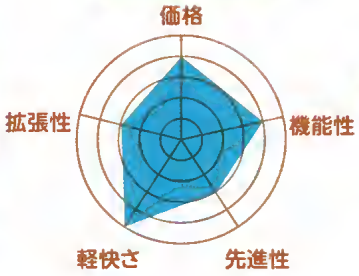
IXY400F

いつでもどこでも持ち歩ける スタイリッシュなデザイン

Data

1410万画素 1/2.3型CCD	最短撮影距離 3cm
28~112ミリ相当 F2.8-5.9	動画 1280×720
2.7型23万ドット 液晶	92.2×56.1×17.8mm
手ブレ補正 レンズシフト式	114g

Performance



Spec

▶有効画素数／約1410万画素 ▶撮像素子／1/2.3型CCD ▶レンズ／28~112ミリ相当 F2.8-5.9 ▶手ブレ補正／レンズシフト式 ▶シャッター速度／1/1500~15秒 ▶ISO感度 80~1600 ▶液晶モニター／2.7型23万ドット ▶メモリーカード／SDHC、SDXC ▶電源 専用充電池 ▶電池寿命／約230枚 ▶大きさ 92.2×56.1×17.8mm ▶重さ 114g

発売／2010年2月19日
参考価格／約1万8000円
問い合わせ／☎050・555・90005

スリムなボディに優秀なオート機能を搭載

キヤノンのコンパクトデジカメとして歴史を重ねてきた「IXY」シリーズは、発売当初から受け継がれるスタイリッシュなデザインが特徴的だ。特に、2010年2月に発売された「IXY400F」は、ボディの厚みが17・8ミリと歴代モデルのなかでも最薄で、凹凸を排したフルフラットデザインとともに、シリーズの新たなる境地を切り拓いている。

IXYシリーズといえば割と落ち着いたカラーリングが多かったが、このモデルではクールな雰囲気のシルバー、ブラックに加え、ビビッドな印象のオレンジとピンクの計4色が用意されている。レンズ鏡胴にもボディと同じ配色がなされているのが印象的だ。

レンズは広角28ミリから112ミリ相当の光学4倍ズームで、コンパクトデジカメとしては平均的な性能。レンズシフト式の光学手ブレ補正機構を搭載しているため、通常の撮影シーンで困ることはほとんどない。

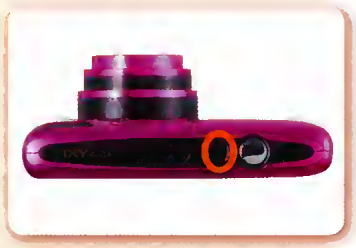
機能面では、人物や風景などのシーンを、被写体の動きや位置、光の加減などで自動認識を行い、シャッターを押すだけで最適な画像が得られる「こだわりオート」が魅力。フラッシュ発光量を自動でコントロールしてくれる「ぴったりフラッシュ」を合わせれば、ビギナーでも簡単に撮影が楽しめる。また、魚眼レンズで撮影したような効果が得られる「魚眼風」や、風景をミニチュアのように撮影できる「ジオラマ風」など、各種シーンモードも魅力的だ。

デザインばかりに目がいくが、基本性能はしっかりしている。このクラスのカメラが実売1万円台で買えるのだから驚きだ。

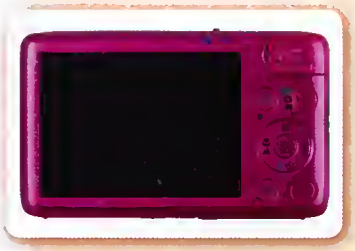
Point

小さいボタンだが操作系は良好

さすがにシリーズ最薄というだけあって、スリムにまとめられている。シャッターボタン横のズームレバーは、ほかのカメラに比べるとかなり小さいが、指の腹を引っかける感じで操作できるので意外と使いやすい。



ボタン類がフラットなため収納しやすい



背面の2.7型クリアライブ液晶は、剛性に優れた強化ガラスを採用し、薄型化を実現。ボディがほとんどフラットなため、ポケットなどに入れても出し入れがしやすい。ただ、ボタンにあまり凹凸がないため、手の大きい人には押しにくいかもしれない。

いつもと違った雰囲気を演出するシーンモード

シーンモードの中に搭載されている「ジオラマ風」で撮影した写真。ピントの合う範囲を指定し、それ以外をぼかすため、まるでフィギュアを撮影したかのような画像効果が楽しめる。いつもの風景に飽きたら、シーンモードを設定してカメラを向けてみよう。

IXY400Fは驚くほど小さいカメラなので、小学生を描いてみました。

Illustration 久坂宗次

■ ニコン

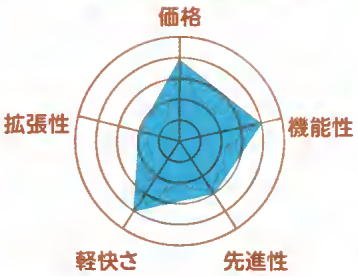
クールピクス S6000

光学7倍ズームを搭載 シャッターチャンスにも強い

Data

1420万画素 1/2.3型CCD	最短撮影距離 3cm
28~196ミリ相当 F3.7-5.6	動画 1280×720
2.7型23万ドット 液晶	97×55.5 ×25mm
手ブレ補正 レンズシフト式	132g

Performance



Spec

▶有効画素数／約1420万画素 ▶撮像素子／1/2.3型CCD ▶レンズ／28~196ミリ相当 F3.7-5.6 ▶手ブレ補正／レンズシフト式 ▶シャッター速度／1/2000~4秒 ▶ISO感度／100~6400 ▶液晶モニター／2.7型23万ドット ▶メモリーカード／SDHC ▶電源／専用充電池 ▶電池寿命／約210枚 ▶大きさ／97×55.5×25mm ▶重さ／132g

発売／2010年3月11日
参考価格／約1万8000円
問い合わせ／0570・02・8000

高感度でもきれいな 7倍ズーム小型カメラ

広角28ミリ相当から望遠196ミリ相当の光学7倍ズームを、厚さ25ミリのスリムボディに搭載した実用的モデル。レンズにはニコンの一眼レフカメラ用交換レンズにも採用されているEDレンズを1枚搭載。これにより望遠側の撮影でも安定した画質を実現。

本機の魅力は、突然のシャッターチャンスに対応できる高速起動や、AF合焦時間を約0・25秒に短縮した快速オートフォーカスの採用による、高い操作性だ。シャッターボタンを押してからの撮影タイムラグも短いので、これまでのコンパクトでは撮り逃してしまった瞬間も逃すことなく撮影できるのがうれしい。

また、「夜撮りキレイテクノロジー」の採用により、夜景や暗い屋内で高感度撮影を行っても、低ノイズできれいな写りが得られる。シャッター速度にして約3段分の補正効果を発揮する手ブレ補正機構（VR）や、カメラが被写体の動きを検出して、自動的にシャッター速度を上げるモーション検知機能と組み合わせれば、手ブレや被写体ブレによる失敗をかなり防ぐことができる。

そのほか、ステレオ音声付きのハイビジョン動画撮影にも対応しており、背面の動画ボタンを押すだけで撮影がスタート。市販のHDMIケーブルでハイビジョン対応テレビと接続することで、画質劣化のない映像を鑑賞することができる。

小型のボディに、実用的な機能が多く搭載されているので、毎日カメラを持ち歩いて撮影する人にピッタリ。特にスナップショットなどの場面では、高速レスポンスによる恩恵が受けられるはずだ。

Point

7倍ズーム搭載モデルでは最高クラスの薄さ

ボディの厚みは25mmと、広角が30mm以下の光学7倍ズーム搭載モデルとしては、世界最高クラスの薄さを誇る。デザインとしては、ボディからレンズ部につながる緩やかな曲線が特徴的だ。

使い心地がいいロータリーマルチセレクター

背面のボタンレイアウトは、コンパクトデジカメとしては基本的な配置で、右上には動画ボタンが独立して設置されている。OKボタン周囲のロータリーマルチセレクターは、タッチが軽く、クリック感もあって使いやすい。

パソコンを使用しないカメラ内画像編集に対応

撮影した画像をカメラ内で簡単編集することができる。認識した人物の顔をきれいに修整する美肌編集や、画像全体の明るさを補正する簡単レタッチ、そして暗く写ってしまったシャドー部を持ち上げるD-ライティングなどの編集が可能。

Illustration 甘塩コメコ

冬のイルミネーション
カメラの特色（夜景りキレイ）が出せるようなシチュエーションを考えました。

■ パナソニック

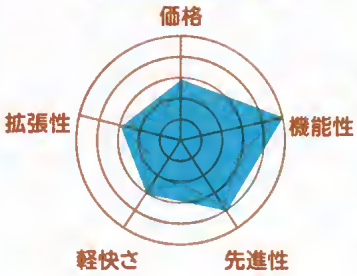
ルミックス FX70

明るいレンズと新機能で被写体ブレを抑える

Data

1410万画素 1/2.33型CCD	最短撮影距離 3cm
24～120ミリ相当 F2.2-5.9	動画 1280×720
3.0型23万ドット 液晶	102.5×55 ×22.8mm
手ブレ補正 レンズシフト式	144g

Performance



Spec

●有効画素数　約1410万画素　●撮像素子／1/2.33型CCD　●レンズ／24～120ミリ相当 F2.2-5.9　●手ブレ補正／レンズシフト式　●シャッター速度　1/2000～60秒　●ISO感度／80～1600　●液晶モニター／3.0型23万ドット　●メモリーカード／SDHC、SDXC　●電源／専用充電池　●電池寿命／約360枚　●大きさ／102.5×55×22.8mm　●重さ／144g

発売／2010年6月18日
参考価格／約2万8000円
問い合わせ／☎0120・878・365

タッチパネル搭載でピント合わせが自由自在

カーナビやスマートフォンなどと同様に、コンパクトデジカメでもタッチパネルを搭載し、ボタン操作から解放されて、感覚的に扱える機種が増えてきた。

ルミックスシリーズの主力機として登場した「FX70」もその1つ。簡単さが求められるコンパクトデジカメだが、高機能化により操作が複雑になってきた。タッチパネルはその解決策となりそうだ。

特に初心者に便利なのが、ピント合わせの操作。液晶モニター上で、ピントを合わせたい場所をタッチすると、その場所に測距点が瞬時に移動。シャッターボタンを半押ししてフォーカスロックする必要もなく、撮りたいものにピントを合わせながら、自由に構図を変えて撮影できる。さらに、タッチしただけでシャッターまで切ることも可能。画面の隅にピントを合わせたいシーンでも、素早く軽快に撮影できる。

レンズは24ミリ～120ミリ相当までをカバーする光学5倍ズームを搭載。定評ある手ブレ補正に加えて、広角端がF2・2と明るいので、ブレを起こしにくい。また、「iAズーム」機能を使えば、望遠端からさらに1・3倍までズームアップできる。デジタルズームの一種だが、「超解像技術」により、画像を劣化させることなく写すことが可能だ。

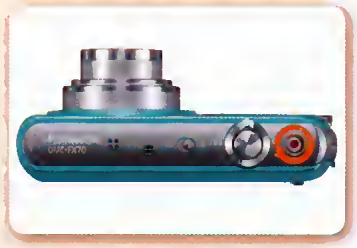
さらに新機能の「ブレピタモード」は、被写体の動きを認識すると、画素を掛け合わせる画素混合で自動的に感度を上げて、シャッター速度をアップして、被写体ブレを防いでくれる。

高度な機能をタッチパネル操作で簡単に使いこなせるのが、「FX70」の魅力だ。

Point

動画撮影を手軽にするボタンを設置

ボディ上部にはスピーカーやマイクなどとともに、電源スイッチや動画ボタンが設置されている。電源スイッチは切り替えのしやすいスライド式を採用。右端に設けられた動画ボタンは、押すだけで設定された撮影モードのまま、動画撮影をスタートすることができる。



一部のボタンを残すことで操作性を向上

照度を自動的に調整するオートパワーLCDを搭載した液晶モニターなので、屋外でも比較的見やすい。多くの操作はタッチパネルでできるため、ボタンは少なめだが、撮影／再生切り換えスイッチやメニューボタンを残すことで、簡単さと操作しやすさを両立している。

画面にタッチしてピントが合わせられる

ピントを合わせる場所を指先で自由に選べるのが、タッチパネルの魅力。特に、シビアなピント合わせが必要になるマクロ撮影などで力を発揮しそうだ。タッチによってピントを合わせたあとに再度タッチすれば、そのままシャッターを切ることができる。

Illustration ニリツ

機種の特徴が手ぶれに強いということでしたので「動いている状態をとらえた一瞬」というコンセプトで描かせていただきました。女の子の日常の中、生活と共にあるカメラ。という雰囲気が出ていればいいなと思います。

■ オリンパス

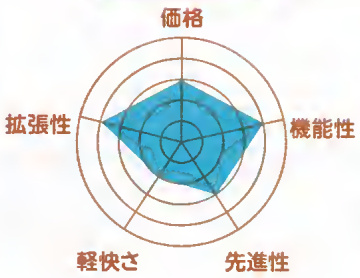
μ TOUGH-6020

タフネスとカジュアルを両立したアウトドアモデル

Data

1400万画素 1/2.33型CCD	動画撮影画素 3万
28~140ミリ相当 F3.9-5.9	動画 1280×720
2.7型23万ドット 液晶	96.7×64.4 ×25.8㎜
手ブレ補正 センサーシフト式	149g

Performance



Spec

●有効画素数 約1400万画素 ●撮像素子 1/2.33型CCD ●レンズ 28~140ミリ相当 F3.9-5.9 ●手ブレ補正 センサーシフト式 ●シャッター速度 1/2000~4秒 ●ISO感度 80~1600 ●液晶モニター 2.7型23万ドット ●メモリーカード/SDHC ●電源 専用充電池 ●大きさ 96.7×64.4×25.8㎜ ●重さ 149g

発売/2010年2月26日
参考価格/約2万7000円
問い合わせ/㈱0120・084215

アウトドアでも使いよい操作系統を採用

年々進化を続ける、オリンパスの防水コンパクト「μ TOUGH」シリーズ。現在は3機種がラインアップされていて、本機「μ TOUGH-6020」はカジュアルな雰囲気と、本格アウトドア性能を両立した中間モデルである。

水深5㍍まで耐えられる防水性能と、高さ1・5㍍からの落下試験をクリアした耐衝撃性能を持つ。これらの数値は「μ TOUGH-8010」よりも低いが、同機にはない3色のカラーバリエーションが用意されていて、日常シーンでもカジュアルに持ち歩くことができる。

レンズは使用時でも前に飛び出さない屈折光学式を採用。焦点域も広角28ミリ相当から140ミリ相当の光学5倍ズームなので、通常の撮影で困ることはほとんどない。

μ TOUGHシリーズ独自の機能としてあげられるのが、カメラ内部に搭載された3軸加速度センサーを利用した「タップコントロール」機能。これは、カメラ本体を軽く叩いたり、傾けたりすることで、各種操作や設定を行えるというもの。ウィンタースポーツなどで、厚手の手袋を着用しているときでも、スムーズに操作することができる。

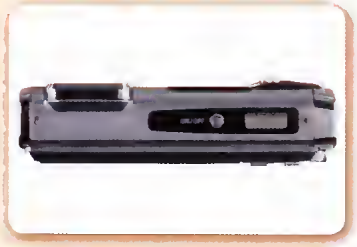
また、大容量2GBの内蔵メモリーを搭載している点にも注目だ。通常のコンパクトデジカメは内蔵メモリーがあったとしても、せいぜいが30MB程度。2GBもの容量があれば、カードを忘れた場合でも十分に対応することができる。

タフさが必要だけど、デザインにもこだわりたいというユーザーは、持つことを検討する価値があるモデルだ。

Point

タフモデルらしいしっかりした印象

厚さ25.8㎜という数字以上に、マッシブな印象を受けるボディ。しかし、持ちにくいということはなく、適度な厚みでホールディングもしやすい。別売のシリコンジャケットを装着すれば、カメラへの傷を防ぐとともに、グリップ感をさらに向上させることができる。



アウトドアでの使用に耐える液晶モニター

背面の液晶は2.7型23万ドットのものを採用。野外での、特にアクティブなシーンを想定して、傷が付きにくいハードコートや、撥水コートが施されている。μ TOUGHシリーズとしては初となる独立した動画ボタンを装備。押すごとに静止画と動画を切り替えることができる。

水中でも操作がしやすいタップコントロール

カメラの側面などを叩くことで、設定などを変えることができるタップコントロール。叩く位置などによって、行われる操作は異なる。写真では演出上、強く叩いているように見えるが、実際には軽く叩く（タップする）だけで大丈夫。

Illustration 方蜜

冬の空気の冷たさを出せたらと思って描きました。猛暑の中で描いたので、脳内気温と体感気温の差が激しかったです。あとは巧妙にパンツを隠したところがポイントです！

■ フジフイルム

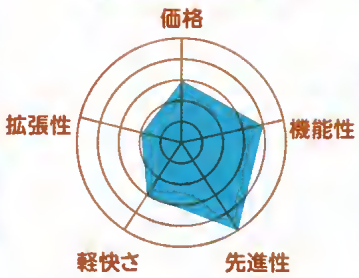
ファインピックス Z800EXR

大画面タッチパネルを採用 人気モデルの後継機種

Data

1200万画素 1/2型CCD	最短撮影距離 9㎝
35～175ミリ相当 F3.9-4.7	動画 1280×720
3.5型46万ドット 液晶	98.1×59 ×20.3㎜
手ブレ補正 センサーシフト式	141g

Performance



Spec

●有効画素数／約1200万画素 ●撮像素子／1/2型スーパーCCDハニカムEXR ●レンズ／35～175ミリ相当 F3.9-4.7 ●手ブレ補正／センサーシフト式 ●シャッター速度／1/1000～4秒 ●ISO感度／100～3200 ●液晶モニター／3.5型46万ドット ●メモリーカード／SDHC ●電源／専用充電池 ●電池寿命／約170枚 ●大きさ／98.1×59×20.3㎜ ●重さ／141g

発売／2010年8月7日
参考価格／約2万9000円
問い合わせ／0570・00・1060

瞬速フォーカスの採用で撮影がスピーディーに

大画面タッチパネルで人気を集めた「Z700EXR」の後継モデル。基本的な機能を継承しつつも、数々の新機能を搭載している。

撮像素子には、前モデル同様「スーパーCCDハニカムEXR」を採用。1つのセンサーで3種類の撮像方式（高感度・低ノイズ優先／ダイナミックレンジ優先／高解像度優先）を可能とするこのセンサーは、目で見た映像を忠実に美しく再現できるのが特徴だ。

今回搭載された新機能で目玉となるのが、瞬速フォーカス。これはスーパーCCDハニカムEXRの画素内に、被写体との距離を瞬時に測定する位相差画素を内蔵し、デジタル一眼並みの高速オートフォーカスを実現するというもの。一般的なコンパクトデジカメに用いられるコントラストAFよりもスピーディーなフォーカシングが可能となっている。

また、新開発の手ブレ補正システムにより、小刻みな手ブレに加え、従来補正しきれなかったゆっくりした動きも検知して補正。ズーム撮影時や動画撮影時に効果を発揮する。

撮影機能としては、一定方向にカメラを振るだけで360度のパノラマ写真が撮影できる「ぐるっとパノラマ360」を新搭載。前機種で好評だった、犬や猫の顔を自動で検出する「ペット自動検出」や、ペットが正面を向いた瞬間に自動でシャッターを切る「ペットオートシャッター」などもそのまま搭載している。

全面タッチパネルによる操作性は直感的で使いやすく、各種オート機能も充実しているので、難しい操作は苦手な人に最適だ。

Point

カバーを閉じた状態でも画像閲覧が可能

電源はレンズカバーに連動しているため、ボディ上面のボタンは、シャッターボタンと撮影／再生の切り替えボタンのみ。レンズカバーを閉じた状態でも、再生ボタンを長押しすれば、そのまま画像の閲覧が可能。

タテヨコオート機能で縦位置撮影も安心

背面には3.5型のタッチパネル式液晶モニターを配置。メニュー操作など、すべてタッチ操作で行うため、ボタン類は設置されていない。カメラの向きに合わせて、表示画面とボタンの配置が変わる「タテヨコオート」機能を搭載しているので、縦位置撮影も快適に行える。

液晶を上下に分ける、2画面サクサク再生

カメラを縦向きに持って撮影画像を見る際、液晶内を上下2画面に分けて別の画像を表示できる。2つの画面はそれぞれ独立してタッチ操作可能。上にプレビュー画面、下にサムネイル画面を表示すれば、画像の検索に便利だ。

Illustration 尾崎弘宜

タッチパネル機種なので、そのあたりをイメージの中心にしています。あと女性向け機種の華やかさを心がけました。

■ ソニー

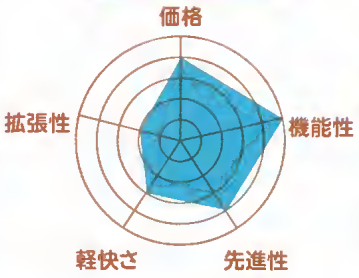
サイバーショット WX5

さまざまなシーンを高画質な写真でオート撮影

Data

1220万画素 1/2.3型CMOS	最短撮影距離 5cm
24~120ミリ相当 F2.4-5.9	動画 1920×1080
2.8型46万ドット 液晶	91.7×51.9 ×21.5mm
手ブレ補正 レンズシフト式	130g

Performance



Spec

●有効画素数 約1220万画素 ●撮像素子 1/2.3型CMOS ●レンズ 24~120ミリ相当 F2.4-5.9 ●手ブレ補正 レンズシフト式 ●シャッター速度 1/1600~2秒 ●ISO感度 125~3200 ●液晶モニター 2.8型46万ドット ●メモリーカード MS Duo/PRO Duo/PRO-HG Duo、SDHC、SDXC ●電源 専用充電池 ●電池寿命 約230枚 ●大きさ 91.7×51.9×21.5mm ●重さ 130g

発売／2010年8月7日
参考価格／約2万7000円
問い合わせ／0120・777・886

フルハイビジョン対応で動画撮影もより楽しめる

「WX5」は手持ち夜景モードや人物ブレ軽減など、多彩な機能で人気となったコンパクトデジカメ「WX1」の後継モデルだ。裏面照射式CMOSセンサー「Exmor R」を採用している点は従来機と同様だが、画素数は1020万画素から1220万画素に上がっている。

レンズは広角24ミリ~120ミリ相当の焦点域をカバーする光学5倍ズームで、同社のデジタル一眼用レンズとしても定評がある「Gレンズ」を採用している。

本機の魅力は何といっても、センサーの特性を生かした数々の撮影機能。カメラを一定方向に振るだけでパノラマ画像を生成する「スイングパノラマ」は、新たに3D撮影が可能となった。撮影した画像は3Dテレビで楽しむことができる。

また、高速連写した画像を重ね合わせてノイズを低減させる「手持ち夜景」や、2枚の画像を合成して見た目の印象に近い画像が得られる「逆光補正HDR」がオート撮影に対応。新たにモードダイヤルに加わった「プレミアムおまかせオート」機能を使えば、シーンに合わせて最適なモードを選択してくれるので、まさにシャッターを押すだけで、簡単にきれいな写真を撮ることができる。

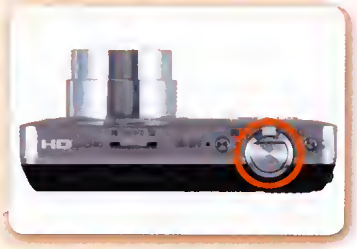
フルHD動画撮影に対応している点も見逃せない。一般的なコンパクトデジカメのHD動画に比べて、約2・3倍きめ細やかな映像が撮影できる。背面に設けられた動画ボタンから、撮影したいときにすぐスタートできる。

多彩な機能を搭載しながらも、操作は簡単で、オート機能も充実しているため、幅広いユーザーに向けたカメラといえよう。

Point

前モデルよりもにぎやかな上面部

デザインに曲線が加わった影響か、ボディの厚みが従来機よりも少し増している。ズームの操作が「WX1」ではボタン式だったのに対して、「WX5」ではシャッターボタンと一体化したレバー式となり、併せてシャッターボタンの形状も変わっている。



金色で記されるプレミアムおまかせオート

背面の液晶モニターは2.8型46万ドットのものが採用され、以前よりも高精細になった。モードダイヤルは、手持ち夜景などの合成機能がオートモードに対応したため、シーンモードに集約されている。代わりに3D撮影モードとプレミアムおまかせオートが新たに加わった。

撮影シーンの幅を広げる手持ち夜景モード

手持ち夜景モードに設定して撮影した画像。なるべく水面に近い位置から撮影するために、柵の間から手を伸ばすという突飛なシチュエーションだったが、結果は見事にぶれることなく撮影できた。うまく使えば撮影の幅がぐっと広がる便利な機能だ。

Illustration 黒鷲

さりげない日常を切り取るカメラとして、いつでも取り出せて撮れる。そんなイメージから、うっかり寝起きを写真に収められるという、うれしはずかしな感じをコンセプトにしてみました。

■ ペンタックス

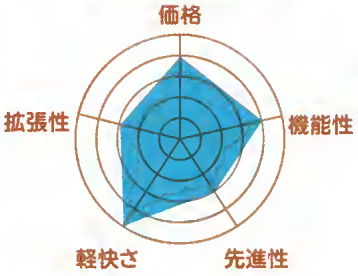
オプティオ W90

アウトドアを遊び尽くせる 防水、耐衝撃のタフモデル

Data

1210万画素 1/2.3型CCD	最短撮影距離 1㎝
28~140ミリ相当 F3.5-5.5	動画 1280×720
2.7型23万ドット 液晶	107.5×59 ×25㎜
手ブレ補正 電子式	144g

Performance



Spec

▶有効画素数 約1210万画素 ▶撮像素子／1/2.3型CCD ▶レンズ／28~140ミリ相当 F3.5-5.5 ▶手ブレ補正／電子式 ▶シャッター速度 1/5000~4秒 ▶ISO感度 '80~6400 ▶液晶モニター／2.7型23万ドット ▶メモリーカード／SDHC ▶電源 専用充電池 ▶電池寿命／約205枚 ▶大きさ／107.5×59×25㎜ ▶重さ／144g

発売／2010年3月18日
参考価格 約3万円
問い合わせ／0570・001313

野外撮影に適した機能でアクティブに楽しもう

水深6㍍で連続2時間の撮影が可能な防水性能と、砂やホコリに強い防塵性能、そして高さ1・2㍍からの落下試験をクリアするなどのタフさが魅力で、アウトドアシーンの記録には持ってこいのカメラだ。ボディの周囲にはカメラの衝撃を和らげるラバー素材が施され、グリップの安定感にもひと役買っている。

有効画素数は約1210万画素で、レンズは広角28ミリからの光学5倍ズームを搭載。画質をほとんど劣化させることのないインテリジェントズームとあわせれば、最大で約31倍の高倍率が可能となる。

背面の液晶モニターは、広々と見える16：9の2・7型ワイドを採用。光の反射を抑えて映り込みを軽減するARコートを施しているので、日中の屋外でも比較的見やすく、快適に撮影できる。

注目の機能としては、コンパクトデジカメ初搭載となる「デジタル顕微鏡モード」があげられる。これは被写体から約1㌢の距離で光学ズームとインテリジェントズームを使用し、より拡大されたマクロの世界を楽しむことができるというもの。接近時にはレンズの周りに設置されたLEDライトで被写体を照らすことができるので、昆虫撮影など自然観察などの場面で活躍しそうだ。

ほかにも撮影した画像をトイカメラ風やミニチュア風に加工できる「デジタルフィルター」機能や、犬や猫の顔を検出し、正面を向いたときに自動でシャッターが切れる「ペット検出」機能、ポートレート撮影時に人物の顔だけをひとまわり小さくできる「小顔フィルター」など、日常シーンでも楽しめる機能が搭載されている。

Point

タフな割にスリムにまとめられたボディ

ハードな使用にも耐えうるタフなデジカメだが、ボディはスリムにまとまっている。レンズは屈折光学系を採用しているので、撮影時もレンズが飛び出さない。ボディの周囲をラバー素材で覆っているため、設置されているボタンは2つだけとシンプル。

野外でも見やすい2.7型ワイド液晶

背面の液晶は2.7型ワイドを採用していて、ボディサイズの割には大きめなサイズとなっている。右側のストラップ取り付け部には通常のストラップとカラビナ付きのストラップ（ともに付属品）が装着可能。状況に応じて付け替えることができる。

接写時に力を発揮するLEDライト

レンズの周囲に配置された3つのLEDライト。マクロ撮影で被写体に接近したとき、カメラや自分の影で被写体が暗くなってしまうことがあるが、このライトがあれば明るさを補うことができる。

Illustration いるも晴章

アウトドア用のカメラなので、活動的なシーンを考えました

■ サンヨー

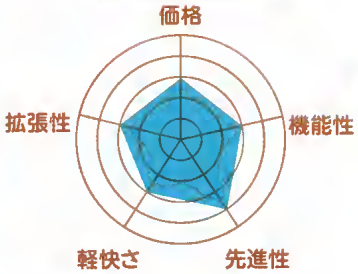
ザクティ DMX-CA100

水中でフルHD動画撮影可能 防水対応のザクティ

Data

1430万画素 1/2.33型CMOS	最短撮影距離 1㎝
38～190ミリ相当 F3.5-3.7	動画 1920×1080
2.7型23万ドット 液晶	92×123 ×40.8㎜
手ブレ補正 電子式	225g

Performance



Spec

▶有効画素数 約1430万画素 ▶撮像素子 1/2.33型CMOS ▶レンズ 38～190ミリ相当 F3.5-3.7 ▶手ブレ補正 電子式 ▶シャッター速度 1/1500～2秒 ▶ISO感度 50～1600 ▶液晶モニター 2.7型23万ドット ▶メモリーカード SDHC、SDXC ▶電源 専用充電池 ▶電池寿命 約200枚 ▶大きさ 92×123×40.8㎜ ▶重さ 225g

発売／2010年6月23日
参考価格／約3万8000円
問い合わせ／☎072・870・4184

シーンを選ばずにフルHDが撮影できる

ムービーに強いデジカメとして独自の進化を続けるサンヨーのザクティシリーズ。「DMX-CA100」はフルハイビジョンムービー撮影に対応した最新モデルだ。水深3㍍で60分間使用できる防水性能を備えているので、水中やマリンスポーツ、雨天時などの場面を、フルハイビジョンの高画質で保存することができる。

本体の小型化と高画質を両立するため、高速映像処理エンジン「プラチナΣ（シグマ）・Ⅲ」を新たに開発。CMOSイメージセンサーとの最適化を図るとともに、映像処理アルゴリズム・アーキテクチャーの見直しや低消費電力化が行われている。

本機の目玉であるフルハイビジョン動画は、クオリティ別に5つの撮影モードから選択可能。また、防水仕様ながらステレオ音声記録にも対応しているため、臨場感のある動画が楽しめる。圧縮形式には「MPEG-4 AVC／H・264」を採用。静止画と同じように1つのファイルとして扱えるため、パソコンでの編集に便利なフォーマットだ。

静止画撮影機能では、新方式の「リバース連写」が便利。これは撮影ボタンを押している間は画像を取り込み続け、撮りたいシーンが終わったときに指を離すと、直前に取り込まれたデータをSDカードに記録するというもの。これならタイミングを合わせてシャッターボタンを押す必要がないので、シャッターチャンスを逃すこともない。

静止画撮影もそれなりに使いやすいが、デジタルカメラというよりは小型のムービーカメラなので、動画撮影を重視するユーザーにオススメ。

Point

SDカードの採用ですばやい起動を実現

ボディの側面、液晶モニターの下には、電源ボタンやメニューボタンなどの各種操作ボタンが設置されており、反対側の側面にはSDカードとバッテリーが収納されている。SDカードの採用は、HDDやDVDメディアを採用したカメラよりも起動が早いというメリットがある。

便利で使いやすいフリーアングル液晶

背面にはズームボタンや、動画と静止画それぞれの撮影ボタンを配置。動画撮影中でも写真撮影ボタンを押せば、そのまま写真を撮ることができる。フリーアングル式の2.7型ワイド液晶モニターは、285度の回転範囲を持つため、さまざまなアングルで撮影することが可能だ。

ザクティならではの撮影スタイル

やはりザクティといえば、片手で気軽に撮れるこのスタイルが魅力。撮影中の操作は、親指の届く範囲でほとんど行えるのもポイント。しかし馴れないと、望遠撮影時などはぶれやすい。そういった場合は片手ではなく、両手で支えるようにしたい。

Illustration はら

コンセプトは、「水辺の廃墟を探検する女の子ふたり」です。担当させていただいたカメラが「防水対応」とのことでしたので、海の絵にしたいと思い描きました。雨園っぽい雰囲気がでていれば幸いです

■ キヤノン

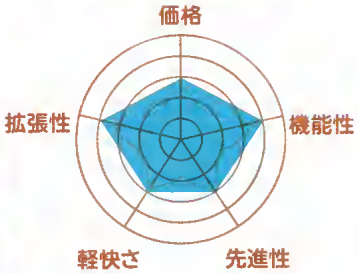
パワーショット D10

ストラップ装着で アクティブな撮影が可能に

Data

1210万画素 1/2.3型CCD	最短撮影距離 3㎝
35～105ミリ相当 F2.8-4.9	動画 640×480
2.5型23万ドット 液晶	103.6×66.9 ×48.8㎜
手ブレ補正 レンズシフト式	190g

Performance



Spec

●有効画素数 約1210万画素 ●撮像素子 1/2.3型CCD ●レンズ／35～105ミリ相当 F2.8-4.9 ●手ブレ補正 レンズシフト式 ●シャッター速度 1/1500～15秒 ●ISO感度 80～3200 ●液晶モニター 2.5型23万ドット ●メモリーカード／SDHC ●電源 専用充電池 ●電池寿命 約220枚 ●大きさ 103.6×66.9×48.8㎜ ●重さ 190g

発売／2009年4月16日
参考価格／約3万9000円
問い合わせ／☎050・555・90005

アウトドアに向いた多数の付属品も魅力

かつては一部のメーカーのみだった防水仕様のコンパクトデジカメも今や当たり前となり、出していないメーカーのほうが少ないくらいだ。防水コンパクト後発組といえるキヤノンも、2009年に初の防水モデルとなる「パワーショットD10」を発売している。

デザイン的には、ずんぐりむっくりという言葉が似合いそうな感じだが、各操作ボタン部などに防水シーリングを施すことで、水深10㍍までの防水性能を実現している。水深10㍍の防水性能を持つカメラは多くないので、このデザインが伊達じゃないことの証明ともいえる。細かな砂やホコリの侵入を防ぐ防塵性能にも優れ、マイナス10度まで使用できる耐寒性能や、落下などに強い耐衝撃性能、撮影環境が変化しても曇りにくい二重ガラスなどを備えている。

レンズの焦点域は35ミリ相当から105ミリ相当の光学3倍ズームで、最近のカメラとしては少し物足りない数値。しかし、有効1210万画素センサーを部分的に切り出すデジタルテレコンを使えば、高画質を維持したまま、最大で2倍の望遠効果を得ることができる。

アウトドアキットという販売形態も特徴。ネックタイプやショルダータイプ、腰吊りタイプといった3種類のストラップセットや、4色のフロントカバーなど、その日の気分や撮影用途に合わせてカスタマイズすることができる。

デザインは好みが分かれそうだが、高いアウトドア性能と、たくさんの付属品によるカスタマイズの自由度は魅力的。いろいろなフィールドに行けば行くほど、愛着がわくカメラといえる。

Point

少し気になるグリップ感

かなり厚いボディに見えるが、数字上では「パワーショットG11」と同程度。グリップ部は凹凸がなく、フロントカバーも滑り止めが施されているわけではないので、グリップ感には若干の不安が残る。

手袋着用時でも操作がしやすい大型ボタン

背面のボタンひとつひとつが大きくなっているため、手袋を着用したままでも操作がしやすい。また、ボタンレイアウトをわかりやすくすることで、押し間違いを軽減させている。

付属品による多彩なカスタマイズが可能

同梱されているキット用品の一部。ストラップのひもはかなり太めで丈夫。フロントカバーは最初に装着されている青を含めて4色が用意されている。雪の上では見つけすいオレンジ、フォーマルな場では落ち着いたグレーなど、用途に合わせて変更するのもよい。

Illustration 田上俊介

昨年海の近くに越してから海の絵を描く事が増え、今回も海を描かせていただけたら　という思いがあって防水カメラを希望させていただきました　普段間近で感じている海の雰囲気を少しでもお届けできましたらこの上なく幸せでございます。

■ ニコン

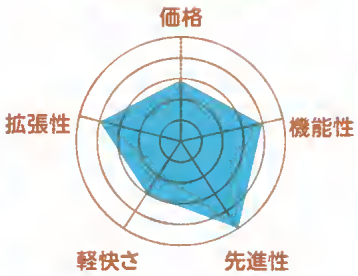
クールピクス S1100pj

より便利に進化した プロジェクター搭載カメラ

Data

1410万画素 1/2.3型CCD	最短撮影距離 3cm
28~140ミリ相当 F3.9-5.8	動画 1280×720
3.0型46万ドット 液晶	100.8×62.7 ×24.1mm
手ブレ補正 レンズシフト+電子式	155g

Performance



Spec

●有効画素数 約1410万画素 ●撮像素子 1/2.3型CCD ●レンズ 28~140ミリ相当 F3.9-5.8 ●手ブレ補正 レンズシフト式+電子式 ●シャッター速度 1/1500~4秒 ●ISO感度 80~6400 ●液晶モニター 3.0型46万ドット ●メモリーカード SDHC、SDXC ●電源 専用充電池 ●電池寿命 約220枚 ●大きさ 100.8×62.7×24.1mm ●重さ 155g

発売／2010年9月16日
参考価格／約4万3000円
問い合わせ／0570・02・8000

プロジェクターの進化で活用シーンが広がる

2009年9月に発売された超小型プロジェクター内蔵のコンパクトデジカメ「クールピクスS1000pj」、その後継機となるのが本機「クールピクスS1100pj」だ。

最大の特徴はもちろん、カメラ本体に搭載されたプロジェクターで、撮影した画像を投映できること。投映距離によって画面サイズを調整することができ、26cm時の5型相当から2・4m時の47型相当まで、さまざまなサイズをカバー。投映画像の明るさも従来機の10ルーメンから14ルーメンと約40%向上しているため、天上やテントの中などでも鮮明に投映できる。投映中の画像編集も可能で、各種フィルター効果を再現するなどの演出が楽しめる。

付属のUSBケーブルでパソコンに接続すれば、パソコンのモニター上に表示している資料や写真を投映することができるので、ビジネスシーンでも活躍しそうだ。

肝心のカメラ機能はというと、レンズは28~140ミリ相当の光学5倍ズームを搭載し、レンズシフト式と電子式を併用した手ブレ補正機能を備えている。さらに画像処理エンジンには新世代の「EXPEED C2」が採用され、それをベースにした画像処理システムを構築することで画像の処理速度を向上している。

背面の液晶は3・0型46万ドットと高精細。タッチパネル式を採用しているため、画面に触れるだけで、ピント合わせやシャッターを切るなどの直感的な操作が可能。

専用の機械がなくても大画面での投映が気軽に楽しめるため、新しいコミュニケーションツールとしても期待できそうだ。

Point

投映画像のピント合わせはダイヤル式

カメラ上部にはプロジェクターボタンとプロジェクターフォーカスダイヤルを一体型にして設置。中央のボタンを押せばプロジェクターが起動し、周囲のダイヤルでピント合わせができる。ダイヤル式を採用することで、ピントの微調整が可能になった。

タッチパネル採用による無駄のないデザイン

ほとんどの操作をタッチパネルに触れることで実行できるため、余計なボタンは設置されておらず、シンプルなデザインに仕上がっている。独立した動画ボタンを押せば、ワンタッチでHD動画撮影に移行することが可能だ。

快適な鑑賞が可能なプロジェクター機能

プロジェクター投映時のイメージ。カメラの底部には投映角度を維持するための保持脚が備えられている。保持脚を使えば、机の上などに置くだけで、約10度の見やすい投映角度を維持することができる。付属のリモコンを使えば、離れた位置からの操作も可能。

Illustration rato

S1100pという特殊なカメラをというシチュエーションでイラストに落としこめるか、というところに一番気を使いました。そしてカメラを疑人化、もしくはモチーフにして、少し無機質な人工的な雰囲気を出せれば、と思いこういう絵にしてみました。

■ キヤノン

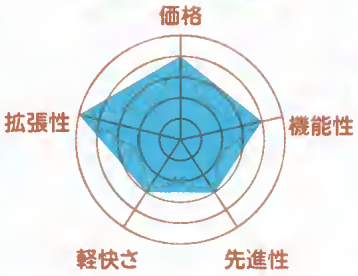
パワーショット G11

可動式液晶モニター搭載 重厚な作りも魅力の高級機

Data

1000万画素 1/1.7型CCD	最短撮影距離 1m
28～140ミリ相当 F2.8-4.5	動画 640×480
2.8型46万ドット 可動式液晶	112.1×76.2×48.3㎜
手ブレ補正 レンズシフト式	355g

Performance



Spec

●有効画素数 約1000万画素 ●撮像素子 1/1.7型CCD ●レンズ 28～140ミリ相当 F2.8-4.5 ●手ブレ補正 レンズシフト式 ●シャッター速度 1/4000～15秒 ●ISO感度 '80～3200 ●液晶モニター 2.8型46万ドット可動式 ●メモリーカード SDHC ●電源 専用充電池 ●電池寿命 約390枚 ●大きさ 112.1×76.2×48.3㎜ ●重さ 355g

発売／2009年10月2日
参考価格／約4万4000円
問い合わせ／☎050・555・90005

マニュアル操作でクリエイティブに撮れる

パワーショットのフラッグシップモデルといえる「Gシリーズ」。素材やデザインなど、その重厚な作りのボディや、各種マニュアル機能などが、多くのカメラファンに支持されている。

「パワーショットG11」は、前機種「G10」の2段ダイヤルやボディフォルムを継承しつつ、2004年発売の「G6」以来となるフリーアングルタイプの液晶モニターが復活。さまざまな撮影ポジションやアングルでの撮影が可能だ。

搭載されているズームレンズは、28～140ミリ相当の光学5倍ズームで、「G10」と同じ仕様になる。もちろん、レンズシフト式手ブレ補正機構（IS）を搭載する。

「G10」は約1470万画素という高画素のCCDを搭載していたが、「G11」には約1000万画素と画素数を抑えたCCDが搭載されている。そのぶん、1画素あたりの受光量をアップさせ、高感度時でも低ノイズで撮影できるようになった。

これに伴い、感度が通常でもISO3200までとなり、新搭載の「ローライトモード」では、最高ISO12800まで自動で感度アップするようになった（記録画素数は約250万画素に固定）。ほのかな明かりでも手ブレを防ぎつつ、同時にノイズも抑えることが可能だ。

ほかにも、各種マニュアル的な機能が搭載されているので、クリエイティブな撮影を堪能することができる。なかでも、一眼レフEOSシリーズを彷彿とさせるコントローラーホイールの操作感などは、ほかのコンパクト機との違いを実感する部分だ。

Point

ボディ上面には3つのダイヤルを配置

右側に感度と撮影モードの2段ダイヤル。左側に露出補正ダイヤル。そのレイアウトやデザインは、基本的に前機種「G10」と同じ。アクセサリーシューを装備するので、EOS用の外付けフラッシュも使用できる。このあたりの拡張性も、Gシリーズの魅力の1つだ。

ファインダーを備えつつも、余裕のあるデザイン

少し大柄なボディなので、ボタンやダイヤルのレイアウトに余裕がある。そのため、光学ファインダーも装備されている。だが、コントローラーホイールの上に並ぶ「AFフレーム選択」と「測光」のボタンは、誤って触ってしまう危険性も。

縦の構えでも使える可動式液晶モニター

上下左右、自由自在に可動する液晶モニターを搭載しており、カメラを縦に構えた場合でも、楽な体勢で撮影できるので、撮影の幅が広がる。液晶自体のサイズと明るさも必要十分で使いやすい。

Illustration ゆーげん

コンパクトデジタルカメラよりもより本格的なモデルのカメラになりますか、学生に持たせる事でギャップ感を出してみたいと考えました　カメラ片手に電車に飛び乗った学生たちが、窓から吹き込む風と風景をいっぱいに楽しむ。そんな情景を目指しています　光の演出や空気感、また、カメラのリアリティにこだわりました

■ フジフイルム

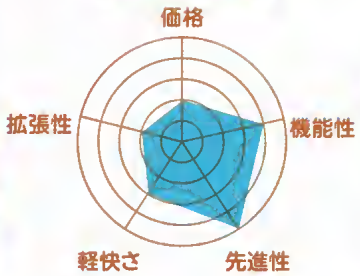
ファインピックス REAL 3D W3

2つの映像システムで 立体的な3D映像を撮影

Data

1000万画素 1/2.3型CCD	記録画素数3D静止画 8M
35～105ミリ相当 F3.7-4.2	動画 1280×720
3.5型115万ドット液晶	124×65.9×27.8㎜
手ブレ補正 なし	230g

Performance



Spec

▶有効画素数 約1000万画素 ▶撮像素子 1/2.3型CCD×2 ▶レンズ35～105ミリ相当 F3.7-4.2 ▶手ブレ補正 なし ▶シャッター速度 1/1000～4秒 ▶ISO感度 100～3200 ▶液晶モニター 3.5型115万ドット ▶メモリーカード SDHC ▶電源 専用充電池 ▶電池寿命 約150枚 ▶大きさ 124×65.9×27.8㎜ ▶重さ 230g

発売／2010年9月4日
参考価格／約4万8000円
問い合わせ／0570・00・1060

3Dハイビジョン動画で思い出も立体的に残せる

大型3Dテレビの普及や、3D映画の公開などで、とても身近となった3D映像。そんな3D映像を手軽に撮影できるのが、フジフイルムのコンパクトデジカメ「REAL 3D W3」だ。

左右2組の撮像システムから、焦点・明るさ・色調などが均一な画像を取り込み、3Dに合成する仕組みで、人が立体感を感じる原理でもある「両眼視差」と同じ環境を作り出している。左右のシャッターを完全に同期させることで、同じ瞬間の映像を取り込み、自然な立体感を生み出す。

さらに、信号処理能力を強化した新開発の画像処理プロセッサー「リアルフォトエンジン3D HD」により、1280×720／24fpsの3Dハイビジョン動画撮影が可能になった。背面にはプレミアム3D液晶を搭載しているので、専用のメガネを使用しなくても撮ったその場で3D動画を楽しむことができる。

2Dの撮影機能も充実している。2つのレンズ設定を変えることで、広角と望遠の画像を同時に撮影できる「テレ／ワイド同時撮り」や、色調の設定を変えることで、カラー映像とモノクロ映像を同時に記録できる「2カラー同時撮り」、感度の設定を変えることで高感度と低感度を同時に撮影する「高／低感度同時撮り」といった、2つの撮影システムを生かした機能が特徴だ。

最近は、3Dテレビや3Dパソコンを導入したという家庭も決して少なくないはず。本機の前機種「3D W1」が発売された1年前よりも、周囲の3D環境は確実に整いつつある。これからは思い出を3Dで残すということを考えていく時代なのかもしれない。

Point

対応機器どうしで3D静止画の送受信が可能

ボディは普通のコンパクトデジカメよりも横に大きいが、それでも2つの映像システムを搭載しているとは思えないスリムさだ。ボディ上面には赤外線通信用のポートが備わっているため、「W1」や「W3」、一部の3Dテレビに対して、ワイヤレスで3D静止画を転送することができる。

メガネを着用しなくても楽しめる3D液晶

背面の液晶は、凸レンズを並べることで両眼視差を生み出し、立体感を感じさせるレンチキュラーレンズ方式を採用。専用のメガネを着用しなくても、撮ったその場で3D映像が楽しめる。従来機よりも色再現性や明るさがアップしているのもポイントだ。

気軽に3D映像が鑑賞できるフォトビューアー

現在発売されているフォトビューアーで、唯一3D映像に対応した「ファインピックス REAL 3D V1」。液晶のサイズが8.0型で、20種類のスライドショー再生を3D/2Dの両方で楽しめるほか、ステレオ音声付きの動画再生にも対応している。（参考価格／約4万円）

キャラとカメラを見せる構図であることと、3Dであることを絵にどう描くか?に気を使いました。

Illustration 七草

■ キヤノン

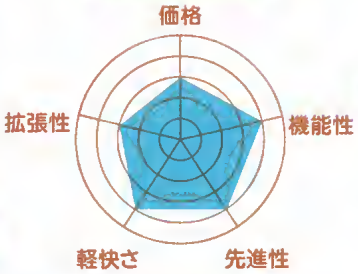
パワーショット S95

大口径レンズを搭載した小さな本格派デジカメ

Data

1000万画素 1/1.7型CCD	最短撮影距離 5cm
28～105ミリ相当 F2.0-4.9	動画 1280×720
3.0型46.1万ドット 液晶	99.8×58.4×29.5mm
手ブレ補正 レンズシフト式	170g

Performance



Spec

▶有効画素数 約1000万画素 ▶撮像素子 1/1.7型CCD ▶レンズ 28～105ミリ相当 F2.0-4.9 ▶手ブレ補正 レンズシフト式 ▶シャッター速度 1/1600～15秒 ▶ISO感度 80～3200 ▶液晶モニター 3.0型46.1万ドット ▶メモリーカード SDHC、SDXC ▶電源 専用充電池 ▶電池寿命 約200枚 ▶大きさ 99.8×58.4×29.5mm ▶重さ 170g

発売／2010年8月26日
参考価格／約5万円
問い合わせ／☎050・555・90005

大口径レンズと新機能で幅広いシーンに対応

Gシリーズよりも小型で、各種マニュアル操作などがカメラファンから高い人気を得ている、キヤノンのパワーショットSシリーズ。その最新モデルとなるのが、2010年8月に発売された「S95」だ。

前機種の「S90」から5だけ上がった型番のとおり、基本的なデザインは「S90」を踏襲している。28～105ミリ相当の光学3・8倍ズームも同様に搭載。もちろんワイド側の開放F値は大口径F2・0なので、暗いシーンでの撮影や、近接撮影などボケを生かした撮影で力を発揮する。

手ブレ補正機構にはコンパクトデジカメでは初となる、ハイブリッドISを採用。これにより、従来の角度ブレに加え、被写体に対してカメラが水平に移動することで生じるシフトブレを軽減することができるようになった。

明暗差の激しいシーンでは、黒つぶれを抑える暗部補正と、白とびを抑えるダイナミックレンジ補正が有効。それぞれの項目を個別に設定することが可能なので、逆光などのシーンでも滑らかな階調を表現することができる。

レンズの根元には、「S90」で好評だったコントローラーリングを装備。リングの角の形状を滑らかなフォルムにしたり、切り替えのピッチ幅を細かくするなど、操作性を高めている。リングに割り当てられる項目も、アスペクト比の設定とコントラストの設定が加わった。

一見すると変化が少ないように見えるが、両吊りストラップに対応するなど、各部はしっかりと進化している。軽快さと高画質を両立したいユーザーにオススメの1台だ。

Point

ボタンレイアウトが変更され、より使いやすくなった

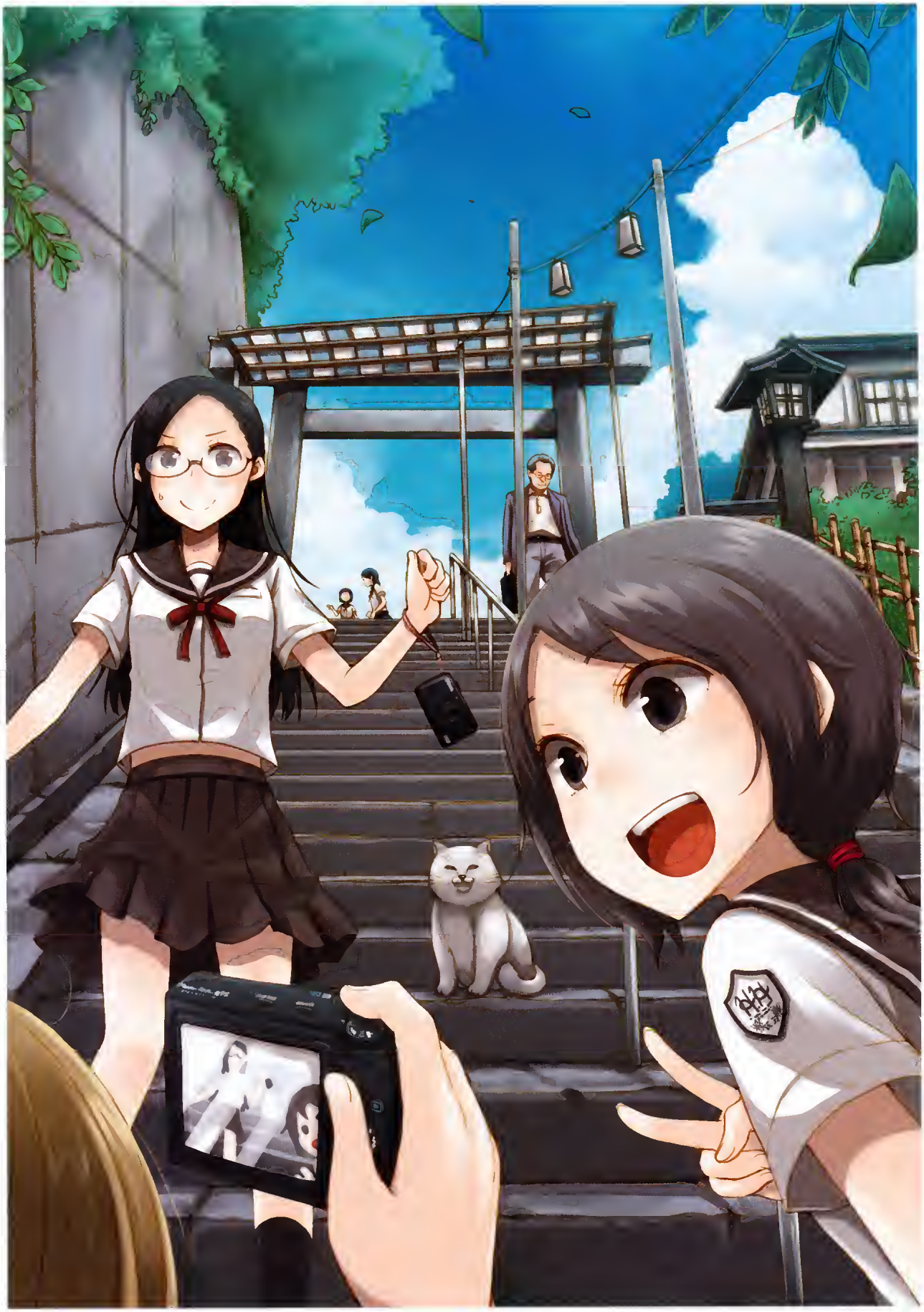
ボディの厚みは従来機よりも1.4mm薄い29.5mm。本体上面に向かって絞り込まれる形状のため、数字よりもスリムに見える。「S90」では「リングファンクションボタン」が、電源ボタンよりも右手側にあり、間違えて押してしまう恐れもあったが、「S95」では位置が改善され、使いやすくなっている。

小さめのボディに3.0型の液晶を搭載

背面液晶には耐久性に優れ、屋外での映り込みや反射を軽減するクリアライブ液晶が新たに採用されている。メニューの選択に用いるコントローラーホイールは、タッチが軽く操作しやすいが、クリック感がないため、不用意に設定が変わる恐れもある。

アナログ感覚で操作できるコントローラーリング

独特のクリック感が心地よいコントローラーリングは、上面のファンクションボタンで、ステップズームや露出補正など、さまざまな機能を割り当てることができる。自分に使いやすくカスタマイズできるのも、「S95」の魅力だ。



修学旅行中の女子学生というイメージで描きました。楽しそうな雰囲気を少しでも感じてもらえれば幸いです。

Illustration 文倉十

■ リコー

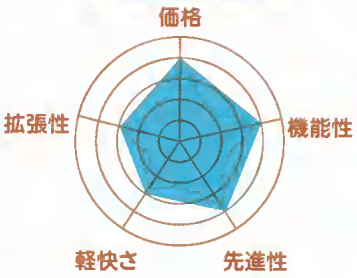
GRデジタルIII

さらにパワーアップした究極の広角単焦点カメラ

Data

1000万画素 1/1.7型CCD	最短撮影距離 1cm
28ミリ相当 F1.9	動画 640×480
3.0型92万ドット液晶	108.6×59.8×25.5mm
手ブレ補正 なし	188g

Performance



Spec

▶有効画素数 約1000万画素 ▶撮像素子 1/1.7型CCD ▶レンズ 28ミリ相当 F1.9 ▶手ブレ補正 なし ▶シャッター速度 1/2000～180秒 ▶ISO感度 64～1600 ▶液晶モニター 3.0型92万ドット ▶メモリーカード SDHC ▶電源 専用充電池 ▶電池寿命 約370枚 ▶大きさ 108.6×59.8×25.5mm ▶重さ 188g

発売／2009年8月5日
参考価格／約5万9000円
問い合わせ／0120・000・475

さらに完成度を増した人気シリーズの3代目

堅牢なマグネシウム合金製ボディに、高性能な28ミリ相当の広角単焦点レンズを搭載するという基本コンセプトを変えずに、ロングセラーとなっているGRデジタルシリーズ。2005年の初代「GRデジタル」、2007年の「GRデジタルII」に続く3代目となる「GRデジタルIII」は、初代からのスタイルを継承しつつ、「広角28ミリ」レンズを刷新。これまで開放F値がF2・4だったのを大口径化し、F1・9という明るさを実現した。

大口径化によって、暗めのシーンでも、より低めのISO感度を選んで高画質に仕上げたり、より速いシャッター速度でブレを防止することができるほか、マクロ撮影でのボケ効果も期待できる。

撮像素子は従来モデルと同じ約1000万画素だが、高感度に強いCCDを採用し、画像処理エンジンも「GRエンジンIII」に進化。ISO200での撮影時に従来のISO100と同等の画質を得られるという。

シャッターチャンスに対応する速写性も向上している。アルゴリズムの改良で低輝度時のフォーカス駆動時間を短縮するとともに、「プレAF」機能ではあらかじめ被写体の動きに応じてフォーカスを調整しておくことで、ピント合わせをスピードアップできる。また、ピントを合わせていては間に合わないような場面では、シャッターボタンを半押しせずに一気に押し込むことで設定した距離にピントを合わせる「フルプレススナップ」機能が有効だ。

必要以上の変更をしない「頑なさ」も評価されているGRデジタルだが、IIIはシリーズの決定版となる1台といえるだろう。

Point

ダイヤルとレバーによる操作性の高さも魅力

楕円形のシャッターボタン、前方のアップダウンダイヤル、後方のADJ.レバーというレイアウトによる操作性の高さはおなじみのもの。モードダイヤルには、よく使う設定を呼び出せるマイセッティングを3種類登録できる。

液晶モニターは高精細な3.0型92万ドット

高精細な3.0型92万ドットの液晶を採用。画面いっぱいに81枚のサムネイルを表示できる「マイクロサムネイル表示」機能も搭載。押すたびに設定が切り替わるファンクションボタンは、2つに拡充された。

一瞬のチャンスを逃さない「フルプレススナップ」

シャッターボタンを一気に押し込んだときに、ピント合わせを行わずに設定しておいた距離で撮影する「フルプレススナップ」機能を搭載。被写体ブレを防ぐために、この瞬間にISO感度を高くしてシャッター速度を上げることもできる。

Illustration 滝川悠

きれいなものや素敵なものに出会った時、つい写真に残しておきたくなる。あの感じを描けたらなぁ・と。こだわって描いたのはもちろんカメラ本体！　場所が植物園なのは・私が今いちばん行きたい場所だからです（笑）。

■ リコー

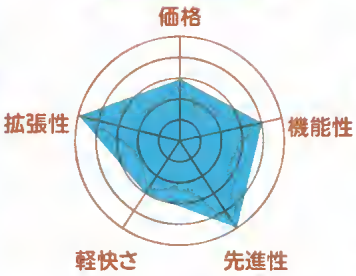
GXR

撮影領域を大幅に拡大するユニット交換式カメラ

Data

1000万画素 1/1.7型CCD	最短撮影距離 1㎝
24〜72ミリ相当 F2.5-4.4	動画 640×480
3.0型92万ドット 液晶	113.9×70.2 ×44.4㎜
手ブレ補正 センサーシフト式	325g

Performance



Spec P10キット

●有効画素数／約1000万画素 ●撮像素子 1/1.7型CCD ●レンズ 24〜72ミリ相当 F2.5-4.4 ●手ブレ補正／センサーシフト式 ●シャッター速度 1/2000〜180秒 ●ISO感度／100〜3200 ●液晶モニター 3.0型92万ドット ●メモリーカード／SDHC ●電源 専用充電池 ●電池寿命 約410枚 ●大きさ 113.9×70.2×44.4㎜ ●重さ 325g

発売／2009年10月2日
参考価格／約2万4000円（ボディ）、約5万円（P10キット）、約6万円（S10キット）
問い合わせ／0120・000・475

新しい発想で生まれた新世代のカメラシステム

こだわりのカメラファンに高い人気を誇る、GRデジタル、GXシリーズでおなじみのリコーから発売されたのが、まったく新しいスタイルのシステムカメラである「GXR」だ。

ジャンルとしてはコンパクトデジカメに入るが、ユニット交換式という新しいシステムを採用している。レンズと撮像素子、画像処理エンジンを一体にした「カメラユニット」を交換することにより、1台のボディを異なるカメラとして使用できるのが魅力だ。

このシステムにより、ボケを生かしたいなら明るいレンズと大きな撮像素子を搭載したユニット、機動性を重視するならレンズを小型軽量化できる小さな撮像素子と組み合わせたユニット、というように用途に合わせて活用できる。レンズと撮像素子が一体になっているので、センサーにゴミが付着する心配がなく、画像処理エンジンや手ブレ補正機構も、レンズの特性や性能にあったものを搭載できるというメリットがある。

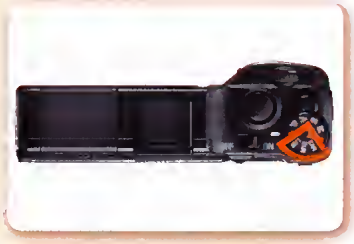
将来的にはカメラ以外のユニットを開発することも可能で、スキャナーやプロジェクターなどのユニットを装着して、記録機器や出力機器として利用することも想定できる。

カメラとしての基本性能は高く、ボディには信頼性の高いマグネシウム合金を採用。手になじむ大きめのラバーグリップは手ブレ防止に役立ち、構えた感覚も良好だ。GRデジタルなどで培われたスムーズな操作感とカスタマイズ性の高さを引き継ぎながら、「ダイレクトボタン」を新たに搭載するなどの向上が図られており、撮影者の意図に的確に応える撮影機能を備えている。

Point

GXシリーズで培った操作性を維持

ダイヤルやシャッターボタンなどの配置はGXシリーズとほぼ同じだが、電源スイッチがスライド式になっている。モードダイヤルには自分好みの設定を登録しておけるマイセッティングが3つ用意されているので、状況に合わせてスムーズな切り替えが可能。



操作がわかりやすいダイレクトボタンを新設

撮影設定を変更できるコントロールパネルを呼び出す「ダイレクトボタン」が新たに加わった。エントリークラスの一眼レフを使い慣れた人にも操作がわかりやすい。メニューの透過率も変更できるので、効果を確認しながら設定を変更できる。

ユニットの着脱機構はシンプルなスライド式

カメラユニットを装着するときは、ボディ側のガイドレールに沿ってユニットをスライドさせるだけでOK。取り外すときはレバーでロックを解除してから引き抜く仕組みなので、誤作動でユニットが外れてしまう心配は少ない。レールの素材には耐蝕性に優れたステンレスを採用。

現在GXRの交換レンズは3種類なので、それぞれのレンズで描いてみました。キリギリスがオススメです！

Illustration 珠月まや

■ パナソニック

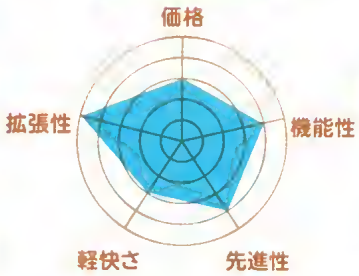
ルミックス LX5

開放F値2.0のレンズ搭載の高級コンパクトデジカメ

Data

1010万画素 1/1.63型CCD	最短撮影距離 1㎝
24~90ミリ相当 F2.0-3.3	動画 1280×720
3.0型46万ドット 液晶	109.7×65.5×43㎜
手ブレ補正 レンズシフト式	233g

Performance



Spec

●有効画素数 約1010万画素 ●撮像素子 1/1.63型CCD ●レンズ 24~90ミリ相当 F2.0-3.3 ●手ブレ補正 レンズシフト式 ●シャッター速度 1/4000~60秒 ●ISO感度 80~12800 ●液晶モニター 3.0型46万ドット ●メモリーカード SDHC SDXC ●電源 専用充電池 ●電池寿命 約400枚 ●大きさ 109.7×65.5×43㎜ ●重さ 233g

発売 2010年8月20日
参考価格 約6万円
問い合わせ ☎0120・878・365

幅広く改良を施してさらなる高画質を追求

多彩な撮影モードや機能を搭載し、高級感のあるルミックスLXシリーズ。前機種「LX3」から2年の時を経て、さらなる進化を遂げたのが「LX5」だ。「LX3」は画素数が1010万画素。「LX5」では画素数がアップして……。といいたいところだが、「LX3」と同じ1010万画素。ただし、センサーの性能を向上させ、被写体の明るい部分から暗い部分までを幅広く再現するダイナミックレンジの拡大や、高感度でもノイズを少なくするなど、描写にこだわった改善がなされている。画素数として実用十分だし、最近は高級機ほど画素数にこだわらない傾向がある。

搭載されるレンズは24~90ミリ相当の光学3・8倍。前機種の「LX3」が光学2・5倍の24~60ミリ相当だったので、望遠側が伸びたことになる。ズーム倍率は高くなっているが、広角側でF2・0と明るい開放F値は変わらない。手ブレ補正機構も最新の「Power O・I・S」に進化。センサーの性能アップで高感度ノイズも減り、暗い場所でもきれいな写真が撮れるようになった。

背面には同社のデジタル一眼と同じく後ダイヤルを配し、絞りや露出補正などが操作しやすくなった。写真の縦横比を変更できるマルチアスペクト機能には、1:1のフォーマットが加わり、一回の撮影で4種類のフォーマットが記録される「アスペクトブラケット」も搭載。また、新たに専用コネクターを装備しており、液晶ファインダー「DMW-LVF1」が装着できるのもポイントだ。

画質と機能と操作性をバランスよく向上させた、魅力的なカメラといえる。

Point

欲しい機能がすぐに呼び出せる操作系統

レンズ部分にはアスペクト比とAFの切り替えスイッチがあり、すばやく操作できる。視認性の良い撮影モードダイヤルには、新たにマイカラーモードと、クリエイティブ動画モードが加わった。また、独立した動画ボタンも設けられている。

専用コネクターの新設で、拡張性が上がった

背面親指側にダイヤルが設けられ、絞りの変更や露出補正がやりやすくなった。アクセサリーシューには別売の光学ファインダーの装着ができるほか、新たに設置された専用コネクターを介することで、ライブビューファインダーの装着が可能となった。

レンズを交換するように使える「ステップズーム」

ズームレバーを動かすたびに、固定された焦点距離にズームできる「ステップズーム」を搭載。単焦点レンズを交換するように画角が決められる。慣れ親しんだ画角が簡単に呼び出せるので、構図の決定もスムーズに行える。

Illustration たかみち

■ シグマ

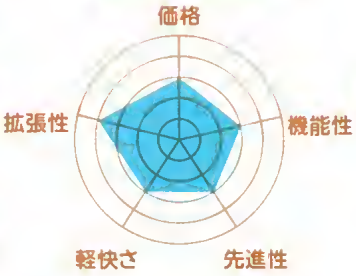
DP2s

一眼並みの画質を実現した高解像度コンパクトデジカメ

Data

1406万画素フォビオンX3	[illegible] 28ミリ
41ミリ相当 F2.8	動画 320×240
2.5型23万ドット液晶	113.3×59.5×56.1mm
手ブレ補正なし	260g

Performance



Spec

▶有効画素数 約1406万画素 ▶撮像素子 [illegible]・13.8 X3ダイレクトイメージセンサー (CMOS) ▶レンズ 41ミリ相当 F2.8 ▶手ブレ補正 なし ▶シャッター速度 1/2000～15秒 ▶ISO感度 50～3200 ▶液晶モニター 2.5型23万ドット ▶メモリーカード SDHC ▶電源 専用充電池 ▶大きさ 113.3×59.5×56.1 ▶重さ 260g

発売 2010年3月27日
参考価格 約7万円
問い合わせ ☎0120・9977・88

レスポンスの向上でさらに使いやすくなった

一眼レフと同様の高画質が手軽に楽しめる、シグマのコンパクトデジカメDPシリーズ。「DP2」の後継機である「DP2s」は、ボディ形状はそのままに、機能の追加や、新型映像エンジンの採用により、レスポンスや画質の向上が図られたモデルだ。

最大の特徴は、デジタル一眼に匹敵する大きな撮像素子。高画質を実現するとともに、デジタル一眼のようなボケを生かした写真を撮影することができる。

DPシリーズに採用されている撮像素子は、「X3ダイレクトイメージセンサー」と呼ばれるもので、原理的に偽色が発生しないため、ローパスフィルターが必要なく、光と色の情報をダイレクトに取り込むことができる。そのため、通常のデジカメとは別次元の解像感が味わえる。一方で、苦手な被写体やシチュエーションも存在するため、使いこなすことは難しいが、その描写力は一見の価値がある。

搭載されているレンズは、41ミリ相当F2・8と標準レンズの画角に近いため、広角レンズを採用した同シリーズの「DP1s」よりも背景をぼかしやすく、ポートレート撮影などに向いている。

機能的には、新たに「パワーセーブモード」を追加。これをオンにすると、液晶がスリープになって消えたときの待機電力をさらに抑える設定となり、撮影枚数が増やせる。決してバッテリーの持ちがいいとはいえないDPシリーズだけに、この機能は重宝しそうだ。

押すだけでキレイに撮れる簡単コンパクトとは毛色が異なるが、独自のセンサーによる描写力はとても魅力的。画質にこだわるユーザーはぜひ一度体感してほしい。

Point

従来機と同様のシンプルなレイアウト

ボタンレイアウトは前機種の「DP2」から変更されていないため、シリーズユーザーなら難なく使いこなせる。親指が当たる部分に設けられたマニュアルフォーカス用のダイヤルには、距離目盛りが描かれているため、目測によるピント合わせも可能。

使用度の高い機能は「QSボタン」から呼び出す

背面のボタンも従来機と同様のレイアウトだが、機能を示す印字が赤と白の2色で色づけされ、操作性が向上している。撮影に使うさまざまな機能は、「QS（クイックセット）ボタン」から簡単に呼び出すことができる。

同じ操作性で、広角レンズを搭載した「DP1x」

「DP2s」と同様のX3ダイレクトイメージセンサーを採用し、広角28ミリ相当の単焦点レンズを搭載した「DP1x」も発売予定。背面、上面ともにDP2sと同じボタンレイアウトなので、2台同時に使用しても違和感がない。風景や人物など被写体によって使い分けるのも手だ。

Illustration 緋色雪

■ ライカ

X1

大型センサーを搭載した“ライカ”のコンパクト

Data

1220万画素 APS-Cサイズ CMOS	最高連写速度 3コマ/秒
36ミリ相当 F2.8	防塵 なし
2.7型23万ドット 液晶	124×59.5×32mm
手ブレ補正 電子式	286g

Performance

Spec

●有効画素数 約1220万画素 ●撮像素子 APS-Cサイズ CMOS ●レンズ 36ミリ相当 F2.8 ●手ブレ補正 電子式 ●シャッター速度 1/2000～30秒 ●ISO感度 100～3200 ●液晶モニター 2.7型23万ドット ●メモリーカード SDHC ●電源 専用充電池 ●電池寿命 約260枚 ●大きさ 124×59.5×32 ●重さ 286g

発売 2010年2月20日
参考価格 約21万円
問い合わせ ☎03・5221・9501

持つ喜びを感じさせる上質なデザイン

シンプルかつ洗練されたボディデザインを持つ、高級コンパクトデジカメのライカ「X1」。風変わりなストロボや、上部のダイヤル配置もよく、素直にカッコいいと感じるカメラだ。

特筆すべきは、やはりセンサーサイズだろう。本機に搭載された撮像素子はAPS-CサイズのCMOSセンサーで、コンパクトなボディながら、デジタル一眼並みの画質で撮影が可能。特に36ミリ相当の画角となるライカエルマリート24ミリF2・8との組み合わせは、国産のデジカメにはない解像感が味わえる。

外観はライカのM型を彷彿とさせるクラシカルなデザイン。頑丈な金属外装に合成皮革を組み合わせることで、ライカらしいカメラに仕上げられている。コンパクトデジカメとしては、やや横長のボディだが、ホールディングはしやすく、安定感も高い。

上部に配置された2つのダイヤルによる操作系も良好で、下手に背面液晶で設定するよりもスピーディーに操作できる。撮影モードの切り替えも、この2つのダイヤルの組み合わせで行う。

フォーカスはAF測距点を1点、もしくは11点から選択が可能なほか、マニュアルフォーカスによる操作も行える。マニュアルフォーカスは、モニター画面の中央一部を拡大してフォーカスを合わせる方式。全画面を拡大して焦点を合わせるカメラに比べて、構図を確認しながらシャッターを切れるメリットがある。

コストパフォーマンスは高いとはいえないが、確かに持つ喜びを感じさせてくれる。そんな魅力を持ったカメラは、やはりライカしかないだろう。

Point

ダイヤルの組み合わせで撮影モードを変更

トップカバーには、シャッター速度とF値を設定する2つのダイヤルが設けられている。それぞれのAの設定と、数値を組み合わせることで、絞り優先AE、シャッター速度優先AE、プログラムAEと、3通りの露出モードを選択できる。もちろんマニュアル露出も可能。

シンプルな操作系により、直感的な操作が可能

それぞれ個別の機能が割り振られたボタンが並ぶシンプルな操作系統。メニューの選択は十字キーのほか、十字キー周囲のダイヤルを回転させることでも変更できる。右手の親指位置にくるダイヤルを使えば、マニュアルフォーカス時にピントの調整が可能となる。

ユニークな形のポップアップストロボ

別売のハンドグリップに対応。装着すれば、より確実な安定感が得られる。ボディ上面、左側の丸を指で押し込むと、ユニークな円筒形のストロボがポップアップする。この形状だと、光源面が曲線なので、ストロボ光が拡散されるというメリットも備えている。

Illustration TOKIAME

■ ビスタクエスト

VQ1015R2

マッチ箱サイズが魅力の人気トイデジカメ

Data

130万画素 CMOS	最短撮影距離 50㎝
6.5ミリ F3.2	動画 320×240
液晶モニター なし	60×20 ×38㎜
手ブレ補正 なし	151g

Performance

Spec

●有効画素数 約130万画素 ●レンズ 6.5ミリ F3.2 ●手ブレ補正 なし ●シャッター速度 1/237秒、オート、1/5秒 ●液晶モニター なし ●メモリーカード SD ●電源 単4形電池1本 ●大きさ 60×20×38㎜ ●重さ 151g

発売 2010年5月10日
価格 5040円
問い合わせ 株式会社ゲットイット ☎03・5166・0900 ビスタクエスト
http://www.vistaquest.jp/

シャッター速度の変更で撮影シーンが広がった

デジカメの高機能化が進むなか、インターネット上で話題となったのが、米ビスタクエスト社が販売する、シンプル・小型軽量のトイデジカメ「VQシリーズ」だ。2010年5月に発売された「VQ1015R2」は、トイデジカメ初となるシャッター速度変更機能などが搭載された意欲的モデルになっている。

レンズは実焦点距離6・5ミリの固定焦点式で、ガラスとプラスチックを組み合わせた専用設計のものが採用されている。背面には液晶モニターが設置されていないため、構図の確認はポップアップ式のファインダーで行う。

トイデジカメの魅力は何といっても、そのカメラでしか撮れない独特の写真。有効画素数は約130万画素だが、特徴的な周辺減光やコントラストなどが楽しめる。

従来のトイデジカメは基本的にシャッター速度を変更できなかったが、本機ではクイック（1／237秒）、オート、スロー（1／5秒）の3段階で選択できるようになった。また、ビスタクエストの公式ホームページから専用のファームウェアをダウンロードすれば、2種類のカラーモード変更や、8段階のシャッター速度切り替えにも対応する。なお、これらはファームウェアの書き換えによって行われるため、同時に設定することはできない。自分の使用シーンに合わせてファームウェアを選択しよう。

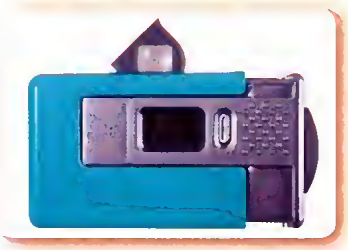
オートフォーカスや手ブレ補正機構など、今や当たり前となった機能はほとんど搭載されていないが、逆に写真を撮るという本来の楽しみが凝縮された魅力的なカメラといえる。

Point

主な操作はピントの切り替えとシャッターのみ

カバーをスライドさせるとシャッターボタンが現れる。ボタンは押しやすいが、操作を確定させるには気持ち長押しする必要がある。ピント合わせはボディ側面のフォーカス切り替えレバーで行う。目測でのピント合わせになるが、この辺りのアバウトさもトイデジカメの魅力だ。

画像確認用の液晶はないが、意外と気にならない



背面には液晶モニターがなく、モード状態や撮影枚数を確認するLCDがあるのみ。その場で画像確認はできないが、パソコン上で確認すると意表をついた写真が出てくるので、これはこれで楽しめる。LCD横のボタンで電源からモードの切り替えまでを一手に行う。

トイカメラらしい周辺減光が楽しめる

専用のレンズ設計の影響か、撮影された画像は従来機よりもクリアな印象。しかし、周辺減光やダイナミックレンジの狭さはトイデジカメらしく、デジタル一眼では味わえない面白さがある。シャッター速度の変更で撮影シーンが広がったのもうれしいポイントだ。

Illustration 長澤真

VQはプレビューウィンドウもないので感覚に頼る部分が多く、かなりアナログに寄った機種です　データを読み込んでみるまで、どのような絵になっているのかわからないところが面白いトイデジです　そんなオモチャ気分で難しいことは考えず、フィーリングだけで土暈を撮ろうとする子をイメージしました

■ ヤシカ

EZ F521

クラシカルな外観が印象的 銀塩のようなレトロデジカメ

Data

504万画素 1/2.5型CMOS	最短撮影距離 20㎝
42.53ミリ相当 F3.0	動画 640×480
2.4型液晶	110×66 ×48㎜
手ブレ補正 なし	125g

Performance

Spec

▶有効画素数 約504万画素 ▶撮像素子 1/2.5型CMOS ▶レンズ 42.53ミリ相当 F3.0 ▶手ブレ補正 なし ▶シャッター速度 1/2000～1/2秒 ▶ISO感度 オート ▶液晶モニター 2.4型 ▶メモリーカード SDHC ▶電源 単4形電池3本 ▶電池寿命 約190枚 ▶大きさ 110×66×48 ▶重さ 125g

発売 2009年10月24日
参考価格 約8000円
問い合わせ 株式会社エグゼモード 0570・0360・036

しっかりした作りの本格的トイデジカメ

昔から写真に興味を持っていた人ならば、馴染みのあるヤシカブランド。そのヤシカの名前を冠したトイデジカメが、エグゼモードから発売されている。

スタイルはかつてのフィルムカメラを連想させるクラシカルなもので、トイデジカメとはいってもなかなかしっかりした作りだ。グリップは大きめで指がかかりやすく、ボディの重さも見た目のイメージに反してとても軽い。革シボをイメージした塗装や、両吊り式のストラップもポイントだ。

また、このクラスとしては珍しく光学ファインダーを搭載している。パララックスはあるものの、このデザインなら積極的に光学ファインダーを使っていきたい気持ちになる。もちろん背面液晶によるライブビュー撮影も可能だ。

レンズは固定焦点式の42・53ミリ相当で、標準レンズに近い画角が得られる。レンズの鏡胴部を回転させることで、フォーカス位置を標準とマクロの2種類に切り替えることが可能。

機能面では、多彩なカラー効果が魅力的。撮影時には白黒やセピアなど6種類のカラー効果を、再生時にはコントラストアップや暖色など5種類のカラー効果を適用することができる。この2つの効果は組み合わせることが可能で、例えば撮影時に白黒で撮影した画像に、再生時にコントラストを上げる効果を組み合わせれば、ハイコントラストなモノクロ画像が作成できる。さまざまな組み合わせを試して、お気に入りの効果を探すといった楽しみ方も面白い。

基本的な機能はそろっているし、価格も安価なので、トイデジカメの入門用としてオススメの1台だ。

Point

右端のダイヤルと2つのボタンで構成されている

ボディ上面にはシャッターボタンと電源ボタン、モードダイヤルの3つが配置されている。モードダイヤルは、フィルムの巻き上げレバーをイメージしたもので、静止画と動画、再生の3つが選択できる。ダイヤルの中部には細かい溝が存在し、光が当たったときの反射が美しい。

基本的なボタン配置と光学ファインダー

背面の液晶サイズは2.4インチで、液晶の左上には光学ファインダーの接眼部が設けられている。十字キーにはセルフタイマーモードや、ストロボモードの設定が割り振られているが、表示が彫り込まれただけなので、暗いところでは見えにくいかもしれない。

バッテリーには、入手しやすい単4形電池を採用

バッテリーは単4形の電池3本を使用する。コンビニなどでも入手できるため、旅先でも安心だ。乾電池採用モデルの場合、ボディの重さがネックとなるが、本機はもともとが軽いためか、電池を搭載した状態でも気にならない重さになっている。

Illustration しろ

トイカメラということで、ファッションの一部として持たせることを意識して描いてみました。ラフを切っていったら比較的森ガールっぽくなってしまいましたが、いかがでしょうか――？

■ ビビター

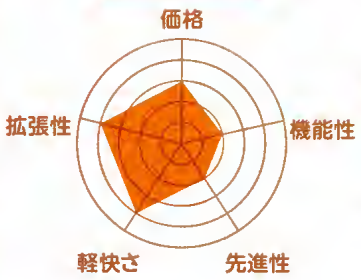
ViviCam 5050

世界中で愛される トイデジカメの代表格

Data

500万画素 CMOS	最短撮影距離 11㎝
8.5ミリ F2.8	動画 640×480
2.4型液晶	89.8×59.3×25㎜
手ブレ補正なし	90㌘

Performance



Spec

●有効画素数 約500万画素 ●レンズ／8.5ミリ F2.8 ●手ブレ補正 なし ●シャッター速度 オート ●ISO感度 100、200 ●液晶モニター 2.4型 ●メモリーカード SDHC ●電源 単4形電池2本 ●大きさ 89.8×59.3×25㎜ ●重さ 90㌘

発売／2008年9月
参考価格／1万2800円
問い合わせ／株式会社アドプラス ☎096・223・7549 ギズモショップ
http://www.gizmoshop.jp/

カラーモードを備えるがおすすめはビビッド

米ビビター社の「ViviCam 5050」は、鮮やかな発色が特徴のトイデジカメだ。その独特の発色は世界中で人気を集め、トイデジカメの代表格として扱われることも少なくない。

日本での販売は2008年からだが、製造会社の買収などにより、いったんは製造中止となった。しかし、多数のユーザーの要望により、アドプラス（ギズモショップ）が交渉を重ねた結果、現在ではギズモショップをはじめとした各種ウェブサイトで購入することができるようになった。

販売当初に日本で流通していたのは海外モデルだったので、操作メニューが日本語に対応していなかったが、販売再開後のモデルはしっかりと対応している。容量の多いSDHCカードに対応しているのもうれしいポイントだ。

レンズは固定焦点式で、11㌢までよって撮影できるマクロモードと、0・5㍍から無限遠までをカバーする通常モードの2種からフォーカスモードを選択できる。

特徴的なカラーモードはスタンダード、ビビッド、セピア、モノクロームの4種から選択可能だが、このカメラを最大限に楽しむならば、ビビッドモードを選択したい。一緒に彩度の設定を上げておけば完璧だ。ビビッドモードの状態で撮影した画像はインパクトが大きく、特に青や赤などの原色系はその効果が顕著なので、積極的に狙ってみたい。

90㌘と軽量なので、毎日持ち歩いて、何気ない風景を撮ってみるのがいいだろう。思ったよりも印象的な絵が撮れるので、高性能なカメラに慣れた人には新鮮に、ビギナーには撮影する楽しさが、それぞれ感じられるカメラだ。

Point

必要最小限のシンプルなデザイン

上部に設置されたボタンは電源ボタンとシャッターボタンのみ。レンズには光学ズームが採用されておらず、撮影時も飛び出さないため、とてもスリム。電源には単4形電池2本を採用している。SDカードは電池スペース横のスロットに挿入するという珍しい位置。

液晶モニターは構図確認用と割り切ろう

背面の液晶モニターは2.4インチ。残念ながら見やすいとはいえず、日中に屋外で撮影していると液晶が見えにくいことも。独特の彩度もモニター上で確認するのは難しいので、撮影時に気に入らなくても消去はせず、パソコン上で確認することをオススメする。

一度撮影すれば病みつきになる独特の発色

カラーモードをビビッドに設定し、彩度を高めにすれば、日中の空はまるでPLフィルターを使ったかのような青さになる。ほかにも赤や黄色、緑などで鮮やかな発色を楽しむことができる。ほかのトイデジカメと比べると周辺減光が少ないので、効果が欲しい人はアクセサリーで補おう。

Illustration 高野音彦

トイデジって、がんばって一眼で撮った綺麗な写真よりも、撮った時の気分や感覚をむしろ思い起こさせてくれるんでないかなー、と思います。イラストではそんな感じをねらって、色を飽和させたり破綻させたかったんですが、ビビった結果、ただモンヤリしました…　えぇ。

■ ローライ

ローライフレックス MiniDigi AF5.0

思わず飾りたくなる ミニローライフレックス

Data

300万画素	最短撮影距離 10㌢
4.9ミリ F2.8	動画 なし
1.1型液晶	49×73 ×45㍉
手ブレ補正 なし	100㌘

Performance

Spec

●有効画素数 約300万画素 ●レンズ 4.9ミリ F2.8 ●手ブレ補正 なし ●シャッター速度 1/2500～1/15秒 ●液晶モニター 1.1型 ●メモリーカード miniSD ●電源 CR2リチウム電池1本 ●電池寿命 約2時間 ●大きさ 49×73×45㍉ ●重さ 100㌘（電池込み）

発売／2008年2月25日
参考価格／約4万円
問い合わせ／駒村商会 ☎03・3639・3351

精巧なデザインだが、AF搭載の本格派

二眼レフカメラにおける往年の名機といえば、ローライフレックスを思い浮かべる人も少なくないはず。そんなローライフレックスの形を模したミニチュアカメラが、駒村商会から販売されているのはご存知だろうか？

「ローライフレックス2・8F」をモデルに設計された「MiniDigi AF5・0」は、レンズやロゴ、巻き上げクランクはもちろん、露出計やストラップ金具に至るまで精巧にデザインされていて、まさにミニチュアカメラといった感じ。

ファインダーフードを開けると、1・1インチの正方形カラーモニターが搭載されているため、二眼レフと同じように上からのぞき込むウエストレベルで撮影を行なうことができる。もちろん撮影画像も1：1の正方形画像で、タテ位置もヨコ位置もない、独特の写真表現が楽しめる。

レンズは実焦点距離4・9ミリで、トイデジとしては珍しいオートフォーカス機能を搭載している。シャッターボタンを押しこむと、モニター上に「FOCUSI NG」の文字が表示され、ピントが調整される。文字の表示が消えたら調整が完了してフォーカスロックの状態となるので、構図決定後にボタンから指を離せば撮影完了だ。

最短撮影距離は10㌢で、ウエストレベルの撮影スタイルと相まって、小さな花や植物、ペットなどの撮影に適している。

ずっと飾っておきたくなるが、やはり実際に持ち出して二眼スタイルの撮影を楽しみたい。いつもよりちょっと低い撮影ポジションは、きっと新しい発見をもたらしてくれるはず。

Point

二眼レフを模した液晶モニター

ファインダーカバーを開けて中をのぞくと、正方形液晶モニターが設置されている。当たり前だがCCDが受けた映像を表示しているので、当然ながら正像で表示される。本物の二眼レフのように左右逆像で四苦八苦することがないので、ビギナーでも安心だ。

スポーツファインダーもしっかり実装

背面のボタンは、消去ボタンと左右の移動ボタンの3つ。ファインダーカバーの背面には、アイレベルでの撮影に使用するスポーツファインダー用の窓が備わっているが、実際に使用するとパララックスが強いため、素直に液晶モニターを見たほうが良さそうだ。

クランクレバーを巻き上げる撮影スタイル

露出計やファインダーレンズなどはデザイン上のダミーだが、側面の巻き上げクランクレバーは、実際の撮影時、レリーズのたびに“巻き上げる”必要がある。このニ眼レフを模したこだわりの撮影手順も、精巧に作られた「MiniDigi」の魅力だ。

Illustration bomi

MiniDigiAF50が、小さくて持ち運びが簡単でおもちゃみたいなところから、学生でも手軽にアーティスティックに扱えるカメラだと思ったので、女学生が身近な風景を撮影している場面を思い浮かべて描きました。

～使い方から撮影のコツまで～

萌えて身に付く デジイチ 撮影テクニック！

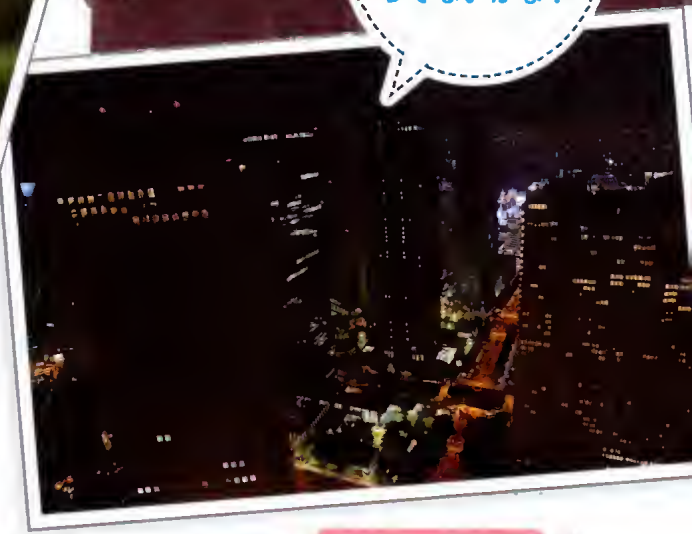
せっかく手に入れたデジタル一眼、どうせなら上手に撮ってみたいよねっ！　ここではちょっと“プロみたい”に撮れる、3つの基本技を教えちゃいます!!　コスプレ、フィギュア、夕景・夜景の撮影テクニックも紹介。これを読めば、ステキな写真が撮れるようになりますよ！

撮影／青柳敏史　解説／河野弘道
イラスト／しろ
モデル／スズラン、あとら

フィギュアを
画面いっぱいに
写すには？

人物を明るく、
背景をぼかして
撮りたいっっ！

夜景をぶれずに
明るく撮る方法
ってないかな？



やっぱりデジイチ使うなら、背景を大きくぼかしたいよね！　背景がぼけると、人物が画面から浮き上がって、それだけでうれしくなっちゃう。でも、ピント合わせに注意しないと、ピンボケ写真になりやすいんだって。

Technique 1 ボケを生かす

「F」のあとの数値を小さくしよう

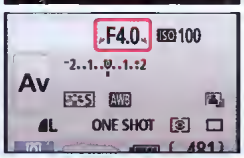
人物や花などの背景をぼかすには、ファインダー内や液晶モニターに表示されている「F」のあとの数値に注目。この数値を小さくすればするほど、背景を大きくぼかすことができる。撮影モードを「絞り優先オート」にして、電子ダイヤルを回して設定しよう。

F2.8に比べ、F8やF16では背景がハッキリ写っている。このほか、できるだけ望遠レンズで撮る、撮りたいものにできるだけ近づくことで、より大きなボケが得られる。

チェックポイントはココ！

撮影モードを絞り優先オートにしよう

撮影モードダイヤル＜写真／上＞を、「Av」（機種により「A」）に合わせよう。この状態で電子ダイヤルを回すと、「F」のあとの数値＜写真／下＞を変更できる。



望遠＋小さなF値で、より大きなボケになる

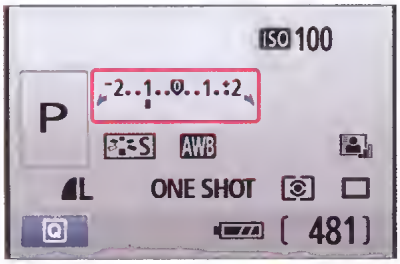
撮りたいものの背景をぼかすには、F値と呼ばれる数値を小さくする、望遠レンズを使う、撮りたいものにできるだけ近づくといった方法がある。例えば、17～50ミリF2・8のズームレンズを使っているなら、ズームを50ミリにして、F値を2・8にセット。この状態で、撮りたいものにできるだけ近づけば、背景をかなり大きくぼかすことができる。

ただし、背景が大きくぼけるぶん、ピントが合って見える範囲も狭い。ライブビューなどを使ってピントを確認するようにしよう。

Technique2 明るさを変える

写真の明るさは「露出補正」で調節できる

撮るものによっては、写真が実際よりも明るくなったり、暗くなったりすることがある。そんなときは「露出補正」を使って、写真の明るさを調節しよう。プラスにすると明るく写り、マイナスにすると暗く写る。特に、黒いものや白いものを撮るときは注意しよう。



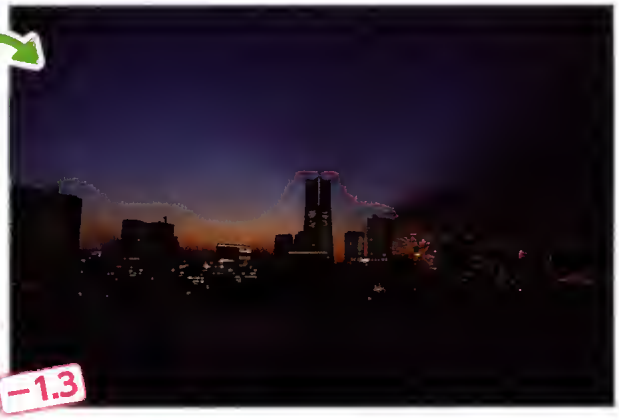
ファインダー内や液晶モニターにあるスケールで、補正の度合いが確認できる。左の写真は「－1」の状態だ。

黒いものを撮るときはマイナス補正

黒いものを撮ると、グレーに写ってしまうことが多い。このような場合は、マイナスに補正する。少しずつ補正しながら、何枚か撮影してみよう。

マイナス補正して夕方の雰囲気を出す

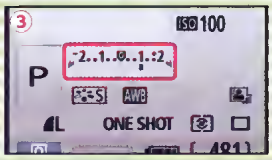
夕焼けを撮る場合もマイナス補正が有効。実際よりも少し暗めに撮ることで、日が暮れる雰囲気が強調され、夕焼けの色も濃く写すことができる。



チェックポイントはココ！

「＋／－」ボタン＋ダイヤルで補正する

機種により多少操作は異なるが、「＋／－」と表示された「露出補正ボタン」(①)を押し(ながら)、電子ダイヤルを回して(②)補正する。スケールは多くの機種で0.3(1/3)刻み(③)となっていて、繊細な明るさ調整が可能。



露出補正ボタンは、メーカー等を問わず、基本的にアイコンは同一。コンパクトデジカメも共通なので、覚えておいて活用しよう。

白っぽいものはプラス補正しよう

白っぽいものを撮る場合も、グレーに写ってしまうことが多い。この場合は、プラス補正して写真を明るくすることで白く写せる。

過度の露出補正は禁物。少しずつ調節してみよう

デジイチに限らず、コンパクトデジカメなどでも、逆光の場合など、せっかく写真を撮ったのに、撮りたいものが暗く写ってがっかりした経験のある人は多いと思う。そうしたときに役に立つのが「露出補正」だ。

例えば、逆光で暗くなってしまう場合は、プラスの露出補正で明るく写すことができる。また、白い(白っぽい)ものがグレーに写る場合や意図的に明るく写したい場合、少し淡い色にしたい場合にも、プラス補正が活躍する。

では、写真を暗く(マイナス補正)するのはどんなときか。黒い(黒っぽい)ものを撮影するときや、色を濃い目に写したいとき、重厚感のある写真にしたいときなどに必要となる。

ただし、過度の補正は禁物。プラス補正しすぎると、真っ白に写って、質感がなくなってしまう(白とび)し、過度のマイナス補正では色が濁って、真っ黒に写った部分の質感が出ない(黒つぶれ)。少しずつ補正しながら、何枚か撮影してみるのがおすすめだ。

色の変化も楽しめるホワイトバランス

写真全体の色を調節する場合は、「ホワイトバランス(WB)」という設定を使用する。多くの場

Technique3 色の調節

「ホワイトバランス」で写真の色が変わる

電球や蛍光灯など、現場の光の種類によって写真の色が偏り、正確な色に写らないことがある。このような場合は、「ホワイトバランス(WB)」という設定を使うことで、正確な色で撮影できる。また、意図的に色を変化させることもできるので活用してみよう。

ホワイトバランスは「WB」と表示されたボタンを押すことで、設定画面を呼び出せる。設定はオートのほか、太陽光、電球、蛍光灯、日陰などがあり、光の種類に合わせられる。

ほとんどの場合、「オート」でキレイに撮れるよ。でも、撮ってみて色が濁って写っていたら、ホワイトバランスを光の種類に合わせて変えてみて！　特にお部屋の中とか日陰で撮るときは、少し気をつけてね。

日中、「電球」にするとクールな写真に

太陽の光の下でホワイトバランスを「電球」にすると、写真全体が青みを帯びてクールな印象の写真にすることができる。このとき、露出補正を併用して、少し明るめに写すと、より透明感のある写りにすることができる。

わぁ！ きれい!!
写真、お上手
なんですね！

露出補正を「+ 0.7」にして透明感のある写りにしようと思ったが、さらに変化を付けるため、ホワイトバランスを「電球」にして撮影してみた。

電球の色を残すには……

電球の赤みを帯びた光は、うまく生かすと雰囲気のある写真にできる。ホワイトバランスを「太陽光」にすると、電球の色をそのまま写せる。

電球のスポットライトを使用して撮影。ホワイトバランスを「太陽光」にすることで、スポットライトらしさを強調できた。

合、「オートホワイトバランス」で問題なく撮影できるので、通常はオートがおすすめだ。ただし、撮影してみて色が濁っているように感じたり、色による演出を加えたりしたい場合は、設定を変えてみよう。

撮りたいものの色を正確に写したい場合は、その場の光の種類に合わせて「電球」や「蛍光灯」「日陰」などに設定することで、正確な色で撮影できる。逆に、色の演出を加えたい場合は、上の写真のように太陽光下で「電球」に設定したり、電球光下で「太陽光」に設定することで、変化に富んだ写真にすることが可能だ。いろいろな設定を楽しんでみよう。

コスプレ撮影 Cosplay

「レフ板」を使って、人物や衣装が引き立つように撮影しよう！

人物の撮影では、光の生かし方が非常に重要。特にコスプレ撮影では、衣装も重要なのでなおさらだ。光を反射して人物を明るく照らす「レフ板」の使い方を中心に解説しよう。

逆光気味で撮ってるんだけど、レフ板を使って明るくしたら、柔らかい光になって、ナチュラルな感じに撮れたの！　撮るときに、レイヤーさんに声をかけてあげれば、表情も和らいで楽しそうな雰囲気の写真になるよ。

人を撮るときは逆光が基本。カメラのほうに向かって差してくる光を反射させ、レイヤーさんに当てるようにする。また、レフ板を使うことで、目に光が差し、表情も引き立つ。

レフ板は、衣装も含めて全身に光を当てるなら、直径1㍍程度の折り畳めるものがおすすめ。片面が白色でもう片面が銀色のものが使いやすい。

日陰で撮影。強い陰は出ていないが全体的にやや暗く、色もくすみ気味。この雰囲気を生かすのも悪くないが……。

陽だまりの光を銀色のレフ板で反射

銀色のレフ（銀レフ）は、曇りなどの光が弱いときに使用するが、日陰にいるレイヤーさんに陽だまりの強い光を当てると、背景が暗く写って強い印象の写真にできる。ただ、非常にまぶしいので、レイヤーさんの横の位置から当てよう。

Attention フラッシュ使用の場合は？

カメラ内蔵のものでなく、別売りの外付けフラッシュは、光る部分を上下左右に向けられるものが多い。これを使って、光を部屋の白い天井などに反射（バウンスという）させれば、不自然な陰影を出さずに撮影できる。

外付けフラッシュの光を天井にバウンスさせて撮影。不自然な陰影を出さずに撮れた。

内蔵、外付け問わず、フラッシュを普通に使うと、このように顔や背景に強い陰影が出てしまう。

逆光＋レフ板を使って、柔らかい光を作り出そう

ここからはコスプレ撮影、フィギュア撮影、夕景・夜景撮影の3つについて、ジャンルごとのテクニックや撮影アクセサリーの使い方について解説しよう。

まずコスプレ撮影では、もちろん背景をぼかしたり、ホワイトバランスを調節したりといったことも大切だが、人や衣装をいかにしてきれいに撮るかが重要だ。それには、「光のコントロール」がキーポイントになる。基本は、顔や衣装に強すぎる陰影を作らず（意図的に陰影を作るのはアリ）、自然な雰囲気に仕上げること。

そのためには、「逆光」で撮るのが最適。レイヤーさんに逆光になる位置に立ってもらい、太陽の光を「レフ板」に反射させて顔や衣装に当てる。こうすることで、強い陰が出ない、柔らかい光を作り出せる。できれば、友人などにお願いして、レフ板を最適な位置で持ってもらえば、より理想的な光が得られる。あとは、ポーズの指示などレイヤーさんに積極的に声をかける（結構重要）ようにすれば、表情も和らぎ、きれいな写真にすることができるはずだ。

マクロレンズでパーツのアップも撮ってみよう！

フィギュア撮影の場合も、照明はコスプレ撮影同様、逆光気味の

露出補正+レフ

基本はコスプレ撮影といっしょ！　白い紙で小さなレフ板を作って、柔らかい光をフィギュアに当てれば、立体感のある仕上がりになるよ。照明は電球だと陰影が強くなっちゃうんだって。蛍光灯がちょうどいいみたい。

フィギュア撮影 Figure

フィギュアなどの小さなものはマクロレンズを使って撮ろう

フィギュアの撮影では「マクロレンズ」と呼ばれる、近接撮影用レンズがおすすめ。照明は蛍光灯スタンドなどを逆光気味に設置して、露出補正と小さなレフ板で明るく写そう。

露出補正あり

露出補正なし

逆光気味の光にすると、どうしても正面が暗く写ってしまう。そこで、露出補正をプラスにして、明るめにしておこう。

フィギュアの上、やや奥側から蛍光灯スタンドで照らす。紙で作ったレフ板をフィギュアの左右に配置して、蛍光灯の光を当てる。

レンズは100ミリ程度のマクロレンズがおすすめ。食玩のような小さなフィギュアも大きく撮れる。

元のイラストなどに近い雰囲気に撮ろう！

フィギュアの全身を撮るだけでなく、元になったイラストなどがあるなら、同じような雰囲気に撮ってみよう。きっと、これまで以上に愛着がわいてくるはずだ。

今回撮影したものは「メガミマガジン・クリエイターズVol.8」の表紙が元ネタ。背景も作り込みたい！

©Orchidseed

光をレフ板で反射させるというのが基本になる。

撮影するときは、シャッター速度が遅くなりがちなのと、小さなものに近寄っての撮影のためぶれやすいので、三脚やリモコン（レリーズ）を使って撮影するようにしよう。また、比較的スケールの大きなフィギュアなら、カメラとセットで売られているレンズでも撮影できるが、できれば近接撮影することができる「マクロレンズ」を用意したい。

マクロレンズを使えば、食玩のような比較的小さなものを画面いっぱいに写すことも可能。また、顔のアップなど、パーツを大きく写すといったこともできる。

夕景、夜景撮影 Night Scene

露出補正とWB（ホワイトバランス）で劇的に変化する夕景
夜景撮影では、ブレの防止が重要

夕景撮影は、露出補正とホワイトバランスの設定によって、色が劇的に変化する点に注目。夜景撮影では、ブレをいかに防ぐかが重要。基本的には、三脚の使用が必須になる。

ホワイトバランスを「くもり」や「日陰」にすると赤みが増して、夕焼けが印象的に撮れるよ。あと、マイナス補正で暗めに写すと、日が暮れる雰囲気が強調されて、ちょっとドラマチックな感じ！

夜景撮影を楽しむなら、できるだけ丈夫な三脚を用意して、ブレのない写真を撮りたい。

50ミリF1.4といったF値の小さなレンズは、ブレに強く、ボケも得やすい。

三脚を使って、ISO感度を低くして（シャッター速度を遅くして）撮った写真だよ。車が走ったところが光の線になってて面白いでしょ！見慣れた風景もこうして撮ると、ちょっと違った印象になるよね。

三脚がないならISO感度を上げて撮ってみてね！

Attention 夜景撮影では、WB設定を「太陽光」に

夜景を撮る場合、ホワイトバランスはオートでもいいが、ネオンの色を忠実に再現したいなら「太陽光」がおすすめ。見たままの色で撮影できる。

光の色をそのまま写したいときは「太陽光」にして撮ろう！

夜景撮影ではできるだけ三脚を用意したいが……

夕景を撮るときは、露出補正をマイナスにして暗さを引き出そう。また、夕焼けの赤みが足りないと感じたら、ホワイトバランスを「日陰」や「くもり」にすると赤みが強調できる。

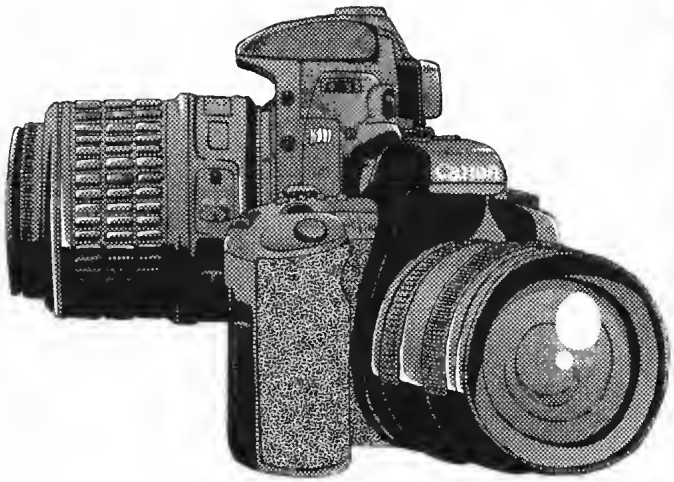
夜景撮影では、ISO感度を下げて三脚を使用するときれいに撮れる。三脚がない場合はズームを広角側にして、手ブレ補正をオンに。ISO感度をできるだけ上げて、F値を小さくすれば、ある程度ブレを防ぐことはできる。50ミリF1・4といった、F値が小さいレンズを使うのも有効だ。

はじめてのカメラ選び

女子高生の悩みとは？

髙木信孝

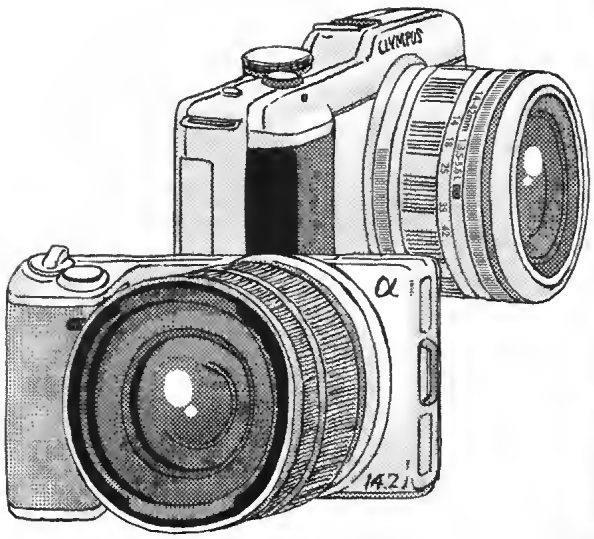
一眼レフ



特徴

- レンズ交換が可能
- レンズの種類が豊富
- ボケ味を楽しめる
- 画質が良く高感度に強い機種がある

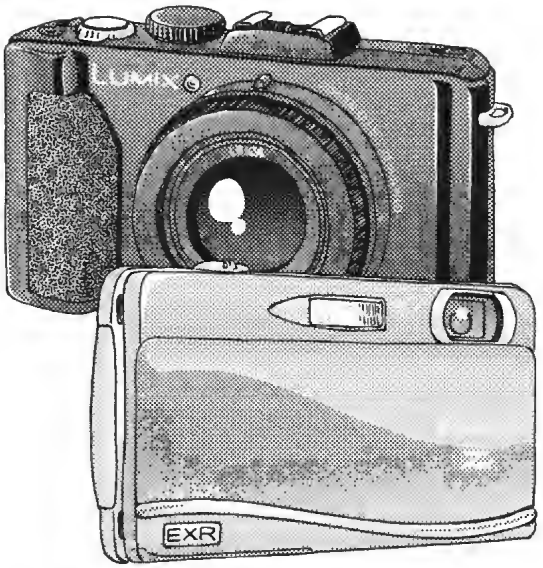
ミラーレス一眼



特徴

- 一眼レフ並みの性能を持つ
- 大きさがコンパクト
- ボケ味を楽しめる
- レンズ交換が可能

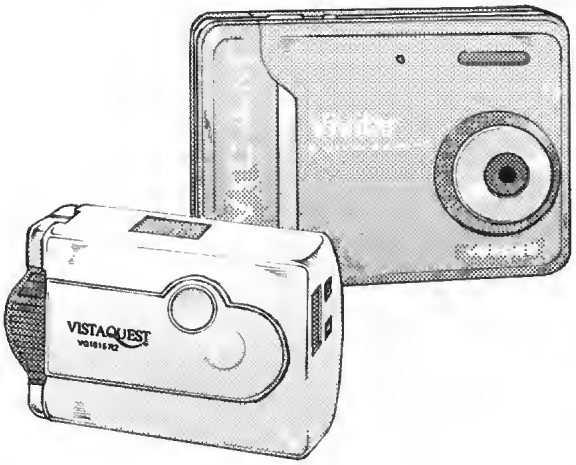
コンパクトデジタルカメラ



特徴

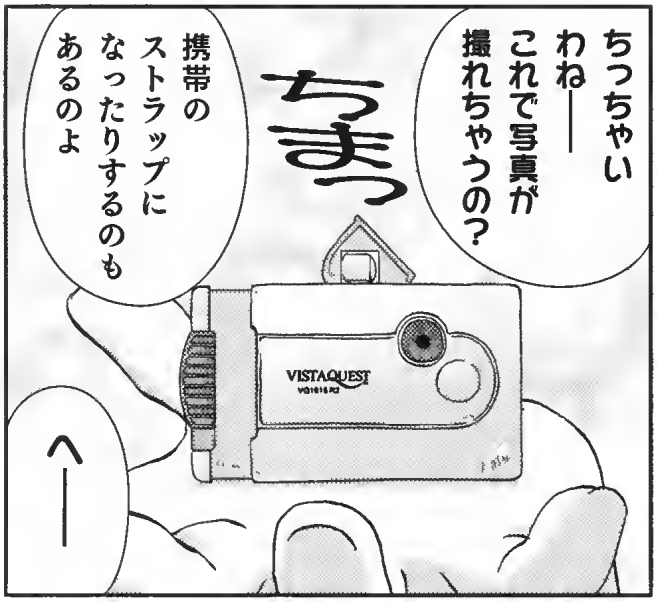
- 種類が豊富で安価
- 非常にコンパクト
- カラーバリエーションが豊富
- 完全防水・ペット認識など機能も豊富

トイデジタルカメラ

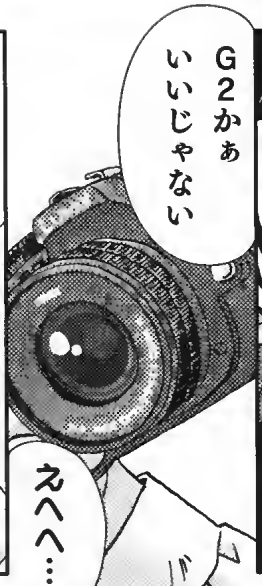


特徴

- 発色が独特で、アート的でポップな写真が簡単に撮れる
- 安価で1万円しないモノも
- 非常に小さかったり独特の形をしたモノが多く個性豊か



■この本を読んで、自分に合ったデジカメを見つけてね！



おわり

「美少女」&「カメラ」の世界を描いた

『瞳のフォトグラフ』作者 GUNP インタビュー

女子高の写真部を舞台にした『瞳のフォトグラフ』という作品をご存じだろうか。写真をテーマにした漫画というだけでも珍しいが、デジタル一眼レフの世界や、写真の楽しさや魅力などを描いた、カメラ好きの方も楽しめる作品になっている。いまなぜこのようなテーマで作品を手がけるようになったのか。作者のGUNP氏に伺った。

GUNP _Profile

杜謂一郎氏とさくらあかみ氏、夫婦で活動するユニット。杜氏が主な原案と原作を担当し、さくら氏はその構成をもとにビジュアル面を担当する。2008年9月から「フレックスコミックス」（http://flex-comix.jp/）において、初のオリジナル連載マンガ「瞳のフォトグラフ」がスタート。現在は新たな作品も鋭意制作中だ。

思い出が詰まった一枚のポラロイドが僕らの考えていたテーマと一致した

編集部からは反対されたもののどうしても挑みたかった“写真”

――『瞳のフォトグラフ』は写真をテーマにした作品ですが、そもそも写真を題材にしようと思ったきっかけはなんですか？

杜 企画段階では学園もの漫画ということだけは決まっていましたが、単なる学園ものでは作品として弱いので、何か加えられる要素がないか、もしくは僕たちが作品に入り込めるテーマがないか探していました。そんなとき、たまたまさくらさんの伯母のインスタント写真を見つけたんです。

さくら 漫画の企画段階より前に、伯母と10年ぶりぐらいに会う機会があって、撮ったらすぐに写真にできるフジフイルム「チェキ」を使って、いろいろな写真を撮ったんです。久しぶりに会えて、みんな笑顔で写っていて……。でも、翌年に伯母が亡くなり、その時の写真を彼が持ち歩いていたんです。

杜 伯母の写真を見て、そういえばあのとき写真を撮ってみんな楽しかったな、といろいろ思い出がよみがえってきまして。その時、もしかしたら僕たちが描きたいことはこれではないか？　と思ったんです。写真を通して感じた様々なことを、作品にストレートに表現していきたいと。そこで、女子校を舞台にカメラや写真を題材にした漫画を、連載で描くことにしました。

――写真をテーマにした漫画は、過去にあまり例がありませんが、あえて取り組もうと思ったのはなぜですか？

杜 最初は担当編集もいいんじゃないかなと言ってくれましたが、実はその後、編集部からは反対されました。というのは、写真やカメラをテーマにすると、漫画家もそれなりの知識や経験がないと敷居がかなり高くなってしまうことや、受け入れられる人に偏りが生じてしまうことがあるとのこと。それにカメラ好きの方からの厳しい指摘があるので、中途半端な作品にはできない。新人が挑む題材としては、極めて難しすぎるというのがその理由でした。

　それもそのはず、当時の僕はカメラ初心者だったので、コンパクトデジカメを一台持っている程度でしたから（笑）。写真を撮ることは好きだったので、旅行などいろいろな場所で撮影する機会は多かったのですが、趣味のひとつとして写真を楽しむレベルまではいかなかったですね。

　それでもやはり写真は魅力あるテーマだと強く感じていました。ですので、僕もさくらさんもまったくのカメラ初心者なので、これを機会に始めてみようかと。コンパクトデジカメだけじゃなく、デジタル一眼レフを手にしながら、その世界に入ってみれば、主人公と同じ目線でカメラの魅力を捉えられるのではないか。僕らが感じたことをそのまま作品にストレートに描けるので、よりリアルな部分が出せるのではないかと思いましたね。いま振り返ってみると、僕らが写真で感じた素晴らしい部分を、まっすぐに、作品の中に盛り込めていけたのではと思っています。

『瞳のフォトグラフ』紹介

個性派が揃う女子校写真部のフォトライフストーリー

転校初日に、ブログ用の画像をデジカメで撮影していた相原ハルカは、同じ高校に通う久家イヅミと出会う。イヅミの「盛をしめる」というアドバイスを受けて、思い描いた通りの写真が撮れたハルカ。それをきっかけにハルカは写真に興味を抱き……。デジカメ初心者であるハルカの視点でカメラの魅力と、彼女がファインダー越しに見る様々な世界を描いていく、カメラ好き女子高生たちの青春劇。

▲ハルカはカメラを通じて多くの人と出会い、様々な感動を経験する

▲ハルカは、写真部の部室で初めてデジタル一眼レフカメラを手にする。最初は高価なものという印象があったが、次第にその魅力にはまっていく

◀「（写真は）カンタンなんですね」というハルカのひと言に、「貴方なんて認めません」と一喝するイヅミ。少女たちの交流と心の成長も作品のテーマ

Web コミック「Flex Comix ブラッド」で連載中。単行本１巻～３巻が発売中
発行：フレックスコミックス
発売：ソフトバンククリエイティブ
定価：1、2巻560円、3巻571円（ともに税別）

細部にまで徹底的にこだわったキャラクターとカメラの関係

――漫画のテーマを写真にするうえで、どういう情報を取り入れたのですか？

杜　当初よりデジカメ専門誌「デジタルフォト」（現在は雑誌としては休刊して、Ｗｅｂのみで展開中）編集部の方に監修してもらうことになりました。詳しい方に見てもらえば、知識面での足りない部分を補える。そこまでできるならば、写真をテーマにした漫画をやってみる価値があるのではないか、ということになりました。

　もちろん、登場するキャラクターが使うデジカメ選びも監修して頂きました。ハルカは主人公なので、幅広い人が愛用する機種がいいのではないか、ということになり、「キャノン ＥＯＳ ＫＩＳＳ Ｘ２」になりました。決め手は初心者が最初に手にしやすいモデルであることや、広角や望遠など使いたいレンズ構成のわかりやすさ、女子高生でも手が届きやすい価格だからですね。一方、同級生のユカリは「ニコン Ｄ６０」にしています。「キャノン ＥＯＳ ＫＩＳＳ Ｘ２」とほぼ同価格帯ということや、僕の周囲ではカメラが好きな人はニコンユーザーが多かったので、対照的な関係にしています。また、シオリとユイのふたりの先輩が「リコーＧＲ デジタルⅡ」を使っているのは、彼女たちがこれまで写真に慣れ親しんできたことで、コンパクトと一眼レフを用途によって使い分けていることを表現しています。真剣に撮影するときは一眼レフだけど、普段はコンパクトで気軽に撮影している。ふたりは仲がいいこともあり、アクセサリーを共有しながら使うスタイルも選ぶうえでのポイントになりました。

――作品のテーマを写真にしたことで、難しかった点はどんなことですか？

杜　ファンの人から〝カメラのうんちくが少ないからもっと増やせ〟と言われることがあります。たしかに、写真に詳しい方が読むと、そういう意見が出るかもしれません。ですが、まったくの初心者でひとつひとつ覚えていく人もいるわけですから、そういう人にいきなりいろいろ語ってしまうと拒絶されるかな、という部分もあったりします。ですから、写真に詳しい人も、これから写真を始める方にも共通して言える部分とは何かを考えて、写真を撮るまでのエピソードや、撮った後から何が起きたかなどに着目して描いています。すべての人を満足させることはできませんが、頂いた意見を少しずつ作品に盛り込んでいければなと考えています。

――カメラを描くにあたって、こだわった点はどんなことですか？

さくら　ボディの形状やレンズの反射などがメーカーによって異なるので、その部分はしっかり描かないと、と思います。やはり、カメラ好きの人が見たときに、分かってないとか思われたくないですからね。

　人物がカメラを持つときの仕草にもかなり気を遣っています。ハルカのような素人の女の子が持つとどういう持ち方になるのかとか、プロカメラマンだったらどういう風に構えるのかなども参考にしますね。それに、カメラを持っている時の角度にもわずかに差をつけています。ヒナノがコンパクトデジカメを持っているときは顔の近くにカメラを描いていますが、「キャノン ＥＯＳ ＫＩＳＳ Ｘ２」を使うハルカは胸のあたりに、「ニコン Ｄ６０」のユカリはさらに下にしてレンズだけを上に向けるなど、カメラを持つ位置で本体の重さを表現しています。

『瞳のフォトグラフ』登場人物

相原ハルカ

高校２年生。イツミとの出会いをきっかけに、写真部に入部。写真はブログ用に撮る程度だったが、前部長が置いていったデジタル一眼レフを手にして、写真の世界にのめり込む。
使用カメラ：キヤノン ＥＯＳ ＫＩＳＳ Ｘ２

瀬名ユカリ

高校２年生。ハルカのクラスメイトで明るい性格。写真家・ＫＡＤＵＫＩ（カズキ）のブームに乗り、写真に興味を抱く。プロの使う機材に憧れて、自らもデジタル一眼レフを使う。
使用カメラ：ニコン Ｄ６０

久家イヅミ

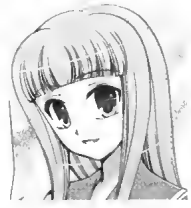
高校２年生。控えめな性格で、周囲とあまりコミュニケーションを取らない。写真に関しての知識は豊富で、カメラの撮り方を知らなかったハルカにアドバイスする優しさも持つ。
使用カメラ：ニコン Ｄ３００

小鳥遊ヒナノ

高校１年生。だが、写真には詳しく、ハルカが〝師匠〟と呼んでいる。幼い頃のトラウマが原因で、自分に向けて写真を撮りながら、思い出を写真に残している。
使用カメラ：フジフイルム ＦｉｎｅＰｉｘ Ｚ２００ｆｄ、Ｏｌｙｍｐｕｓ ＰＥＮ Ｌｉｔｅ Ｅ-Ｐ１

京シオリ

高校３年生。写真部部長。ボーイッシュなビジュアルや、積極的なスキンシップを取る性格ゆえに、後輩からは憧れの存在になっている。イヅミの過去の秘密も知っているらしい。
使用カメラ：リコー ＧＲ デジタル Ⅱ

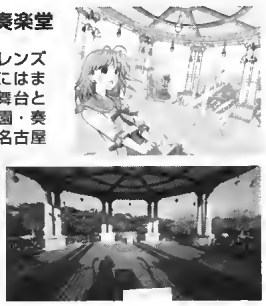


一宮ユイ

高校３年生。シオリとは小学校の時からの幼なじみ。シオリは〝ユイとは本気の関係〟と公言し、ユイもシオリの部屋の合鍵を持つ間柄だが、詳細は誰も知らない。
使用カメラ：リコー ＧＲ デジタル Ⅱ

鶴舞公園・奏楽堂

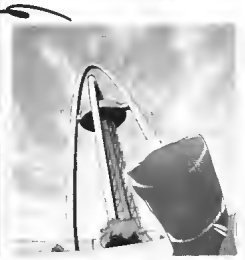
ハルカが広角レンズの画角の魅力にはまるシーンでの舞台となった鶴舞公園・奏楽堂（愛知県名古屋市）。レトロな趣のある建物が印象的だ



ツインアーチ138

１巻と２巻で登場する国営木曽三川公園（愛知県一宮市）にある「ツインアーチ138」。「ファンの方からも『この場所を訪れました』というお便りをいただきました」と杜氏

作品の舞台は実在していた！



『瞳のフォトグラフ』の舞台自体はあくまで架空の設定だが、背景に登場する建物やオブジェなどは、ＧＵＮＰ氏が住んでいる名古屋近辺にあるものがほとんどだ。実際にＧＵＮＰ両人がデジカメで撮影したものが、そのまま作品に反映されているというのも面白い。

デジタル一眼レフで写真を撮り始めたら常に絵を切り取る考え方に変わりました

「レンズの数だけ世界があるんですね」主人公のセリフは自身の体験によるもの

——GUNP氏自身もデジタル一眼レフに触れて、カメラのイメージが変わりましたか?

杜　キャラクターとカメラの設定が決まり、連載開始までに、僕が「キヤノン EOS KISS X2」を、さくらさんが「ニコン D60」を実際に購入して、最初はとにかくデジタル一眼レフに触れてみようと思いました。

　デジタル一眼レフを使っていくうちに、撮ることを強く意識するようになりました。コンパクトカメラを使っていたときは何気なく撮影するだけでしたが、デジタル一眼レフは、見ている景色を一番よく撮る方法は何かとか、写りを意識しながら絵を切り取る考え方に変わりましたね。

さくら　デジタル一眼レフにしたら、夢中になってカット数が増えました。美しい夕焼けや虹なども自分が感じたままの色で残しておけるし、目で見た印象を強く残せるのが、コンパクトデジカメとの大きな違いですね。一眼レフの画質のよさを一度味わってしまうと、撮れるときは一眼レフで撮りたいな、という気分になりますね。

——作品中には交換レンズの魅力が描かれている部分もありますね?

杜　そうですね。僕自身も単焦点レンズにはとても衝撃を受けました。それまでズームレンズが当たり前だと思っていたので、単焦点レンズがあることすら知らなかったんです。最初はこれって不便なレンズ?　と思いましたが、「50mmF1・8」や「35mmF1・8」などで実際に撮ってみると、描写力の高さやボケ味の素晴らしさに感動しました。その違いは僕ら素人でも明らかに分かるんです。そのときさくらさんが言った「プロっぽい」という会話が、そのままハルカのセリフになりました。

　ほかにも、広角レンズを使えばワイドな画角でいろいろな情報を一枚の写真に残せることができるとか、マクロレンズなら小さな被写体をアップで撮影できるので細かなディテールまでしっかり表現できるなど、新しい発見が次々とあったので、これらは作品の中でしっかり描こうと思いました。レンズを替えただけで同じカメラで撮影している感覚がなくなったので、そこからハルカの「レンズの数だけ世界があるんですね」というセリフ（コミックス2巻）が生まれたんですね。これは、僕らが感じたことをそのままストレートに表現したまでのことです。

——現在使っているモデルは?

杜　僕は「ニコン D300」です。「ニコン D300」にしたのは、最初からイヅミが所有している設定になっていたのと、監修の方が、おそらく何年かに一度現れる名機になるほど完成度の高いモデルなのではないかとおっしゃっていたので、これはその魅力を直に確かめてみようと思いました。しかし実際に使うと、フルオートで撮影できない、という玄人向けの機能に驚きましたね。最初は白飛び、黒つぶれは当たり前で、これが本当に名機なのか疑いました（笑）。でも使いこなしていくにつれて、操作しやすいモデルだと感じるようになりました。最近では手放せない存在ですね。

さくら　私はCMを見て一目惚れした白い「オリンパス ペン E-P1」を愛用しています。持ち運びのよさや撮りまわしのよさはもちろんのこと、かわいいデザインも気に入っています。トイフォト調やモノクロに写真を合成できる「アートフィルタームービー」などの機能もよく使いますね。

——仕事としてだけではなく、写真を趣味としてすでに楽しんでいる感じですね?

杜　過去の自分に、早くデジタル一眼レフを買え、と言ってやりたいぐらいですね。もっと早くから使っていれば、いろいろな写真が撮れただろうし、写真の楽しみが増えたのではないかと思います。いまやカメラショップに行けば、欲しいものだらけなんですよ。まさに、ミイラ取りがミイラになったような感じですね（笑）

GUNP氏の所有カメラ

◀コンパクトデジカメ、インスタントカメラ
（手前右）リコー GR デジタルII
（手前左）フジフイルム FinePix F10
（奥右）フジフイルム FinePix Z200fd
（奥中央）ニコン COOLPIX S1000pj
（奥左）フジフイルム instax mini7S チェキ

杜氏が初めて購入した「フジフイルム FinePix F10」は、ハルカが使うコンパクトカメラとして登場した。そのほかの登場人物が使う「リコー GR デジタルII」や、「フジフイルム FinePix Z200fd」も杜氏はすべて購入している

▲デジタル一眼レフカメラ（初期）
（右）キヤノン EOS KISS X2
（左）ニコン D60

杜氏とさくら氏が初めて所有したデジタル一眼レフ。「ハルカとユカリが作品内で使用する設定になり、実際に購入してデジタル一眼レフの世界に触れました」と杜氏

いましか撮れないものだからこそ写真で思い出ごと残しておきたい

――『瞳のフォトグラフ』の連載開始から約2年が経過しましたが、その間GUNP氏の周囲で変化はありましたか？

杜　連載開始からカメラの描写にこだわってきたこともあり、漫画を読んでくれたファンの方から、〝○○○が使っているカメラを実際に買いました〟というお便りやメールを頂くようになりました。また、作品中に登場する実在するロケ地（101ページ参照）を訪れたというファンの方からのお便りもうれしいですね。かなり反響があるので、今後は写真ファンに人気のある撮影スポットなども盛り込んでみたいですね。

――これから作品に登場させたいカメラや、購入を検討しているモデルはありますか？

杜　新機種がすでに出てしまったのですが、「ニコン クールピクスS10000pi」はプロジェクター機能付きというのが面白そうだったので、実際に購入してみました。撮影機能に加えて、プロジェクターで映像を映し出すというカメラの楽しみの幅を広げた一台なので、作品の中に今後登場させてみたいと考えています。

　デジタル一眼レフでは「キヤノン EOS 5D マークⅡ」に注目しています。フルサイズに挑戦してみたいのですが、そうなるとレンズも見直さないとだめですけどね。

　気になっているレンズも多々ありますね。広角レンズが好きなので、ニコン「AF-S NIKKOR 14-24mm f/2.8G ED」は憧れの一本です。あとはキヤノン「EF300mm F2.8L IS II USM」もいつかは手にしてみたいレンズですね。でもその前に、いまあるカメラやレンズをどう使いこなしていくかの方が先の話になりますけどね（笑）

――最後に、今後の『瞳のフォトグラフ』で伝えていきたいテーマを教えてください。

杜　過去の写真を見ると、その写真を撮ったときの気持ちや、雰囲気なども一緒に思い出すことができますよね。そのように、写真はその場の光景だけを残すものではなく、あらゆる時間の流れやそのときの思い出も詰まっているものなんです。

　ですからハルカのように、いま学生の人には写真を強く勧めたいですね。楽しみながら写真に触れていくなかには、いましか撮れないものがあるから、それらは将来きっと宝物になるよ、と言いたいです。『瞳のフォトグラフ』を読んだ人が少しでも写真に興味を持ってもらえればいいなと思っています。

◀デジタル一眼レフ&ミラーレス（現在）
（右）オリンパス ペンライト E-P1
（左）ニコン D300

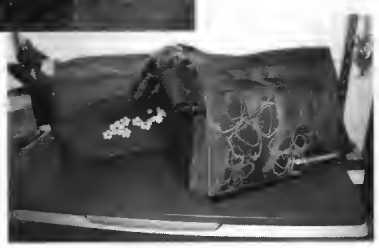
より本格的なデジタル一眼レフカメラを検討し、杜氏はイヅミが使っている「ニコン D300」を購入。さくら氏は「白いボディと専用ケースがお気に入り」という「オリンパス ペン E-P1」を愛用中

（機器撮影：GUNP）

GUNP作業ルームをチェック

▲制作はアシスタントを含めて計4名。役割を分担させて効率よく作業を進めている。作画担当のさくら氏のデスク（手前）には大きなトレース台を装備。反対側の杜氏のデスクには27インチの大画面モニターがある

◀一眼レフ用交換レンズ　ニコン、キヤノンが各3本、オリンパス1本を所有。「EF-S 10-22 F3.5-4.5 USM」や、「AF-S DX Zoom-Nikkor 18-70mm f/3.5-4.5G IF-ED」などのズームレンズを多く所有する一方、「描画力に優れた単焦点レンズが好き」と杜氏



▶GUNPご両人が所有するカメラバッグだが、見覚えのある人もいるのでは？　3巻で登場するカメラショップに置いてあるバッグがコレ。ハルカが気に入って購入するという展開もユニークだ

読者プレゼント！

『瞳のフォトグラフ』のキャラが描かれた、世界にたった1枚しかない、GUNP氏お手製のお皿を抽選で1名の方にプレゼント！　ご希望の方は付属のアンケートハガキの感想欄に、「GUNPお皿希望」と書いてご応募ください。締切は2010年11月30日。当選者の発表は、発送をもって変えさせていただきます。

©2008 GUNP Kohichiro Mori/Akami Sakura/FlexComix Inc.

ISO感度

光に対する敏感度を、数値で表したもの。ISO100、200、400、800、1600といった形で表記される。数値を大きくするほどカメラは光を感じやすくなるので、暗い場所でも写真を撮るのに必要な光を速く集められる。そのため、シャッター速度を速くすることができ、ぶれた写真を防ぐことができる。

ISO100とISO1600で撮り比べたもの。ISO感度を上げれば、暗いところでもシャッター速度を稼ぐことができ、被写体を写し止めることができる。また、手ブレや被写体ブレを抑えられる。ただし、感度を上げすぎると画質を劣化させるノイズ（p106参照）が発生する。

交換レンズ

デジタル一眼はコンパクトデジカメとは異なり、レンズを交換することで幅広い写真描写を可能とすることができる。

レンズは「何ミリ」と表現される「レンズの焦点距離」によって、写真の写り方が変化する。基本的にはより長い焦点距離（望遠）のレンズのほうが、写し込める範囲（画角）が狭く、遠くのものでも画面上に大きく写すことができる。

一方、より短い焦点距離（広角）のレンズのほうが、広い範囲を写し込むことができる。

●レンズの種類の例

望遠ズームレンズ

標準ズームレンズの望遠側よりも狭い範囲が写し込める。遠くのものをより大きく写したり、背景をぼかしたりすることができる。

標準ズームレンズ

人間の目が見ている範囲に近い画角の写真が撮れるので、日常的な撮影などで使いやすい。

マクロレンズ

小さな花やアクセサリーなどが、アップでシャープに撮れる。また、開放F値（p105参照）が明るいレンズが多く、大きなボケ効果が期待できる。

広角ズームレンズ

標準ズームレンズの広角側よりも広い範囲が写し込め、強烈な遠近感によるデフォルメも楽しめる。ダイナミックな空間表現が可能になる。

AE（エーイー）
Auto Exposureの略で、自動露出のこと。自動露出とは、カメラが自動で写真の明るさを適正なものにしてくれることをいう。

AF／MF（エーエフ／エムエフ）
AFはAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのこと。シャッターの半押しでピント合わせが始まる。ピントが合った時点でストップするシングルAF、押し続けている間ピントを合わせ続けるコンティニュアスAFなどがある。
一方、MFはManual Focus（マニュアルフォーカス）のことで、レンズ先端のピントリングを使って、手動でピント合わせを行うことをいう。

RAW（ロウ）
デジタルカメラの画像ファイル形式の1つで、「生の」「未加工の」の意。撮像素子から出力された信号をデジタル化し、ほぼそのままの状態で記録したもの。画質調整に対する柔軟性、自由度が高いことから、高品位な作品作りに適しているとされる。

アスペクト比
撮影画像の長辺と短辺の比のこ

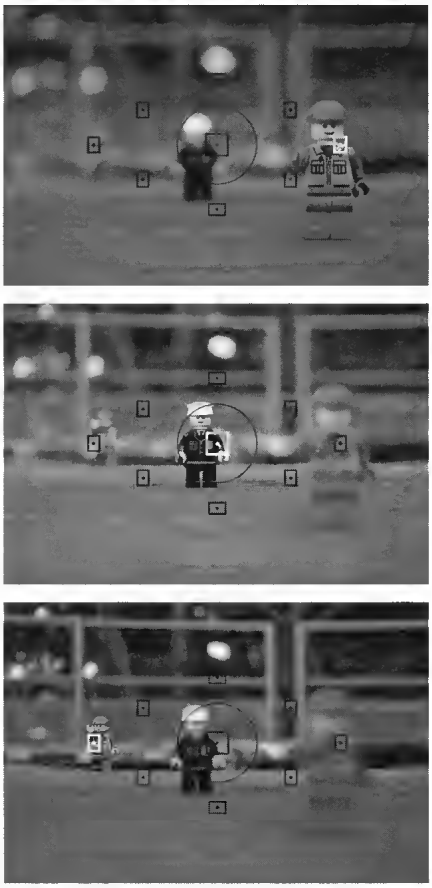
測距点

測距点（AFフレーム）とは、オートフォーカス（AF）でピント合わせが行える場所。ファインダーをのぞいたときに見える小さな四角い枠のことをいう。

シャッターを半押し（軽く押し込む）して、光った測距点が、ピントの合っている位置になる。なお、測距点はカメラ任せにすることも、手動で選択して設定することもできる。

なお、デジタル一眼レフでは、AF用の距離を測るためのセンサーは固定式であるため、画面の限られた場所でしかAFのピント合わせは行えない。

●ピントの位置で写真は変わる



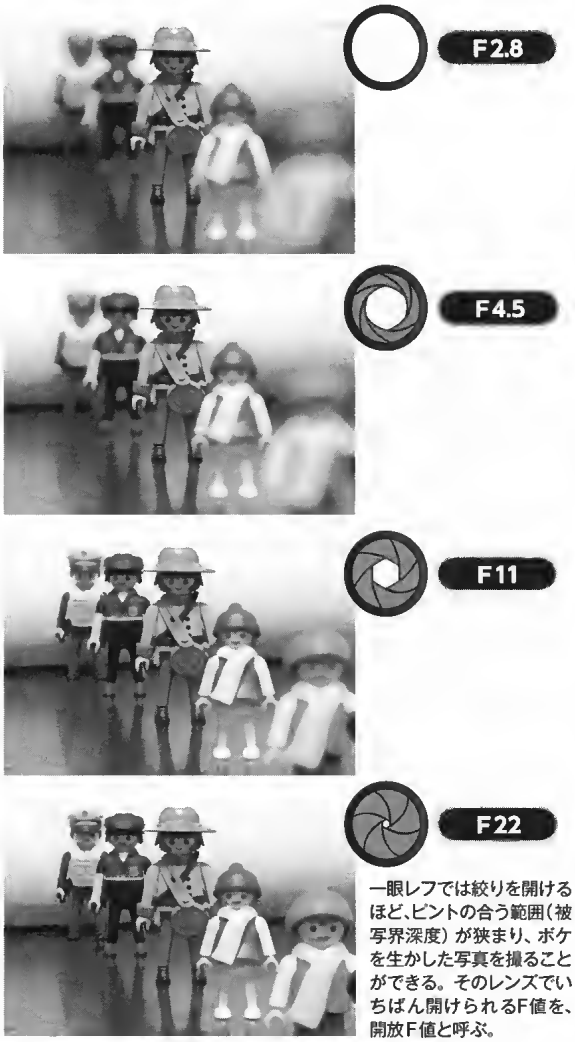
ピント合わせをカメラ任せにすると、カメラは手前にあるものにピントを合わせる。奥の被写体にピントを合わせたい場合は、測距点を移動させてピント合わせをするか、フォーカスロック（p106）を使う必要がある。

絞り

レンズを透過する光の量を制限するための穴。それを数値化したものを絞り値やF値と呼び、F2.8、F3.5などと表記される。

レンズを透過する光の量が多いほど、F値は小さくなり、シャッター速度を速くしたり、ボケを作ることができる。逆に、レンズを透過する光が少ないと、F値は大きくなり、ぼけにくい写真になる。光量を2倍にすることを「1段開ける」、1/2にすることを「1段絞る」という。

●絞り値（F値）によるボケの違い



一眼レフでは絞りを開けるほど、ピントの合う範囲（被写界深度）が狭まり、ボケを生かした写真を撮ることができる。そのレンズでいちばん開けられるF値を、開放F値と呼ぶ。

と。3:2と4:3が一般的。ハイビジョン動画は16:9で記録される。これはハイビジョンテレビのアスペクト比が16:9のために、テレビに映像を映した際に、隙間なく画面に表示できるようになっている。

撮像素子

撮像素子はレンズを通った光の強弱を読み取り、電気信号に変える場所。光は撮像素子で電気信号に変えられた後、映像エンジンで実際に色みが加えられて、完成した画像となる。CCDやCMOSは撮像素子の種類を差す。APS-Cは撮像素子のサイズの種類。

撮像素子がある部分。

画質モード・画像サイズ

デジカメは主にJPEGという形式で画像を保存する。そのデータの圧縮率を設定できるのが画質モード。圧縮率が低いほど画質がよくなるが、ファイルのサイズは大きくなる。3～4段階で設定できるのが主流。データの画素数を設定できるのが、画像サイズだ。

画素

画像を構成する最も小さい点のこと。ピクセルやドットともいわ

ファインダー視野率100%と80%の違い。視野率が高いと、撮影時にファインダー内では見えなかったものが、撮影後に写り込んでいた、ということがなくなる。

ファインダー視野率

多くのデジカメのファインダーは、実際に画像になる部分のすべてが見えているわけではない。その見える範囲を数値化したものをファインダー視野率といい、%で表す。

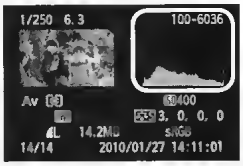
例えば、視野率80%のファインダーでは、実際に写る画像の80%しか見えない。この数値が高いほど正確なフレーミングができるが、視野率100%は上級機にしか搭載されていない。

フォーカスロック

オートフォーカス（AF）によるピント合わせ動作を一時的にストップさせる機能。AFロック、AFストップともいう。ピントが合った状態でシャッターボタンを押し込まず、シャッターボタンから指を離さなければ、フォーカスロック状態が維持され、フレーミングを調整できる。フォーカスロックを利用すれば、測距点のない場所にもピントを合わせられる。

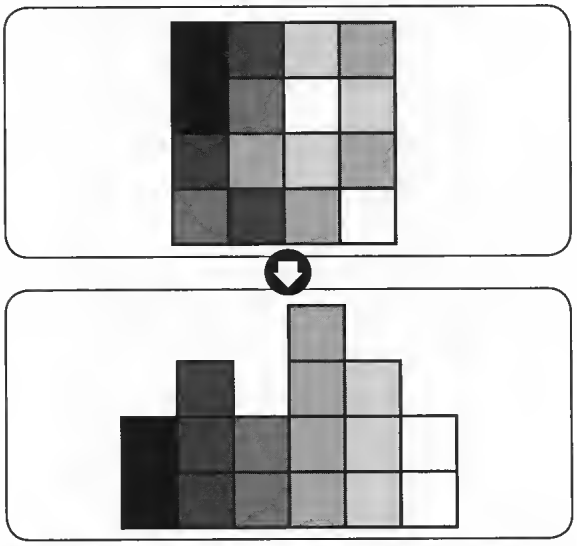
❶撮りたいものの構図をおおざっぱに決める。❷ピントを合わせたい場所に中央の測距点を合わせ、シャッターボタンを半押しにする。半押ししている間はピントが固定される。❸半押ししたままカメラを動かし、構図を決めたらシャッターボタンを押す。なお、フォーカスロックを利用する際は、AFフレーム選択を中央1点にする必要がある。

ヒストグラム



ヒストグラムは横軸が明るさ、縦軸がそれぞれの明るさの画素の数を表すグラフのこと。画面全体の明るさの傾向をつかむのに役立つほか、白とびや黒つぶれの有無もチェックできる。白とび部分を点滅などで表示する白とび警告機能と併用して、露出を決めるための目安として用いられる。

●ヒストグラムの仕組み

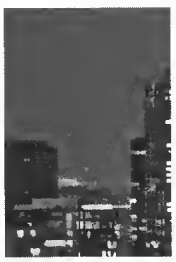


撮影した画像の4×4画素分を取り出し（図上）、各画素を写った明るさで積み上げ、順番に並べると図下のようになる。横軸が明るさ、縦軸がそれぞれの明るさの画素数となる。

れる。1800万画素のデジカメの場合、撮像素子上に1800万の画素が組み込まれている。

ノイズ

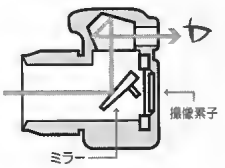
高感度撮影で発生する画質劣化の原因。一般的にISO感度（p104参照）を400以上で撮影することを高感度撮影と呼ぶが、高感度にすると、撮像素子が光を感じやすくなり、撮影に必要な光をすばやく集められる。ただし、カメラ内の光の感じ方に無理が生じ、画質が劣化してくる。



ノイズが出ると、写真がざらざらした印象になる。

ファインダー（光学式ファインダー）

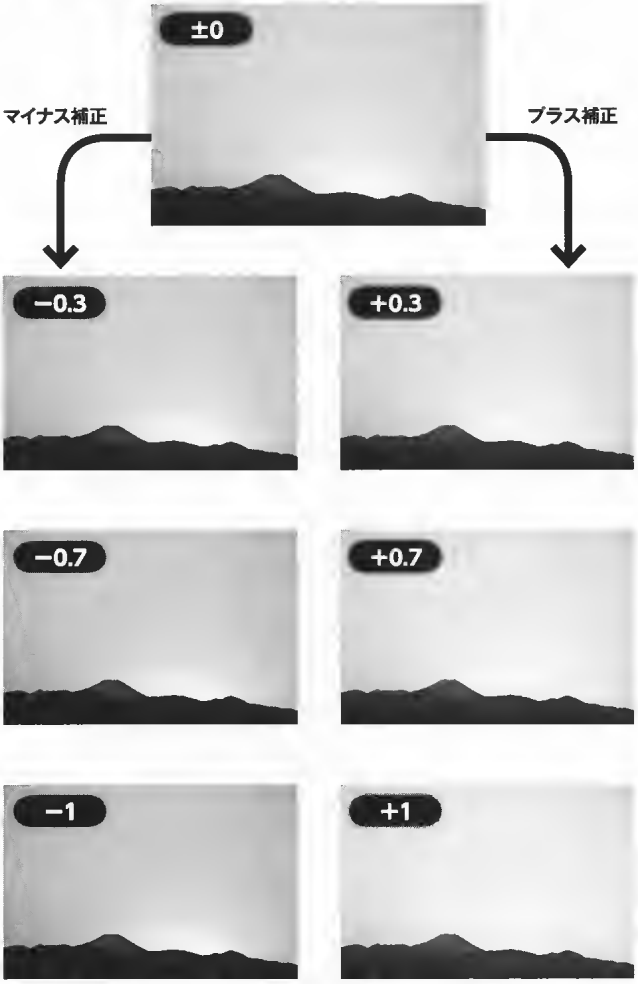
画面に写る範囲やピントを確認するためのぞき窓。レンズを通った光がレンズの後ろにあるミラーに反射して、ボディ上部のプリズムを通って目に届く。これを光学式ファインダーという。シャッターボタンを押すと同時に、レンズの後ろのミラーが跳ね上がり、光が撮像素



露出補正

カメラのＡＥ機能は、そのときの明るさに応じてF値やシャッター速度を調整し、適切な明るさになるように写してくれる。だが、撮れる写真は実際よりも明るすぎたり、暗すぎたりする場合がある。そのようなときは、露出補正を使い、画面の明るさを調整する。

●露出補正量による違い



どの明るさが正解ということは特になく、撮影者が好みの露出を選べばよい。

手ブレ補正

カメラを支える撮影者が静止していないことによって起きるものを手ブレという。

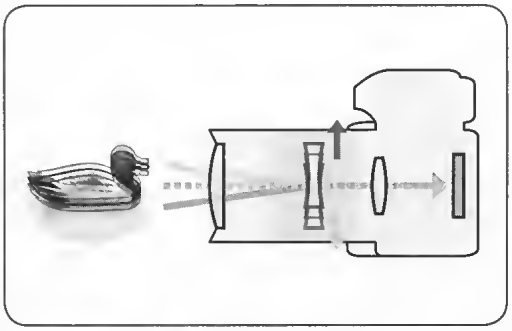
これを防いでくれる手ブレ補正には、カメラのボディ内に機構が内蔵されているものと、レンズに内蔵されているものの２種類がある。それぞれに一長一短があるため、一概にどちらの性能がよいと決めることはできない。

●手ブレ補正の方式の違い

レンズ内手ブレ補正

ブレを打ち消すようにレンズの(光学系の)一部が動く。そのため、撮影時にファインダーで手ブレ補正の効果が確認できるという特徴がある。手持ち撮影でも、ブレのない安定した画面でフレーミングすることが可能だ。ただし、補正効果は対応レンズでしか得られない。

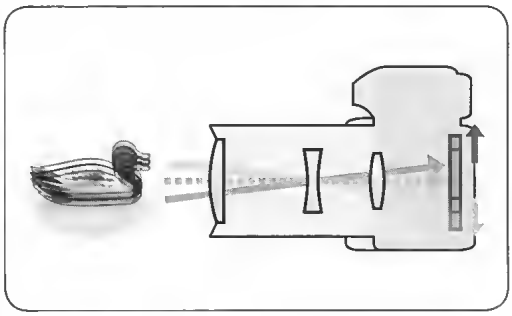
→キヤノン、ソニー、ニコン、パナソニック、シグマが採用



ボディ内手ブレ補正

ボディ内手ブレ補正では、イメージセンサーがブレを打ち消すように動く。そのため、基本的に装着できるすべてのレンズで補正効果が得られるというメリットがある。また、レンズが必要以上に大きくなることもない。ただし、撮影時に補正効果を確認することはできない。

→オリンパス、ソニー、ペンタックスが採用



ブレ
シャッター速度が遅いときなどに発生しやすいブレのうち、カメラを支える撮影者が静止していないことによって起きるものを手ブレという。撮影対象が動いてしまったことに起因するブレを被写体ブレという。

ライブビュー
液晶モニターに映像を表示しながら撮影できる機能。多くのデジタル一眼に搭載されている。ホワイトバランスや露出補正の設定が、液晶モニターの映像に反映されてわかりやすい。また、映像を拡大することができるので、ピントが合っているかを厳密に確認できるのもメリット。

レリーズタイムラグ
シャッターボタンを押し切ってから、実際にシャッターが切れるまでの時間の遅れのこと。通常は、シャッターボタン半押しでフォーカスロック状態からのタイムラグをいう。その遅れが短いほど、優秀とされる。

Illustrator File

イラストレーター紹介

「少女とカメラカタログ」に、素敵なカメラ少女を描きおろしていただいた、イラストレーターの方々をご紹介。現在所有しているデジタルカメラも教えていただきました。（あいうえお順。カバー、ピンナップを担当したイラストレーターは、9ページにて紹介しております）

P67 キヤノン パワーショット S95

文倉十

http://haino.mods.jp/

カメラと女の子、というテーマは以前から描きたいと思っていたもののーつでしたので、こういう場で描く機会をいただけてとても嬉しかったです。

<所有デジタルカメラ>
キヤノン PowerShot S90

P45 ニコン クールピクス S8000

甘塩コメコ

http://isudon.sakura.ne.jp/

参加させていただき、ありがとうございます！あえて露出度の低い冬ネタにしてみました（笑）。タイツ＋ミニスカは良いと思います。

<所有デジタルカメラ>
キヤノン PowerShot S50

P29 ニコン 0300s

緒方剛志

http://homepage.mac.com/ogata_kouji/.public/index.html

カメラ難しい。円筒形の塊をこれほど憎らしいと思ったのは初めてです（汗）

<所有デジタルカメラ>
適当なコンパクトデジタルカメラ数台と、ニコンD300 です。

P55 ペンタックス オプティオ W90

いるも晴章

http://irumo.vis.ne.jp/

実在のカメラを描く機会は滅多にないので、描いていて楽しかったです。描いているうちにこのカメラ（オプティオ W90）が欲しくなってしまいました。

<所有デジタルカメラ>
DMC-LX3 を使用しています。

P31 キヤノン EOS 5D マーク 2

INO

http://magloid.blog99.fc2.com/

この手の小型電子機器＋少女のイラストはジャンルとして面白いですね。工業デザインされたモノの存在感が女の子イラストに説得力を持たせてくれるってのは、ちょっとした発明かなと思います。

<所有デジタルカメラ>
キヤノン IXY DIGITAL 800 IS です。買ってずいぶん経ちますが、ほとんど不満が無いため買い換えてません。でもそろそろ一眼欲しい……。

P43 キヤノン IXY 400F

久坂宗次

http://hx.sakura.e.jp/~kusaka/

こんにちは、久坂宗次です。「デジキャバ」編集部の、デテールのチェックが細かかったです！

<所有デジタルカメラ>
キヤノンのＥＯＳ ５Ｄです！　フルサイズ最高ですよ！

P41 カシオ エクシリム EX- Z2000

片瀬優

http://katase.thick.jp/

もっとカメラをメインに持って行けなかったのか……など反省はありますが、楽しく描かせていただきました。ありがとうございました！

<所有デジタルカメラ>
実は今持ってないです。

P51 フジフイルム ファインピックス Z800EXR

尾崎弘宜

http://www.amato-pic.net/

デジカメはここ 10 年ずっと FinePix シリーズを使っています。特に最近の Z シリーズはかわいいデザインが多くてよいですね。良い画がとれる高級一眼レフにも惹かれるのですが、性格的にポケットに入れて出歩けるお手軽さをつい優先しちゃいます。

<所有デジタルカメラ>
フジフイルム FinePix Z250fd

P39 オリンパス ペン E-P2

JohnHathway

http://mots.jp

D70も使いこなせてない人間で恐縮です。しかし、ソリッド感のあるアイテムをフリーハンドで描くのは大好きです。

<所有デジタルカメラ>
ニコン D70。その他 Xactl などコンパクトデジタルカメラ多数。

P17 ニコン D5000

KEI

http://kei-garou.net/

前回の「ヘッドフォン少女読本」の時は参加できなかったので、今回参加できてよかったです。

<所有デジタルカメラ>
何年か前に買ったニコンの D40 をいまだに使ってます。

P53 ソニー サイバーショット WX5

黒鷲

http://www8.plala.or.jp/IDF/

一眼レフを持ってからというもの、写真を撮るのがこんなに楽しいと思っていなかったので、今回は携わらせていただきまして大変うれしく思っています！

<所有デジタルカメラ>
ニコン D90

P59 キヤノン パワーショット D10

田上俊介

http://www.geocities.jp/jhanome/

防水カメラは触った事がなかったのですが、今回描かせていただき、改めて水の中での撮影に興味が湧いております。あと、今回初めてＳＡＩでイラストの作成を致しました。ぶつけ本番で冷や冷やでしたが、なんとか塗り終えられました……。

<所有デジタルカメラ>
今は「YASHICA EZ F525」を使っております。トイカメラっぽい感じが好きなのです。ですが、外出時は持って歩いていることが少ないので、写真といえは携帯のカメラで撮ってしまうことが多いです（汗）

P33 パナソニック ルミックス GF1

双

http://sekitou.main.jp/

自分の持っているカメラだったので描きやすかったです。まだ一眼レフ初心者なのでこれを機会にもっと知れたらいいなと思います！

<所有デジタルカメラ>
パナソニック ルミックス GF1　ホワイト

P81 ヤシカ EZ F521

しろ

http://www.geocities.co.jp/AnimeComic-Cell/2860/

大好きなカメラということで、楽しくやらせていただきました、これでより多くの方が写真に興味をもっていただければうれしいです。

<所有デジタルカメラ>
ソニー α９００、ニコン　D80

P69 リコー GR デジタルⅢ

滝川悠

http://www.lovepockets.net/

使ったことのないカメラだったのですが、描いているうちに GR デジタルⅢへの興味がわいてきちゃったので、実際に触りに行きたくなりました。ちょうど新しくカメラを一台……と考えてたところなので、「カメラ少女日和」を読んで勉強してから買いに行こうと思いますっ。

<所有デジタルカメラ>
フジフイルム NATURA CLASSICA、フジフイルム FinePix F100fd、LOMO LC-A+

P83 ビビター ViviCam5050

高野音彦

http://icenotes.com/

先日部屋を掃除してたら、昔コンタックス T2 で撮った写真があかん記憶と共にもっさり出てきたんですが、やー、色がいいです。T2 すばらしい。久々に「フィルムで撮りたい！」と思いましたが、２秒後に「めんどくさい！」と思いました。かなしいことです。

<所有デジタルカメラ>
ペンタックス K200D + DA35（常用）、ビビター ViviCam 5050

P35 ソニー NEX-5

髙木信孝

http://homepage1.nifty.com/Mblem/

一眼レフ欲しいなと思いつつ幾年月。しかし、ここにきて拡充感のあるミラーレスも魅力的。これを機に、もうちょっと悩んだのち、購入したいなと思ってます。

<所有デジタルカメラ>
ソニー DSC-T700

P65 フジフイルム ファインピックス REAL 3D W3

七草

http://www.geocities.jp/sin793

カメラは難しいです。描くのも撮るのも。

<所有デジタルカメラ>
フジフイルム FinePix F200EXR

P79 ビスタクエスト VQ1015R2

長澤真

http://www.jasonworks.net/

自分で所持しているカメラだけに、苦労せずにシチュエーションが浮かびました。ハイスペックな機種とは違うデジカメの面白さを表すことができて楽しかったです。

<所有デジタルカメラ>
リコー R10、ビスタクエスト VQ1015 classic

P77 ライカ X1

TOKIAME

http://xel.skr.jp/tokiame/

カメラは写真を撮るのも空シャッターを切ってハァハァするのも好きなので、楽しかったです。次はフィルム機の本をゼヒトモ……。

<所有デジタルカメラ>
キヤノン KissDN、キヤノン KissX4、リコー GR Digital、エプソン R-01s、ライカ M8

P57 サンヨー ザクティ DMX-CA100

はら

http://harablog55.jugem.jp/

今回は「カメラ少女日和」に参加させていただき、ありがとうございました。楽しく描くことができました。普段あまりカメラを持ち歩いたりはしないのですが、このお仕事をキッカケに、何か新しいカメラが欲しいなぁと興味が湧きました。カメラを持って出歩きたいです。

<所有デジタルカメラ>
リコー Caplio R4 です。

P23 ソニー α 550

白亜右月

http://www7.big.or.jp/~hakua/

カメラの眼（写真）を資料にする事は多いですが、カメラそのものを描く機会は初めてです。僕は基本的にスナップ派なのでデジー眼は持っていませんが、それ故にゴツいカメラを構える少女妄想をフリキル事が出来ました。楽しかったです。

<所有デジタルカメラ>
リコー GR、リコー GRⅡ、オリンパス -PEN S、LOMO、Holga、VQ ほかトイデジカメ。

P47 パナソニック ルミックス FX70

ニリツ

http://nilitsu.jp

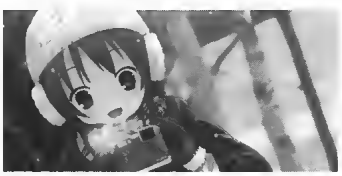
カメラということで、何を撮るシーンかという所から考えてみて、「そういえば友達同士とかで、レンズを自分たちに向けて撮ったりって結構カメラの用途としてあるよなあ」と思い、描きました。使う人や用途によって様々な形がある日用品だなと、カメラについて再確認したりしました。資料撮影用にそろそろ新しいの一台欲しいです。

<所有デジタルカメラ>
京セラ　FinacamS5R、オリンパス　FE-320

P49 オリンパス μ TOUGH-6020

方蜜

http://www.houmitsu.net/



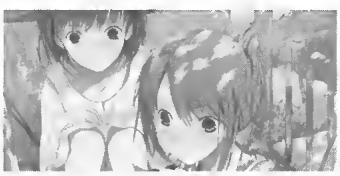
少女＋ガジェット最高です！　なんでこんなに萌えるんでしょう？

<所有デジタルカメラ>
コダック EasyShara V705、フジフイルム FinaPix F30

P15 ペンタックス K-x

ふゆの春秋

http://www.technofuyuno.squares.net/



カメラにかなりのエネルギーを注いで描いた結果、その他の部分もかなり引っ張られていつもは描けないような絵が描けました。楽しかったです。

<所有デジタルカメラ>
カシオ EXILIM EX-FH20

P75 シグマ DP2 s

緋色雪

http://mawn.jp

カメラなどのガジェット類をイラストに描くのはすごく好きなので、お声をかけていただいて嬉しかったです。

<所有デジタルカメラ>
ニコン　COOLPIX P5100、ソニー MHS-PM5K

P71 リコー GXR

珠月まや

http://www.mayamaya.info

以前より購入したかったのですが、今回のお仕事を機会にＧＸＲを購入しました。いいですよー。色々なカメラがどのように描かれるのか、大変楽しみにしております！　ありがとうございました!!

<所有デジタルカメラ>
ニコン Ｄ７ＤＤ、ニコン Ｄ４０、リコー ＧＸＲ、ビスタクエスト VQ1005 等

P21 キヤノン EOS Kiss X4

松本規之

http://www.kirindo.info/

風景をフレームで切り取ることにより意思を持った「絵」にする。それがカメラの最大の魅力と思います。自分も仕事がらカメラを記憶装置として、常に持ち歩いていたりします。旅行にいくと一日800 枚程度を撮るのですが、これだけ撮ると気がついたこと眼についたもの全てが手元に残るので、後から見返すとまた旅行にいった気持ちを追体験できるのがいいですね。

<所有デジタルカメラ>
ソニー CyberShot OSC-F828、ペンタックス istDS、オリンパス E-550、キヤノン G11

P85 ローライ ローライフレックス MiniDigi AF5.0

bomi

http://www012.upp.so-net.ne.jp/bom/

電化製品と女の子の組み合わせは好きなのでオファーいただけて嬉しかったです。また機会があれば描きたいです。

<所有デジタルカメラ>
ローライ ローライフレックスMiniDigi A F 5.0(REO)、パナソニック LUMIX DMC-GF1(BLACK) の２機種です。

P63 キヤノン パワーショット G11

ゆーげん

http://yuugen.hiyamugi.com/

実際の商品とのタイアップイラストは初めてでした。女の子とカメラという複数に焦点をあてる指定で、創意工夫ができ、楽しく作業を進めることが出来ました。また「ヘッドフォン少女」も拝見していたため、本企画でイラストを描く事が出来たのを嬉しく思っています。ありがとうございました。

<所有デジタルカメラ>
キヤノン A3100IS

P19 オリンパス E-620

皆村春樹

http://ts-web.dojin.com/black/

このような場で描かせていただきありがとうございます。"資料撮影用に買ったカメラ"を描くための資料とするために、カメラを撮影するという不思議な状態になりました。オリンパスのフラッグシップ機 E-3 の後継機が気になってます。手の出る値段だといいなあ。

<所有デジタルカメラ>
オリンパス　E-420

P25 ペンタックス K-7

碧風羽

http://www.geocities.jp/foomidori/

モチーフが現代の工業製品の場合、主に現実世界を舞台とすることとなると思いますが、それでも無国籍感を残して描かせていただきました。無国籍にもマッチする製品デザインは洗練されていて素晴らしいものだと思います。

<所有デジタルカメラ>
キョーセラさんの　FINECAM S3L というデジカメを長く使わせていただいています。

P37 パナソニック ルミックス G2

煉瓦

http://renga.jugem.cc/

お気に入りのカメラ、に近い機種を描かせていただいて楽しかったです。が、「あー旧型になったなあ」というのは切なかったです……。

<所有デジタルカメラ>
パナソニック GH1、ソニー Cybershot OSC-HX5、フジフイルム FinePix REAL 3D W1 ほかコンデジ多数。最古のはデザインがボルシェデザインだった、フジフイルム FinePix6800Z と記憶媒体がフロッピーディスクのソニー Digital Mavica　MVC-FD71 です。

P27 キヤノン EOS 7D

refeia

http://q-orbit.jp/

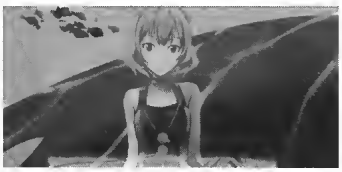
ちょっといかついカメラ+少女の、ちょっとミスマッチでミステリアスなイメージは大好きです。参加できてよかったです。

<所有デジタルカメラ>
オリンパス E-30、パナソニック DMC-GH1

P61 ニコン クールピクス S1100pj

rato

http://ap.chobi.net/



カメラも写真を撮るのも好きなので、楽しんで仕事できました。

<所有デジタルカメラ>
ニコン 040、カシオ EXILIM EX-S770

カメラ少女日和

Girls with Cameras/A Pictorial Book

発行日　2010年10月12日　初版発行

発行人　土屋俊介
編集人　脇谷典利
編集長　安福一郎
発行所　株式会社学研パブリッシング
〒141−8510
東京都品川区西五反田2−11−8
発売元　株式会社学研マーケティング
〒141−8510
東京都品川区西五反田2−11−8
印刷所　凸版印刷株式会社
©GAKKEN 2010 Printed in Japan

STAFF

Editor
Megami magazine … 渡部晋一（チーフ）
デジキャパ … 佐川智康（編集長）／尾島信一（副編集長）／池田英一／河野弘道／田辺 裕
清水　晃（MediaSunlights）
Cover Design
宮村和生（5GAS）
Designer
竹内康人（VENUE）／中原浩（grandhead）／原田忠恒（SUNPLANT）／渡部ひろし
DTP
株式会社　明昌堂

●この本の編集内容に関するお問い合わせは、
（株）学研パブリッシングメガミマガジン編集部（電話 03-6431-1504）までお願いいたします。
●在庫・不良品（乱丁・落丁等）に関することは、出版販売部（電話 03-6431-1201）まで。
●それ以外の学研商品に関するお問い合わせは以下までお願いします。
［学研お客様センター『カメラ少女日和』係］
文書は　〒141-8510
東京都品川区西五反田 2-11-8
電話は　03-6431-1002
●ご注文は、お近くの書店様へお願いいたします。
●無断転載・複製・翻訳を禁じます。
●乱丁・落丁はお取替えいたします。
●本書は製版フィルムを使用しないCTP方式で印刷しました。